

# 分布調査報告書(20)

1993年

山形県教育委員会

# 分布調査報告書 (20)

平成4年度以降農林土木事業他関係遺跡

国営農地開発事業鳥海南麓地区関係遺跡

東北横断自動車道酒田線関係遺跡

平成5年3月

山形県教育委員会

## 序

本書は山形県教育委員会が平成4年度に実施した、遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものです。

近年の開発事業の増加に伴い、地下に埋もれた埋蔵文化財との関わりも増加する傾向にあります。

埋蔵文化財は本来土地に密着したものであり貴重な国民的財産であります。その保護にあたっては、国民がその特性を十分認識し、周到な注意をもって対処することに努めなければなりません。

山形県教育委員会では「心広くたくましい県民の育成」と地域文化の環境作りという立場から、「今後とも県民生活の向上を目的とした地域社会の整備と調整をはかりながら」埋蔵文化財の保護に努力を続けていく所存であります。

本書が埋蔵文化財に対する保護思想の普及もかねまして、皆様のご理解の一助となれば幸いと存じます。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただきました関係各位をはじめ地元のかたがたに心から感謝申し上げます。

平成5年3月

山形県教育委員会教育長 木場清耕

## 例 言

- 1 本書は、平成4年度に山形県教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成4年度以降農林土木事業関係遺跡他に関する遺跡詳細分布調査の報告書である。
- 2 調査及び報告書の作成は、山形県教育庁文化課の佐々木洋治・佐藤庄一・野尻 侃・佐藤正俊・名和達朗・渋谷孝雄・阿部明彦・長橋 至・安部 実・高橋 直・黒坂雅人・斎藤主税・須賀井新人・眞壁 建・渡辺俊一・檀松暁彦の16名が担当した。
- 3 本書の編集は、渋谷孝雄、安部 実が担当し、全体については佐々木洋治が総括した。
- 4 第1章に遺跡一覧、第2章に個々の遺跡の内容を記した。新規発見遺跡、抹消遺跡、範囲、位置、名称の変更については、本書の発行をもって周知されたものとみなす。
- 5 挿図の縮尺は不統一であり、その都度各々にスケールを示した。遺跡位置図は国土地理院発行の2万5千分の1の地図を使用し、第2章以下については、これをさらに縮尺して使用した。遺跡地名表の番号は当該事業内の位置図の番号に一致する。  
図版内の遺物の縮尺は各図版内に記した。  
挿図及び文中の記号は、黒丸、T、TT、TP—試掘地点、赤丸—遺構・遺物検出地点、RP—土器、SB—掘立柱建物跡、SE—井戸跡、SK—土壌、SD—溝を示す。土器実測図で断面白ヌキは縄文土器、土師器、点描は赤焼土器、黒ベタは須恵器を示す。
- 6 調査にあたっては、各関係機関、市町村教育委員会及び地元関係者のご協力を得た。ここに記して感謝申し上げます。

# 目 次

I 調査の目的、方法と経過	
1 調査の目的、方法	1
2 調査の経過	1
II 調査の概要	
1 調査遺跡地名表	6
(1) 県営ほ場整備事業関係遺跡	6
(2) 県営かんがい排水事業、農道整備事業他関係遺跡	10
(3) 東北横断自動車道関係遺跡	14
(4) 国道・県道建設改良工事関係	20
(5) 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡	34
2 試掘調査の概要	
(1) 山海窯跡群J地区	38
(2) 鷹尾山遺跡	40
(3) 嶽の腰2遺跡	42
(4) 嶽の腰3遺跡	44
(5) 嶽の腰4遺跡	46
(6) 石橋台1遺跡	48
(7) 石橋台2遺跡	50
(8) 石橋台3遺跡	52
(9) 物見森1遺跡	54
(10) 物見森2遺跡	56
(11) 物見森3遺跡	58
(12) 物見森4遺跡	60
(13) 西谷地遺跡	62
(14) 西田面遺跡	64
(15) 西ノ川遺跡	66
(16) 上山崎遺跡	68
(17) 升川遺跡	70
(18) 地藏田遺跡	72
(19) 野瀬遺跡	74
(20) 木原遺跡	76
(21) 小山崎遺跡	78
(22) 舟森遺跡	80
(23) 北目長田遺跡	82
(24) 橋待遺跡	84
(25) 木戸下遺跡	86
(26) 上高田遺跡	88
(27) 宮の前遺跡	90
(28) 松原遺跡	92
(29) 家根合遺跡	94
(30) 弓張平H遺跡	96
(31) 弓張平O遺跡	98
(32) 塔の腰遺跡	102
(33) 柳沢A遺跡	104
(34) 高瀬山遺跡群	106
(35) 山居遺跡	110
(36) 清水脇2遺跡	112
(37) 新町後遺跡	114
(38) 岡ノ台遺跡	116
(39) 市野々向原遺跡	118
(40) 野向遺跡	120
(41) 小豆澤館跡	122
(42) 宮下遺跡	124
(43) 黒藤館跡	126
(44) 向名高遺跡	128
(45) 津谷遺跡	130
(46) 押切遺跡	132
(47) 八幡2遺跡	134

(48) お仲間林遺跡	136	(6) 野瀬遺跡	169
(49) 河原田遺跡	142	(7) 上屋地A遺跡	177
3 記録保存調査、立会い調査の概要		(8) 龍ヶ嶽遺跡	180
(1) 高島城跡	144	(9) 大坪遺跡	184
(2) 東千作遺跡	148	III まとめ	
(3) 石田遺跡	158	1 新規発見遺跡	186
(4) 宅田遺跡	162	2 範囲、位置、名称の訂正を 要する遺跡	187
(5) 宮ノ下遺跡	164		

附表—1 調査工程表

附表—2 平成4年度分布調査遺跡一覧

## 挿 図 目 次

<p>第1図 県営ほ場整備事業関係遺跡位置図 (1) .....6</p> <p>第2図 県営ほ場整備事業関係遺跡位置図 (2) .....8</p> <p>第3図 県営かんがい排水事業、農道整備 事業他関係遺跡位置図 (1).....10</p> <p>第4図 県営かんがい排水事業、農道整備 事業他関係遺跡位置図 (2).....11</p> <p>第5図 県営かんがい排水事業、農道整備 事業他関係遺跡位置図 (3).....12</p> <p>第6図 東北横断自動車道酒田線建設工事 関係遺跡位置図 (1).....14</p> <p>第7図 東北横断自動車道酒田線建設工事 関係遺跡位置図 (2).....15</p> <p>第8図 東北横断自動車道酒田線建設工事 関係遺跡位置図 (3).....16</p> <p>第9図 東北横断自動車道酒田線建設工事 関係遺跡位置図 (4).....17</p> <p>第10図 国道、県道建設、改良工事関係遺 跡位置図 (1).....24</p> <p>第11図 国道、県道建設、改良工事関係遺 跡位置図 (2).....25</p> <p>第12図 国道、県道建設、改良工事関係遺 跡位置図 (3).....26</p> <p>第13図 国道、県道建設、改良工事関係遺 跡位置図 (4).....27</p> <p>第14図 河川改修、砂防、水道事業関係遺 跡位置図 (1).....34</p> <p>第15図 河川改修、砂防、水道事業関係遺 跡位置図 (2).....35</p>	<p>第16図 河川改修、砂防、水道事業関係遺 跡位置図 (3).....36</p> <p>第17図 山海寮跡群J地点遺跡概要図...38</p> <p>第18図 鷹尾山遺跡概要図.....40</p> <p>第19図 嶽の腰2遺跡概要図.....42</p> <p>第20図 嶽の腰3遺跡概要図.....44</p> <p>第21図 嶽の腰4遺跡概要図.....46</p> <p>第22図 石橋台1遺跡概要図.....48</p> <p>第23図 石橋台2遺跡概要図.....50</p> <p>第24図 石橋台3遺跡概要図.....52</p> <p>第25図 物見森1遺跡概要図.....54</p> <p>第26図 物見森2遺跡概要図.....56</p> <p>第27図 物見森3遺跡概要図.....58</p> <p>第28図 物見森4遺跡概要図.....60</p> <p>第29図 西谷地遺跡概要図.....62</p> <p>第30図 西田面遺跡概要図.....64</p> <p>第31図 西ノ川遺跡概要図.....66</p> <p>第32図 上山崎遺跡概要図.....68</p> <p>第33図 升川遺跡概要図.....70</p> <p>第34図 地藏田遺跡概要図.....72</p> <p>第35図 野瀬遺跡概要図.....74</p> <p>第36図 木原遺跡概要図.....76</p> <p>第37図 小山崎遺跡概要図.....78</p> <p>第38図 舟森遺跡概要図.....80</p> <p>第39図 北目長田遺跡概要図.....82</p> <p>第40図 楯待遺跡概要図.....84</p> <p>第41図 木戸下遺跡概要図.....86</p> <p>第42図 上高田遺跡概要図.....88</p> <p>第43図 宮の前遺跡概要図.....90</p> <p>第44図 松原遺跡概要図.....92</p>
--	---

第45図	家根合遺跡概要図	94	第74図	東千作遺跡概要図	148
第46図	弓張平H遺跡概要図	96	第75図	東千作遺跡検出遺構平面図(1)他	149
第47図	弓張平H遺跡遺物分布・断面図	97	第76図	東千作遺跡検出遺構平面図	
第48図	弓張平O遺跡概要図	98	(2)他	150	
第49図	弓張平O遺跡遺物分布・断面図	99	第77図	東千作遺跡出土土器拓影図	
第50図	塔の腰遺跡概要図	102	(1)	152	
第51図	柳沢A遺跡概要図	104	第78図	東千作遺跡出土土器拓影図	
第52図	高瀬山遺跡群位置図	106	(2)	153	
第53図	高瀬山遺跡群概要図	107	第79図	石田遺跡概要図	158
第54図	山居遺跡概要図	110	第80図	石田遺跡遺構配置図	159
第55図	清水脇2遺跡概要図	112	第81図	石田遺跡S B 1平面図他	160
第56図	新町後遺跡概要図	114	第82図	宅田遺跡概要図	162
第57図	岡ノ台遺跡概要図	117	第83図	宅田遺跡南トレンチ検出遺構	163
第58図	市野々向原遺跡概要図	118	第84図	宮ノ下遺跡概要図	164
第59図	野向遺跡概要図	120	第85図	宮ノ下遺跡検出井戸跡	165
第60図	小豆澤館跡概要図	122	第86図	宮ノ下遺跡遺構配置図、出土土器	
第61図	宮下遺跡概要図	124	突測図	166	
第62図	黒藤館跡概要図	126	第87図	野瀬遺跡概要図	169
第63図	向名高遺跡概要図	128	第88図	野瀬遺跡検出遺構	171
第64図	津谷遺跡概要図	130	第89図	野瀬遺跡出土土器(1)	173
第65図	押切遺跡概要図	132	第90図	野瀬遺跡出土土器(2)	174
第66図	八幡2遺跡概要図	134	第91図	上屋地A遺跡概要図	177
第67図	お仲間林遺跡概要図	136	第92図	上屋地A遺跡遺物分布図、土層断面図	179
第68図	お仲間林遺跡遺物分布図(1)	137	第93図	龍ヶ嶽遺跡概要図	180
第69図	お仲間林遺跡遺物分布図(2)	138	第94図	龍ヶ嶽遺跡出土土器拓影図	182
第70図	河原田遺跡概要図	142	第95図	大坪遺跡概要図	184
第71図	高島城跡概要図	144	第96図	大坪遺跡検出遺構	185
第72図	高島城跡検出遺構平面図他	145			
第73図	高島城跡S D 1出土遺物	146			

## 図版目次

図版1 県営ほ場整備事業関係遺跡 (1).....7	図版16 国道、県道建設、改良事業関係遺跡(5).....32
図版2 県営ほ場整備事業関係遺跡 (2).....8	図版17 国道、県道建設、改良事業関係遺跡(6).....33
図版3 県営ほ場整備事業関係遺跡 (3).....9	図版18 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡(1).....36
図版4 県営ほ場整備事業関係遺跡 (4).....10	図版19 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡(2).....37
図版5 県営ほ場整備事業関係遺跡 (5).....11	図版20 山海窯跡群J地区.....39
図版6 県営かんがい排水事業、農道整備事業他農林事業関係遺跡(1).....12	図版21 鷹尾山遺跡.....41
図版7 県営かんがい排水事業、農道整備事業他農林事業関係遺跡(2).....13	図版22 嶽の腰2遺跡.....43
図版8 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡(1).....18	図版23 嶽の腰3遺跡.....45
図版9 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡(2).....19	図版24 嶽の腰4遺跡.....47
図版10 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡(3).....20	図版25 石橋台1遺跡.....49
図版11 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡(4).....21	図版26 石橋台2遺跡.....51
図版12 国道、県道建設、改良事業関係遺跡(1).....28	図版27 石橋台3遺跡.....53
図版13 国道、県道建設、改良事業関係遺跡(2).....29	図版28 物見森1遺跡.....55
図版14 国道、県道建設、改良事業関係遺跡(3).....30	図版29 物見森2遺跡.....57
図版15 国道、県道建設、改良事業関係遺跡(4).....31	図版30 物見森3遺跡.....59
	図版31 物見森4遺跡.....61
	図版32 西谷地遺跡.....63
	図版33 西田面遺跡.....65
	図版34 西ノ川遺跡.....67
	図版35 上山崎遺跡.....69
	図版36 升川遺跡.....71
	図版37 地藏田遺跡.....73
	図版38 野瀬遺跡.....75
	図版39 木原遺跡.....77
	図版40 小山崎遺跡.....79
	図版41 舟森遺跡.....81

図版42	北目長田遺跡	83	図版68	八幡2遺跡	135
図版43	機待遺跡	85	図版69	お仲間林遺跡(1)	139
図版44	木戸下遺跡	87	図版70	お仲間林遺跡(2)	140
図版45	上高田遺跡	89	図版71	お仲間林遺跡(3)	141
図版46	宮の前遺跡	91	図版72	河原田遺跡	143
図版47	松原遺跡	93	図版73	高島城跡(1)	146
図版48	家根合遺跡	95	図版74	高島城跡(2)	147
図版49	弓張平H遺跡	97	図版75	東千作遺跡(1)	154
図版50	弓張平O遺跡(1)	100	図版76	東千作遺跡(2)	155
図版51	弓張平O遺跡(2)	101	図版77	東千作遺跡(3)	156
図版52	塔の腰遺跡	103	図版78	東千作遺跡(4)	157
図版53	柳沢A遺跡	105	図版79	石田遺跡(1)	159
図版54	高瀬山遺跡群	109	図版80	石田遺跡(2)	161
図版55	山居遺跡	111	図版81	宅田遺跡	163
図版56	清水脇2遺跡	113	図版82	宮ノ下遺跡(1)	167
図版57	新町後遺跡	115	図版83	宮ノ下遺跡(2)	168
図版58	岡ノ台遺跡(1)	116	図版84	野瀬遺跡(1)	170
図版59	岡ノ台遺跡(2)	117	図版85	野瀬遺跡(2)	172
図版60	市野々向原遺跡	119	図版86	野瀬遺跡(3)	175
図版61	野向遺跡	121	図版87	野瀬遺跡(4)	176
図版62	小豆澤館跡	123	図版88	上屋地A遺跡(1)	178
図版63	宮下遺跡	125	図版89	上屋地A遺跡(2)	179
図版64	黒藤館跡	127	図版90	龍ヶ嶽遺跡(1)	181
図版65	向名高遺跡	129	図版91	龍ヶ嶽遺跡(2)	183
図版66	津谷遺跡	131	図版92	大坪遺跡	185
図版67	押切遺跡	133			

# I 調査の目的、方法と経過

## 1 調査の目的、方法

本調査は、平成5年度以降に実施予定となる開発計画等に先行して、埋蔵文化財包蔵地（遺跡）の詳細な分布調査を行い、遺跡の所在、範囲、性格を明らかにし、開発計画との調整をとって、遺跡の保護を図ることを目的とした。なお、一部、前年度の調査結果に基づき、記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査も実施した。

調査は、その目的によって、以下の方法で実施した。

### (1) A調査（現地確認調査・表面踏査）

開発事業計画範囲内の表面踏査を行い、遺跡の範囲と事業実施計画区域の平面的な関係を確認し、遺跡の保護を図ることを目的とする。

### (2) B調査（試掘調査）

坪掘りやトレンチ掘りを行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や、遺構確認面までの深さ等を把握して、開発事業計画との調整をとって遺跡の保護を図ることを目的とする。

### (3) C調査（記録保存のための発掘調査）

A・B調査の結果、遺跡の保存状態が良好でない場合や、開発事業にかかる面積が狭い場合や接する場合に、必要に応じて実施する記録保存の調査。方法は発掘調査に準ずる。

### (4) 立会い調査

開発事業による遺跡への影響が軽微な場合、工事施工に立ち会って実施する調査。この調査によって、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う。

## 2 調査の経過

山形県教育委員会では、毎年6～7月に開発関係各機関に、今後の事業計画についての照会を行い、その回答を受けて、8月下旬にヒアリングを実施し、事業計画と埋蔵文化財包蔵地との関係について検討を行っている。そして、この結果に基づいて、必要に応じて分布調査を実施し、事業との調整を図っている。そのほか、開発関係各機関から提出された埋蔵文化財分布調査依頼に基づく調査も随時行っている。今年度の調査は、平成4年4月20日から平成4年12月22日まで表-1の工程で、表-2に示した各遺跡の調査を実施した。なお、今年度新規登録した遺跡、抹消した遺跡、位置、範囲、遺跡名の訂正した遺跡は3章のまとめに示した。

附表-1 調査工程表

調査区分	平成4年												平成5年 1~3月
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				
A													
B													
C 立寄し													
B													
A													
B													
(5) 報告書作成													

附表-2 平成4年分布調査遺跡一覧

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分					
				A	B	C	立会い		
1	県営ほ場整備事業	下川地区	西谷地遺跡	○	○				
		〃	西田面遺跡		○				
		〃	西ノ川遺跡	○	○				
		〃	八幡田遺跡	○					
		〃	月光川上流地区	石田遺跡				○	
		〃	〃	宅田遺跡				○	
		〃	〃	金平B遺跡				○	
		〃	月光川下流地区	上高田遺跡		○			
		〃	〃	木戸下遺跡		○			
		〃	〃	木原遺跡		○			
		〃	高瀬川地区	上山崎遺跡		○		○	
		〃	〃	地藏田遺跡		○			
		〃	〃	宮ノ下遺跡		○		○	
		〃	〃	北目長田遺跡		○			
		〃	〃	野瀬遺跡		○		○	
		〃	〃	橋待遺跡		○			
		〃	富並地区	宮の前遺跡		○			
		2	県営かんがい排水事業	洗沢川地区	升川遺跡		○		
				〃	目倉神遺跡		○		
				〃	舟森遺跡		○		
〃	小山崎遺跡				○				
〃	柳久瀬遺跡			○					
〃	〃			柳久瀬館塚	○				
〃	〃			柳久瀬経塚	○				
〃	鶴田野地区			長者屋敷遺跡	○				
〃	〃			鶴田野遺跡	○				
〃	〃			鶴田野2遺跡	○				
〃	〃	弥左衛門橋遺跡	○						
〃	〃	古問屋1・2遺跡	○						
3	農免農道整備事業	月光川地区	下山遺跡		○				
		〃	地藏田遺跡				○		
		〃	大坪遺跡				○		
4	農村集落排水事業	山屋地区	山屋櫛遺跡	○					
		刈穂地区	郷崎遺跡		○				
5	農免農道整備事業	寺坂東地区	長峰遺跡		○				
		米沢南部3期	下原a遺跡	○					
		羽黒南部地区	一本松A遺跡		○				
		余目南部2期	家根合遺跡		○				
5	畜産試験場移転整備事業	米沢南部2期	松原遺跡		○				
		芦沢放牧場	南野B・C遺跡		○				

	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分			
				A	B	C	立会い
6	国営農地開発事業(烏海南麓地区)	鷹尾山工区	鷹尾山遺跡		○		
	〃	南の前田工区	姥ヶ沢1遺跡		○		
	〃	嶽の腰(1)工区	嶽の腰2～4遺跡		○		
	〃	草津工区	石橋台1～3遺跡		○		
	〃	〃	物見森1～4遺跡		○		
7	東北横断自動車道酒田線建設	山楯工区	山海窟跡群J		○		
	〃	朝日～酒田間	柳沢A遺跡	○	○		
	〃	〃	獅子岩城跡	○	○		
	〃	〃	漆原遺跡	○	○		
	〃	〃	天王原遺跡	○	○		
	〃	〃	三ヶ水口遺跡	○	○		
	〃	〃	塔の腰遺跡	○	○		
	〃	寒河江～月山沢間	高瀬山遺跡群		○		
	〃	〃	山居遺跡		○		
	〃	〃	小林I・II遺跡		○		
	〃	〃	月岡台ノ倉榎跡	○			
	〃	〃	横嶋榎榎跡	○			
	〃	〃	石倉館跡	○			
	〃	〃	水沢館跡	○			
	〃	〃	綱取館跡	○			
8	一般国道13号山形北バイパス	五十沢地区	清水脇遺跡		○		
	一般国道47号新庄南バイパス	最上町～新庄市間	新町後遺跡		○		
	国道121号館山バイパス	徳町～窪田町地内	荒川遺跡	○			
	〃	〃	荒川2遺跡	○			
	国道287号凍雪害防止	佐野原地内	赤土場遺跡				○
	〃	〃	東千作遺跡				○
	国道287号道路改良	畔藤バイパス	岡ノ台遺跡	○	○		
	〃	〃	社裏遺跡	○	○		
	〃	〃	上ノ山遺跡	○			
	〃	〃	大隅遺跡	○			
	〃	〃	大沼向遺跡	○			
	国道345号道路改良	鬼坂工区	菅野代A遺跡	○	○		
	〃	〃	菅野代B遺跡	○			
	〃	飛鳥工区	徳田山遺跡	○			
	〃	鶴岡南工区	天王原遺跡	○			
	〃	〃	塔の腰遺跡	○			
	国道347号道路改良	大久保バイパス	水口遺跡	○			
〃	〃	高崖遺跡	○				
〃	〃	西浦遺跡	○				
〃	〃	西浦遺跡	○				
国道399号特改一種	尾花沢バイパス	大導寺遺跡	○				
		高畠城跡				○	

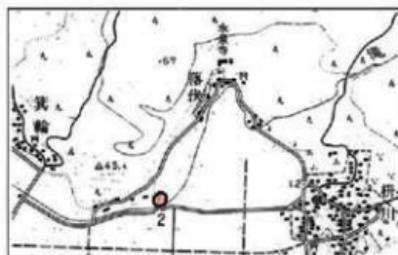
	事業名	事業地区名	遺跡名	調査区分				
				A	B	C	立会	
9	一般県道中野七浦線(橋梁整備)	足野水地区 山崎工区 畔藤地区	天神遺跡	○				
	一般県道砂子沢小又釜淵(停)線		小川内遺跡	○				
	一般県道京塚置賜停車場線		上小菅遺跡	○				
	一般県道梨郷赤湯停車場線		六角壇遺跡	○				
	一般県道梨郷赤湯停車場線		古屋敷遺跡	○				
	一般県道下新田土尾線		龍ヶ嶽遺跡	○	○		○	
	一般県道橋下高島線		宮下遺跡	○	○			
	一般県道南陽白鷹線		黒藤館跡	○	○			
	一般県道福寿野熊高線		大浦台遺跡	○	○			
	主要地方道山形天童線		押切遺跡	○	○			
	〃	〃	柏木遺跡	○				
	〃	〃	古井戸遺跡	○				
	主要地方道新庄戸沢線	久野本地区	向名高遺跡		○			
	〃		津谷遺跡		○			
	主要地方道新庄次年子村山線		仁間磯の沢地内	外久保遺跡			○	
	〃		富長橋橋梁整備	稲場遺跡	○			
	主要地方道天童中山大江線		最上橋	川口原遺跡	○			
主要地方道大江西川線道路改良			滝ノ沢遺跡	○				
〃			梨ノ木原遺跡	○				
主要地方道米沢猪苗代線	上屋地地内	坂下遺跡	○					
主要地方道川西小国線道路改良		上屋地A遺跡	○			○		
〃	〃	上屋地B遺跡	○					
主要地方道酒田鶴岡線	下川工区	八幡田遺跡	○					
〃	〃	西谷地遺跡	○	○				
〃	〃	西ノ川遺跡	○					
主要地方道余目温海線	越中山工区	野新田遺跡	○					
〃(橋梁整備)		欠の上遺跡	○					
主要地方道長井白鷹線	山口地区	八幡2遺跡	○	○				
〃		蚕桑畑中遺跡	○					
10	横川ダム建設工事		市野々向原遺跡		○			
	〃		野向遺跡		○			
	長井ダム建設工事		小豆澤館跡	○	○			
11	大且川中小河川改修	村山市河島地区	八反福干原遺跡		○			
	掘立川消流雪用水導入		窪遺跡	○				
〃	最上川下流小規模河川改修事業		八木橋a・b遺跡		○			
12	最上川水系寒河江川直轄砂防事業	長井市西根地区 白鷹町小山沢地区	お仲間林遺跡	○	○			
	岩ヶ沢荒廃砂防事業ダム工事		梶平B遺跡	○				
	耳堂川荒廃砂防事業ダム工事		中丸遺跡	○				
13	都市計画公園事業弓張平公園		弓張平H遺跡		○			
	〃		弓張平O遺跡		○			
14	住宅団地分譲事業	今塚地区	河原田遺跡		○			

## II 調査の概要

### 1 調査遺跡地名表

#### (1) 県営ほ場整備関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	包蔵地	釜 塚 B	飽海郡遊佐町大字吉出字金平28他	平安時代	平地 (36m)	水田
2	散布地	白 倉 神	飽海郡遊佐町大字直世字目倉神六番割	平安時代	平地 (4.5m)	宅地 畑地
3	散布地	柳 久 瀬 A	東田川郡藤島町大字柳久瀬 他	平安時代	平地 (16m)	水田 畑地
4	館跡	柳 久 瀬 館	東田川郡藤島町大字柳久瀬そぶ田24	室町時代	平地 (16m)	神社境内
5	経塚	柳 久 瀬 経塚	東田川郡藤島町大字柳久瀬そぶ田24	江戸時代	平地 (16m)	神社境内
6	散布地 橋跡	長 倉 屋 敷	最上郡鮭川村佐渡字東山	縄文時代 中世	山麓 (85m)	水田
7	散布地	鶴 田 野	最上郡鮭川村川口字鶴田野	縄文時代 平安時代	段丘 (79m)	畑地 宅地
8	散布地	鶴 田 野 2	最上郡鮭川村川口字鶴田野	縄文時代	段丘 (75m)	畑地 水田
9	橋跡	赤 左 衛 門 橋	最上郡鮭川村川口字鶴田野	中世	段丘 (75m)	山林
10	散布地	吉 尚 屋	最上郡鮭川村川口字古間屋	縄文時代	段丘 (75m)	畑地
11	散布地	吉 尚 屋 2	最上郡鮭川村川口字古間屋	縄文時代	段丘 (70m)	畑地



第1図 県営ほ場整備事業関係遺跡位置図(1)

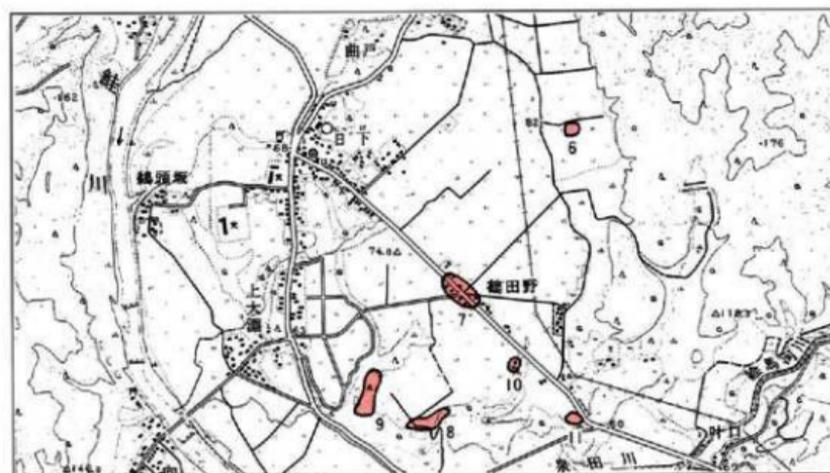
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
原営ほ場整備事業の実地に先立ち、立会調査を実施したが、昭和30年代からの砂利採取により、遺跡は破壊されたことが明らかとなった。	赤焼土器破片	No2136 平成4年7月27日県 教委立会い調査実施
原営ほ場整備事業の計画に伴って遺跡推定範囲の東側一帯を試掘調査したが、調査地点までは遺跡のひろがりは認められなかった。	赤焼土器破片	No2239 平成4年10月22日県 教委試掘調査実施
藤島川左岸の自然堤防上に立地し、水田上や水路、畦畔上に遺物の散布が認められる。東西40m、南北140mの範囲である。	赤焼土器・急須器	平成4年度登録。
藤島川左岸の柳久瀬集落の中心部福田寺境内を囲むように土塁と考えられる土盛りが確認された。内部は寺社建設で整地されている。		No1755
藤島川左岸の柳久瀬集落の中心部福田寺境内に存在する。「天保五年甲丑年九月初四日」銘の経塔が建立されている。		No1754
傾斜変換線に近い山麓部に位置し、開田以前は、土塁等が方形に巡っていたと伝えられる。また、内部の畑地から遺物が採集できたという。		No1045
やや小高い景観を示す上位の段丘縁辺に遺物の散布が認められる。	石器剥片 須恵器破片 土師器破片	No1054
段丘南縁の開田化されずに残った畑地部分にややまとまった遺物の散布が認められる。	石鏡・銅片	平成4年度登録
段丘上面の平場は開田のため削平されて壊滅状態と考えられる。裾跡は段丘端部の西縁と南縁のごく一部分が残るのみとなっている。		中世城館跡調査により、藤川村教育委員会調査実施。
宅地西側を中心にした畑地に、縄文時代の石器剥片がまとまって散布している。	石器剥片	平成4年度登録
南東方向に張り出す段丘端部の先端に若干の遺物散布が認められる。しかし、すでに開田が進んでおり、大方は破壊されたと考えられる。	縄文土器・銅片	平成4年度登録



金平B遺跡近景（西から）



目倉神遺跡近景（西から）



第2図 県営ほ場整備事業関係遺跡(2)



柳久瀬遺跡近景(東から)



柳久瀬遺跡採取遺物(1/2)

図版2 県営ほ場整備関係遺跡(2)



柳久瀬橋跡土塁（南から）



経塚建立碑



弥左衛門橋跡近景（東から）



長者屋敷遺跡遠景（西から）



鶴田野遺跡近景（北から）



鶴田野遺跡採取遺物（1/2）



鶴田野2遺跡近景（南から）



鶴田野2遺跡採取遺物（1/2）



古間屋1遺跡近景(東から)

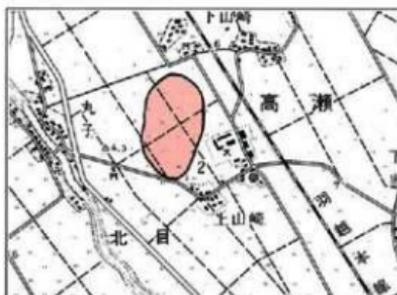
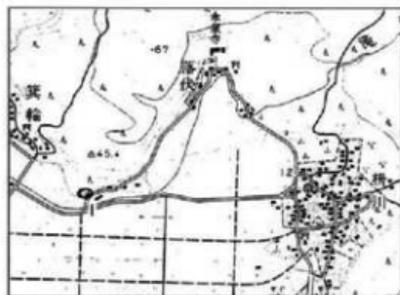


古間屋1遺跡採取遺物(1/2)

図版4 県営ほ場整備事業関係遺跡(4)

(2) 県営かんがい排水事業、農道整備事業他農林事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	山下山	銚海郡遊佐町大字直世字目倉神	縄文時代	山麓(5m)	山林地
2	包蔵地	上山崎	銚海郡遊佐町大字当山字上山崎	平安時代	平地(4.5m)	水田
3	城館跡	山屋榎	新庄市金沢字山屋	中世	段丘(150m)	雑木林神社境内
4	集落跡	二本松A	東田川郡羽黒町大字仙道字一本松32・69他	縄文時代	丘陵(44m)	水田
5	包蔵地	長峰	南陽市竹原字長峰	縄文時代	山麓(250m)	畑地
6	散布地	下原a	米沢市大字三沢字中瀬戸	縄文時代(前期)	段丘(29m)	水田畑地
7	包蔵地	藤崎	酒田市大字刈穂字藤崎46他	平安時代	平地(6m)	水田
8	集落跡	南野B	新庄市大字芦沢字南野	縄文時代	丘陵(100m)	牧草地



第3図 県営かんがい排水事業、農道整備事業他関係事業遺跡位置図(1)



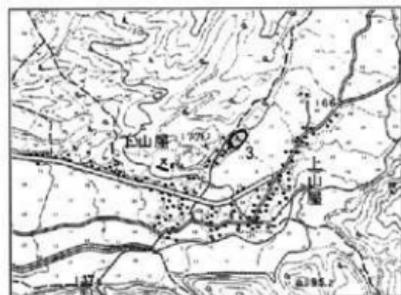
古問屋 2 遺跡遠景 (光から)



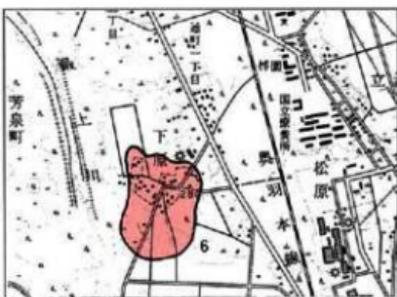
古問屋 2 遺跡採取遺物 (1/2)

図版 5 県営ほ場整備事業関係遺跡 (5)

遺跡概要	出土遺物	備考
南東に張り出す小台地上に位置し、大方は宅地部分に含まれている。宅地内や畑地内から縄文時代の土器類が出土したと伝えられる。	縄文土器片	No2237 平成4年10月23日県教委試掘調査実施
ほ場整備の用水路部分幅2m長さ500mを調査。近代の所産と考えられる稲杭とカクラン土層の土壌を検出。	須恵器・赤焼土器	平成4年度登録 平成4年11月9～13日立会い調査実施 昭和57年度登録。
南西方向に張り出す丘陵の西端に立地し、堀・土塁が巡らされる。土塁の規模は南北70m、東西50mを測り、屈曲的形狀と考えられる。		No1846
北西に張り出す丘陵先端部に立地する。昭和30年代に開田工事が行なわれており、大部分が破壊を受ける。一部皇太神社境内に残っている。	標石・剝片	昭和60年度登録 平成4年10月30日県教委試掘調査実施
谷間の南向斜面に位置し、東西65m、南北25mの規模を測る。昭和60年度に南陽市教委の分布調査により確認され登録された。	縄文土器片・石器	米沢市No299
最上川右岸の未発達な陸丘上に立地し、南北330m、東西280mのひろがりeraが推測される。遺跡は米沢市教委の調査で確認され登録された。	赤焼土器・須恵器	平成4年度登録
国指定史跡「城輪堀跡」の外郭線南西角より南方200mの地点に位地する。今回の試掘では、遺物の出土は認められたが、遺構は検出されない。	縄文土器片	昭和56年度登録 平成4年度県教委試掘調査。位置要訂正



第4図 県営かんがい排水事業、農道整備事業他関係事業遺跡位置図(2)



第5図 果営かんがい排水事業、農道整備事業他関係事業遺跡位置図(3)



下山遺跡調査地 (東南から)



上山崎遺跡調査風景 (南から)



上山崎遺跡調査トレンチ (南から)



山屋館跡近景 (北から)

図版5 果営かんがい排水事業、農道整備事業他関係遺跡(1)



一本松遺跡近景（東より）



長峰遺跡近景（南から）



長峰遺跡出土遺物（1/2）



下原a遺跡近景（西から）



郷崎遺跡近景（南から）



郷崎遺跡出土遺物（1/2）



南野B遺跡遠景（南西から）



南野B遺跡出土遺物（1/2）

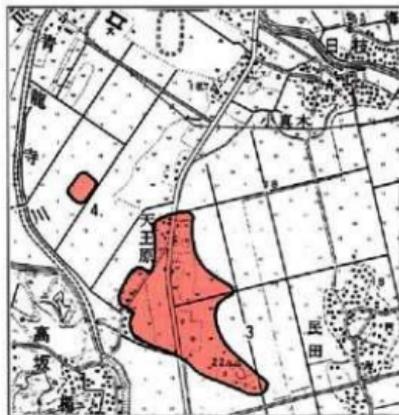
(3) 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	城館跡	駒子岩 <sup>ノ</sup> 城 <sup>ノ</sup> 城	東田川郡朝日村大字熊出字中台27の1～4	南北朝時代	丘陵 (130m)	山林内 環境
2	散布地	讀 <sup>ノ</sup> 原	鶴岡市大字寿字漆原	平安時代	段丘 (26m)	水田
3	散布地	笑 <sup>ノ</sup> 主 <sup>ノ</sup> 原	鶴岡市大字高板字三ヶ水口・天王原・古町	平安時代 鎌倉時代	段丘 (22m)	畑地 水田
4	散布地	三 <sup>ノ</sup> ツ <sup>ノ</sup> 築 <sup>ノ</sup> 口	鶴岡市大字高板字三ヶ水口	平安時代 鎌倉時代	段丘 (19m)	畑地
5	散布地	小 <sup>ノ</sup> 林 <sup>ノ</sup> I	西村山郡西川町大字海味字小林	縄文時代	段丘 (26m)	果樹園 畑地 山林
6	散布地	小 <sup>ノ</sup> 林 <sup>ノ</sup> II	西村山郡西川町大字海味字小林	縄文時代	段丘 (26m)	果樹園 畑地
7	城館跡	月 <sup>ノ</sup> 筒 <sup>ノ</sup> 菅 <sup>ノ</sup> 倉 <sup>ノ</sup> 橋	西村山郡西川町大字月筒	中世	丘陵 (36m)	山林
8	城館跡	横 <sup>ノ</sup> 地 <sup>ノ</sup> 橋	西村山郡西川町大字横地	中世	丘陵 (36m)	山林 荒地
9	城館跡	岩 <sup>ノ</sup> 倉 <sup>ノ</sup> 石 <sup>ノ</sup> 倉	西村山郡西川町大字石倉	中世	丘陵 (28m)	山林
10	城館跡	水 <sup>ノ</sup> 沢 <sup>ノ</sup> 水 <sup>ノ</sup> 沢	西村山郡西川町大字水沢	中世	丘陵 (36m)	山林
11	城館跡	綱 <sup>ノ</sup> 取 <sup>ノ</sup> 綱 <sup>ノ</sup> 取	西村山郡西川町大字綱取	中世	丘陵 (36m)	山林
12	城館跡	陸 <sup>ノ</sup> 合 <sup>ノ</sup> 陸 <sup>ノ</sup> 合	西村山郡西川町大字陸合	中世	丘陵 (23m)	山林 神社

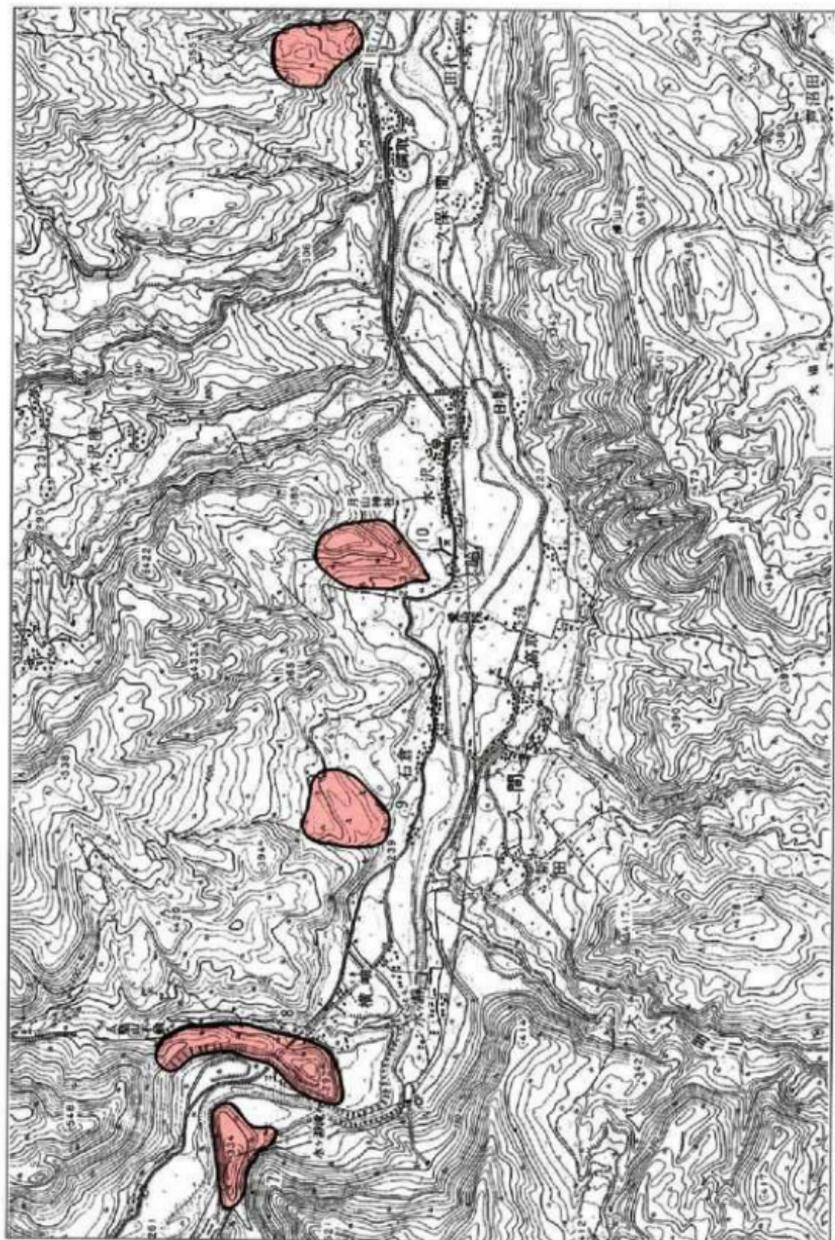


第6図 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡位置図(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
朝日村役場の北約1.5kmの赤川左岸の丘陵端に立地する。赤川神社境内を主郭部とし、南、西に堀切り、土塁が認められる。		No1089 平成4年10月14日県 教委試掘調査実施
青龍寺川右岸の河岸段丘上に立地する。調査対象地区はほ場整備が終了しており、遺物を含む層は認められない。遺物は2次堆積と考えられる。	須志野・赤染土器片(2次堆積と考えられる。摩滅している。)	昭和63年度登録 平成4年10月12日県 教委試掘調査実施
高茂集落の東方500m台地上に立地する。調査対象地区はほ場整備が終了しており、試掘地点の大半は砂礫層(旧河川氾濫原)となる。	試掘地点からは遺物出土なし。 昭和63年度A調査では南東部の微高地で遺物を採取。	昭和63年度登録 平成4年10月14日県 教委試掘調査実施
青龍寺川左岸の河岸段丘上に立地する。現況の畑地(約120m四方)以外は開田で破壊。調査対象地区は耕作による擾乱を受けている。	赤焼土器片1	昭和63年度登録 平成4年10月16日県 教委試掘調査実施
西川町役場の北西約500mの高位段丘上に立地する。今回の試掘調査の結果、遺跡範囲は東西200m、南北200mを測る北側に限られる。	試掘地点からは遺物出土なし。 平成元年度A調査では北西端畑地より多数のフレイクを採取。	平成元年度登録 平成4年11月19日県 教委試掘調査実施
小林1と沢を挟んだ西側の台地に立地する。畑地に銅片の散布が認められ、東西50m、南北220mの遺跡範囲に修正される。	試掘地点からは遺物出土なし。 平成元年度A調査では畑地より多数のフレイクを採取。	平成元年度登録 平成4年11月20日県 教委試掘調査実施
北側が寒河江川に限られる。頂部に約15m程の平地、西側尾根上に2カ所の堀切り、頂部南側に曲輪状の小平地、東側に約100m四方の平地。		平成4年度登録
寒河江川左岸の段丘・丘陵に立地する。主部は土葬で破壊。曲輪・土塁が遺存する。旧六十里越街道の伝書所跡・堀切りも遺存している。		平成4年度登録
寒河江川左岸の段丘・丘陵に立地する。285~275mの等高線沿いに10ヶ所の空堀り状の落ち込み、一部土塁状の高まりが認められる。		平成4年度登録
寒河江川左岸、国道112号線がトンネルで通過。主部・曲輪・空堀りが良好に遺存する。西側に100mを超える空堀り、曲輪群が認められる。		平成4年度登録
寒河江川左岸、銅製集落の北側丘陵に立地する。通称「黒森山」西~南側沢向かいに曲輪状の平坦部が数ヶ所・北側に1ヶ所認められる。		平成4年度登録
寒河江川左岸、融合小学校北側の丘陵に立地する。主部は秋葉神社~稲荷神社の平坦部、北側が空堀と土塁に囲まれ、西側に曲輪群がある。		平成4年度登録



第7図 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡位置図(2)



第 8 圖 東北横断自動車道酒田線建設工事關係遺跡位置圖 (3)



第9圖 東北横断自動車道酒田線建設工事關係遺跡位置圖(4)



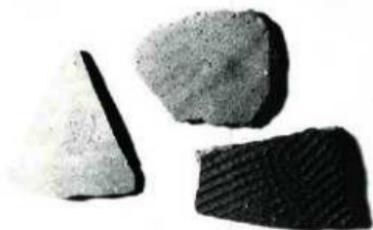
獅子岩城跡主郭 (北から)



獅子岩城跡掘切 (南から)



漆原遺跡近景 (北から)



漆原遺跡出土遺物 (1/2)



天王原遺跡近景 (北から)



天王原遺跡採取遺物 (1/2)



三ヶ水口遺跡近景 (南から)



三ヶ水口遺跡出土遺物 (1/2)



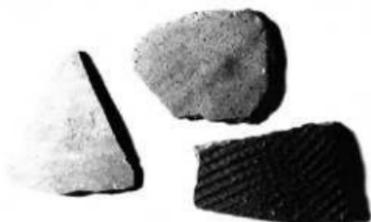
獅子岩城跡主郭（北から）



獅子岩城跡掘切（南から）



漆原遺跡近景（北から）



漆原遺跡出土遺物（1/2）



天王原遺跡近景（北から）



天王原遺跡採取遺物（1/2）



三ヶ水口遺跡近景（南から）



三ヶ水口遺跡出土遺物（1/2）

図版 8 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡(1)



小林Ⅰ近景（東から）



小林Ⅰ遺跡試掘坑（南から）



小林Ⅱ遺跡近景（南から）



小林Ⅱ遺跡試掘坑（南から）



月岡台ノ倉橋遠景（北から）



月岡台ノ倉橋小屋（東から）



横嶋橋近景（東から）



横嶋橋堰切り



石倉館近景（南から）



石倉館空堀り



水沢館遠景（西から）



水沢館空堀（南から）

図版10 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡(3)

(4) 国道、県道建設・改良事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	散布地	菅野代 A	西田川郡温海町大字菅野代字宮の下5	縄文時代	段丘 (190m)	田地 畑地 社地
2	散布地	菅野代 B	西田川郡温海町大字菅野代字川端48	縄文時代	段丘 (180m)	田地 畑地
3	散布地	徳田山	飽海郡松山町大字徳田九福134	縄文時代	丘陵 (25m)	田地 畑地 果樹園
4	散布地	大導寺	尾花沢市尾花沢字大導寺	縄文時代 (前期)	段丘 (90m)	畑地 宅地 林
5	散布地	氷口	村山市大字長善寺字横道	縄文時代 (中期)	段丘 (125m)	宅地 果樹園
6	散布地	高崖	村山市大字湯野沢字高崖	縄文時代	段丘 (120m)	畑地 果樹園
7	散布地	西浦	村山市大字大久保字西浦	奈良時代	段丘 (119m)	畑地 果樹園
8	散布地	上ノ山	西村山郡朝日町大字玉ノ井字前田・脇ノ田・上ノ山	縄文時代	段丘 (135m)	畑地
9	包蔵地	大藪	西村山郡朝日町大字和合字大藪	旧石器 縄文時代	段丘 (140m)	畑地 地 果樹園
10	包蔵地	沼向	西村山郡朝日町大字和合字沼向	縄文時代 (後期)	段丘 (153m)	畑地 果樹園 宅地
11	散布地	社裏	西置賜郡白鹿町大字群藤字社裏	平安時代	段丘 (186m)	畑地



網取館曲輪近景（東から）



陸合館近景（南から）



陸合館空掘り



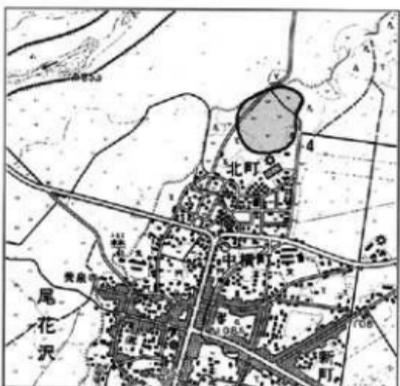
陸合館井戸跡（南から）

図版11 東北横断自動車道酒田線建設工事関係遺跡(4)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
菅野代川に注ぐ大瀬川左岸、菅野代小中学校西側の舌状を呈する段丘面に遺物を散布する。	フレイク	No.1973 平成4年12月1日県教委試掘調査実施
菅野代小学校の西約300mの段丘上に立地し、東西150m、南北50m程の畑地内に縄文土器片や剥片が若干散布している。	縄文土器片、フレイク	No.1974
最上川右岸の丘陵地に立地し、開田時に発見された。過去の踏査で縄文土器、石笥等が採集されているが今回は未発見である。		No.2286
丹生川左岸の段丘上に立地し、畑地を中心として縄文時代前期の土器・石器の破片類が多く採集できる。	縄文土器片、石器多数がこれまでの踏査で採集されている。	No.2339
樽石川左岸、長善寺橋付近に立地する。国道347号線により一部破壊されたものと思われる。今回は、遺物は未発見である。		No.595
千座川右岸の段丘上に立地する。東西100m・南北50mの範囲と推定される。出土遺物は戸沢小学校保管。今回は未発見である。		No.577
千座川右岸の段丘上に立地する。西清遺跡は東方集落寄りに記載されているが、地形的に今回対象とした地区まで広がるものと思われる。		No.583
最上川右岸の段丘上に立地する。一部旅館の造成で破壊。大隅遺跡の対岸に位置する。畑は開墾されている可能性もある。	フレイク	平成4年度登録
最上川左岸の段丘上に立地する。旧石器発見で学史的に著名。遺跡は現287号を狭み東側へと広がるものと思われる。		No.531
最上川右岸の段丘上、沼向集落の南東部に位置する。遺跡台帳では20×30mの範囲としているが、地形的にやや範囲は広がると思われる。		No.530
群藤東横地区を中心に現287号を狭み東西が500m・南北450mの範囲をもつ。今回は、東横公民館西側部分を調査したが遺物は未出土。		昭和63年度登録 平成4年10月県教委試掘調査実施

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
12	包蔵地	築土場	西置賜郡白鷹町大字佐野原字赤土場	縄文時代	段丘 (100m)	畑地
13	散布地	築	米沢市塩井町塩野字三嶋794-1他	縄文時代 平安時代	平地 (288m)	水田 畑地 宅地
14	散布地	築	米沢市塩井町塩野	平安時代	平地 (277m)	水田 畑地 宅地
15	散布地	八輪田	鶴岡市大字馬町字八幡田	平安時代	平地 (12m)	水田 畑地
16	集落跡	野新田	東田川郡朝日村大字中野新田字野新田	縄文時代	段丘 (80m)	水田 畑地
17	散布地	矢の上	東田川郡朝日村大字本郷字矢の上	縄文時代	段丘 (106m)	水田 畑地 宅地
18	散布地	小川内	最上郡真室川町大字大沢字悪次郎2,029他	縄文時代	段丘 (100m)	畑地
19	包蔵地	舟久保	新庄市大字仁間磯の沢321-3外	縄文時代	扇状地 (87m)	水田 山林
20	集落跡	稲場	最上郡舟形町長者原254外	縄文時代	段丘 (58m)	水田 畑地 宅地
21	散布地	天浦宮	最上郡大蔵村大字赤松字大浦台	縄文時代	段丘 (75m)	畑地
22	散布地	蔵	西村山郡大江町大字本郷字滝ノ沢	縄文時代	段丘 (111m)	水田 畑地
23	散布地	蔵	西村山郡大江町大字本郷字梨ノ木原	縄文時代	段丘 (147m)	畑地
24	散布地	川口原	寒河江市大字中郷字川口原	縄文時代	段丘 (118m)	果樹地
25	散布地	稻	天童市大字久野本字柁木2,147-9	縄文時代 平安時代	扇状地 (102m)	宅地
26	散布地	突	山形市大字天神	奈良時代 平安時代	自然掘防 (99m)	水田 果樹地 宅地
27	散布地	壺	西置賜郡白鷹町大字山口字畑中道下	縄文時代	段丘 (210m)	水田 果樹地 宅地
28	散布地	蔵	米沢市大字泰山字東坪穴7,407他	縄文時代	山腹 (342m)	水田 山林 宅地
29	散布地	上小	米沢市広幡町字上小菅592他	平安時代	沖積地 (237m)	水田 畑地 宅地
30	散布地	穴	南陽市高梨字六角塚	平安時代	段丘 (218m)	グランド 水田 畑地
31	散布地	古	南陽市高梨字古屋敷	平安時代	段丘 (218m)	水田 果樹地 宅地

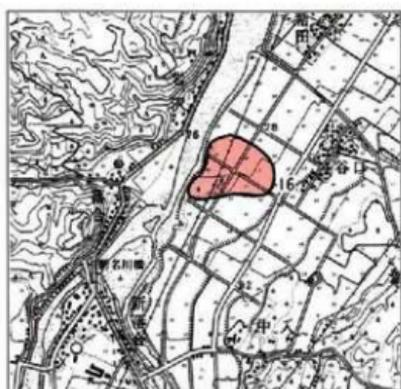
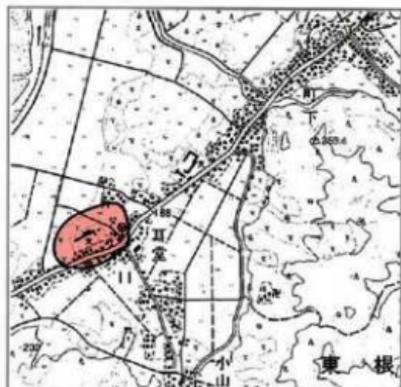
遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
山形鉄道荒砥駅の北5kmに位置し、最上川右岸の段丘上に立地する。立会い調査実施地点は遺跡周辺部で、若干の遺物が出土するに止った。	縄文土器片、フレイク	平成2年度登録 平成4年6月、県教委立会い調査実施
米沢市役所の北西約1.1kmに位置する。東西・南北とも200mの範囲内にある畑地に遺物の散布が認められる。	チップ	「米沢市遺跡地図」掲載(昭和61年)
米沢市役所の北北西約1.3kmに位置し、荒川遺跡の北方に所在する。東西150m、南北220mの範囲内の畑地に遺物の散布が認められる。	土師器、須恵器	平成4年度登録
善賢寺の南東約600mに位置する。東西400m南北250mの畑地および転作田に多量の須恵器赤焼土器片が散布している。	須恵器片、赤焼土器片	平成4年度登録
朝日村役場の北東約1kmに位置する。平成3年度の試掘調査により東西350m、南北300mに及ぶ範囲から遺構や遺物が検出されている。	縄文土器片、フレイク	No1889
朝日村役場の南東約2.5kmの大島川右岸の段丘上に立地する。宅地周辺の東西70m、南北30mの範囲内に割片が若干散布している。	フレイク	No1920
真室川町市街地の北方約7km、小又川左岸の段丘に立地する。段丘先端部、東西50m、南北50mの範囲内に割片が散布する。	フレイク	No1025
JR新庄駅の南西3kmに位置し、新田川の扇状地に立地する。今回の立会い調査地では遺構・遺物とも未検出である。		昭和63年度登録 平成4年8月7日県教委立会い調査実施
小国川右岸の段丘上に立地する。東西100m、南北100mの範囲の宅地、畑地に遺物が散布する。遺跡西部は開田により破壊を受けている。		No974
赤松川左岸の舌状台地に立地する遺跡であるが、過去の土取りにより破壊されたと考えられ、今回の試掘地点は遺跡外と判断される。		No1038
月布川左岸の段丘上に立地する。水田を転作して畑地とした部分に遺物の散布が見られる。範囲は東西180m×南北170mと考えられる。	フレイク	平成4年度登録
月布川左岸、二ノ倉より流れる沢の右岸の段丘上に立地する。付近は既にほ場整備が終了している様子で破壊を受けた可能性がある。	フレイク	平成4年度登録
最上川右岸、左沢の対岸に位置する。範囲は南北に細長い果樹地としたが、東側の水田地帯まで広がる可能性がある。	フレイク	平成4年度登録
県道天堂・河北線南側に位置する。以前に貯水池工事の際、地表面下約3mの深さから大木5式併行の土器出土(天堂市史上巻:1981年)。		No274 平成4年10月20・21日県教委試掘調査実施
山形市千手堂地区より西方1.5km、天神橋の西側一帯、畑地、果樹地に遺物が散布する。南側の畑地一帯に散布が集中する。	土師器	No137
山形鉄道員駅の北西約1.3kmに位置し、最上川の形成した段丘上に立地する。畑地に若干の遺物が散布している。	フレイク	No1488 昭和53年「山形県遺跡地図」範囲要訂正
船坂峠より北東へ約350m下った山腹に立地する。範囲は東西250m×南北250mで沢を挟んだ両側の緩斜面を中心とするものと考えられる。		「米沢市遺跡地図」掲載。No216(昭和61年度)
鬼面川左岸、JR米坂線成島駅より東北東へ約300m離れた沖仲集落内に位置する。歴代内畑地に遺物が散布している。	須恵器片・赤焼土器片	平成4年度登録
JR奥羽本線赤湯駅より南西へ約750m離れた古峯郷・沖郷中学校の南に位置する。遺物は沖郷中学校裏の宅地脇の畑地に散布する。	須恵器片	平成4年度登録
上述六塚遺跡の北西、旧吉野川河道を狭み対岸に位置する。遺物の散布は古峯郷の南に接する宅地脇の畑地に見られる。	須恵器片	平成4年度登録



第10図 国道、県道建設、改良事業関係遺跡位置図(1)



第10図 国道、県道建設、改良事業関係遺跡位置図(1)



第11図 国道、県道建設、改良事業関係遺跡位置図(2)



第12図 国道、県道建設、改良事業関係遺跡位置図(3)



第13図 国道、県道建設、改良事業関係遺跡位置図(4)



菅野代 A 遺跡近景 (南西から)



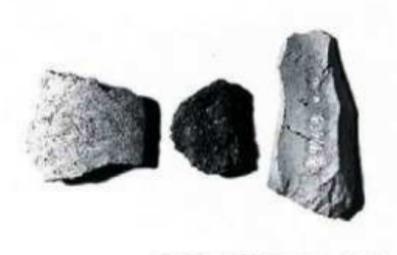
菅野代 A 遺跡試掘坑 (南から)



菅野代 A 遺跡出土遺物 (1/1)



菅野代 B 遺跡遠景 (南東から)



菅野代 B 遺跡採取遺物 (1/1)



徳田山遺跡遠景 (北西から)



大導寺遺跡近景 (西から)



水口遺跡遠景



菅野代 A 遺跡近景 (南西から)



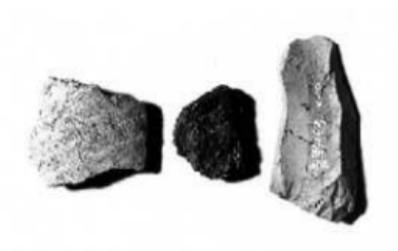
菅野代 A 遺跡試掘坑 (南から)



菅野代 A 遺跡出土遺物 (1/1)



菅野代 B 遺跡遠景 (南東から)



菅野代 B 遺跡採取遺物 (1/1)



徳田山遺跡遠景 (北西から)



大澤寺遺跡近景 (西から)



水口遺跡遠景



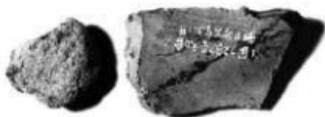
高壁遺跡遠景（南から）



西浦遺跡（西から）



上山遺跡遠景（南から）



上山遺跡採取遺物 (1/1)



大隅遺跡近景（南から）



沼向遺跡近景（南から）



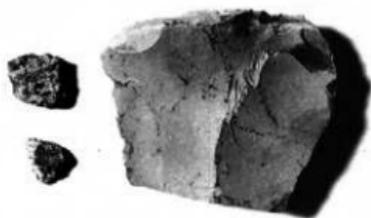
社裏遺跡近景（南から）



社裏遺跡試掘坑（南から）



赤土場遺跡遠景（南から）



赤土場遺跡出土遺物（1/1）



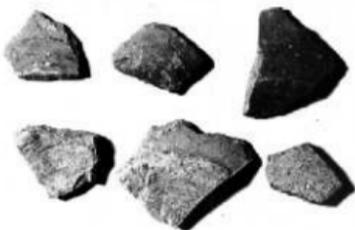
荒川遺跡遠景（北から）



荒川遺跡採取遺物（1/1）



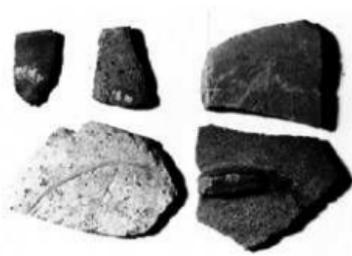
荒川2遺跡近景（南西から）



荒川2遺跡採取遺物（1/2）



八幡田遺跡近景（北から）



八幡田遺跡採取遺物（1/2）



野新田遺跡近景（南東から）



野新田遺跡採取遺物（1/2）



欠ノ上遺跡近景（東から）



欠ノ上遺跡採取遺物（1/2）



小川内遺跡近景（北西から）



外久保遺跡近景（北から）



稲場遺跡遠景（南から）



大浦台試掘地点遠景（南西から）



滝ノ沢遺跡近景（西から）



滝ノ沢遺跡採取遺物（1/1）



梨ノ木原遺跡近景（東から）



梨ノ木原遺跡採取遺物（1/1）



川口原遺跡近景（北から）



川口原遺跡採取遺物（1/1）



柏木遺跡調査風景（南東から）



天神遺跡近景（西から）



蚕桑畑中遺跡近景（西から）



板下遺跡近景（西から）



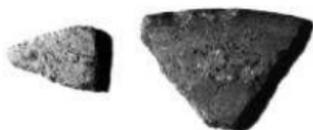
上小菅遺跡近景（北から）



上小菅遺跡採取遺物（1/1）



六角塚遺跡近景（西から）



六角塚遺跡採取遺物（1/1）



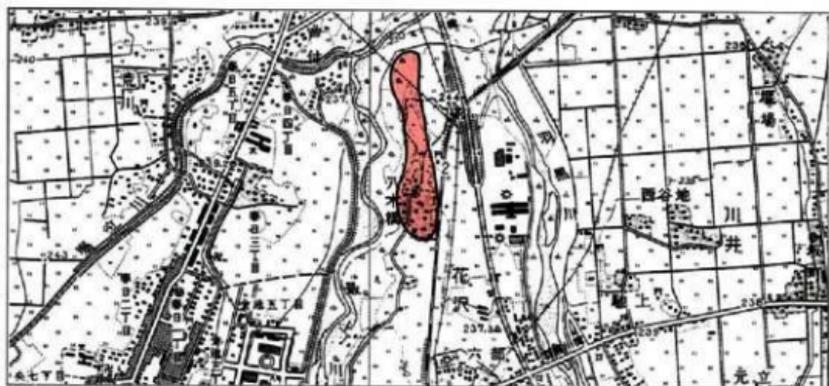
古屋敷遺跡近景（西から）



古屋敷遺跡採取遺物（1/1）

(5) 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡

No.	種別	遺跡名	所在地	時期	立地	地目
1	集落跡	榑	米沢市大字孝山字辻6850、他	縄文時代	台地 (310m)	畑地
2	散布地	八木橋 a	米沢市花沢町字八木橋	縄文時代 中世	段丘 (231m)	畑地 果樹園 宅地
3	包蔵地	八反稲芋原	村山市大字河島元塩川字八反稲干原	縄文時代 平安時代	平地 (80m)	畑地
4	散布地	鏡平 B	長井市草岡字石ヶ山	縄文時代	段丘 (36m)	畑地
5	散布地	中丸	白鷹町大字畦藤字中丸5871他	縄文時代	段丘 (170m)	畑地
6	包蔵地	上野山 C	朝日村大字行沢字上野山	縄文時代	段丘 (170m)	山林地 畑地

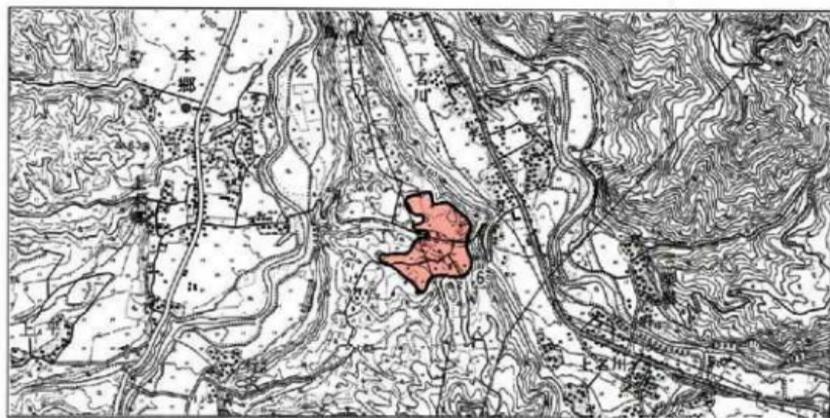


第14図 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡位置図(1)

遺 跡 概 要	出 土 遺 物	備 考
JR米沢駅の南東約6kmに位置する。以前の発掘調査で縄文時代中期末の集落が発見されているが、今回の試掘では遺構・遺物は未検出。	フレイク(採集)。	No.1185 平成4年9月16・17日試掘調査実施
米沢市役所の北東約1kmに位置する。今回の段丘下の試掘では遺構・遺物とも未検出であり、遺跡は段丘上の範囲内に収まる。		「米沢市遺跡地図」掲載。平成4年9月試掘調査実施
大且川左岸、河島橋の東方150mに位置する。今回、一部遺物包含層が認められたが、全体に遺物の出土は希薄で遺構は検出されなかった。	土師器	平成元年度登録遺跡範囲要訂正
岩ヶ沢川左岸中流域の段丘上に位置する。今回の表面踏査では遺構・遺物とも未検出であるが、以前に壺状石器が発見されている。		昭和57年度長井市教育委員会「分布調査報告書」掲載
耳堂川左岸の、山麓を抜けた平坦部に位置する。今回の表面踏査では、相地の北西部に縄文時代後期の遺物の散布が認められた。	縄文土器、フレイク	No.1464
大鳥川左岸の段丘上に位置する。畑地で石器剥片を採集。遺跡範囲内には小沢が入り組み起伏ある地形となっている。	フレイク(採集)	No.1882 昭和53年「山形県遺跡地図」範囲要訂正



第15図 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡位置図(2)



第16図 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡位置図(3)



遺跡遠景(西から)



八木橋 a 遺跡試験地点近景(南から)

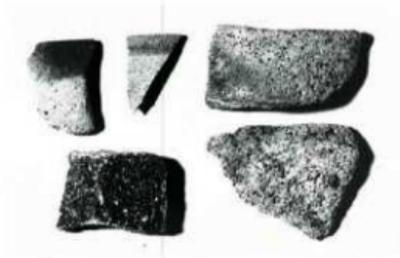
図版18 河川改修、砂防、水道事業関係遺跡(1)



八木橋 a 遺跡試掘坑 (南から)



八反稲干原遺跡近景 (西から)



八反稲干原遺跡出土遺物 (1/2)



椀平 B 遺跡近景



中丸遺跡近景



中丸遺跡採取遺物 (1/2)



上野山 C 遺跡近景 (南から)



上野山 C 遺跡採取遺物 (1/2)

## 2 試掘調査の概要

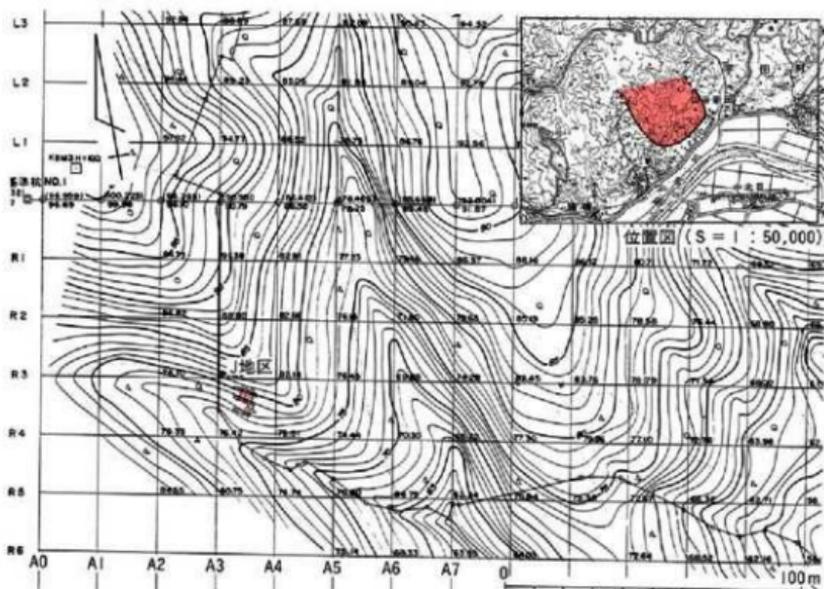
### (1) 山海窯跡群J地区 (遺跡番号2,302)

所在地 山形県飽海郡平田町大字山谷新田字山海

調査員 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 平成4年12月21・22日

**調査の概要** 調査は国営農地開発事業烏海南麓地区「山橋工区」の造成に隣接する本窯跡の現地確認である。対象とした窯跡は工事計画では地区外であったが、工区周辺の立木伐採および抜根により破壊されたために、その状況を把握・今後の調整に資するため調査をおこなった。なお、工区内の14基の窯跡については平成2年度から4年度にわたり3次の緊急発掘調査が山形県教育委員会により実施されている。立木の抜根は重機でおこなわれたため、直後は窯跡の焼土、土器、焚き口の礫が散乱していた。調査は遺物の散乱する地点を中心に1m×10mのトレンチを等高線に沿って約5mおきに3本設定し窯跡の遺存状況を探った。1トレンチで窯跡の焼けた壁が3カ所、2トレンチから焚き口とみられる礫5個、3トレンチから多量の焼土が検出された。また、遺物も整理箱に5箱程出土した。トレンチの状況および散乱する土器の状況等から窯跡は2基以上存在する。



第17図 山海窯跡群J地区概要図



八木橋 a 遺跡試験坑 (南から)



八反稲干原遺跡近景 (西から)



八反稲干原遺跡出土遺物 (1/2)



椀平 B 遺跡近景



中丸遺跡近景



中丸遺跡採取遺物 (1/2)



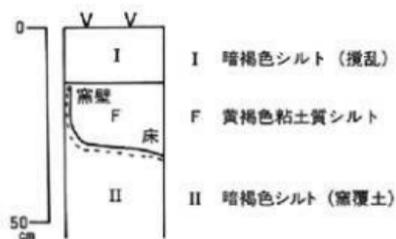
上野山 C 遺跡近景 (南から)



上野山 C 遺跡採取遺物 (1/2)



遺跡近景（西から）



Iトレンチ土層柱状図



第Iトレンチ窯跡壁検出状況



出土遺物（1/3）

(2) 鷹尾山遺跡 (平成3年度登録)

所在地 山形県酒田市大字北沢字鷹尾山

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年11月10～13日

調査の概要 遺跡は太平集落より南東へ約750mの山の中腹に位置し、標高は170～197mをはかる。地目の大半は杉林である。今回の調査は東北農政局の国営農地開発事業（鳥海南麓地区）にともなう分布調査である。なお、調査理由は(12)物見森4遺跡まで同じである。

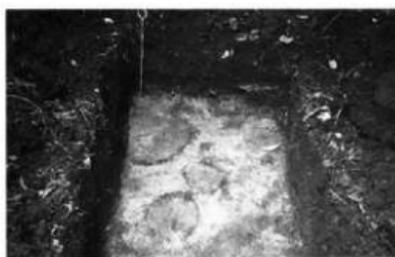
調査は、昨年の試掘調査で遺物が出土した地点を中心に、トレンチ(縦1m横2m)と試掘坑(縦0.5m横1m)を合計37カ所設定し、人力で地山まで掘り下げ、18カ所から遺構遺物の検出をみた。出土遺物は赤焼土器甕・坏、縄文土器、石器である。遺構では、溝跡、竪穴住居跡あるいは土壇、ピットが検出された。遺跡は縄文および平安時代の集落跡と判断されるが、包含層は平安時代が1層(黒褐色シルト層)下部から2層(暗褐色シルト層)、縄文時代の遺跡はこの層下部から地山層にかけてと推定される。遺跡は従来より南西部へ広がるものと予想され、推定範囲は東西170m南北130mである。



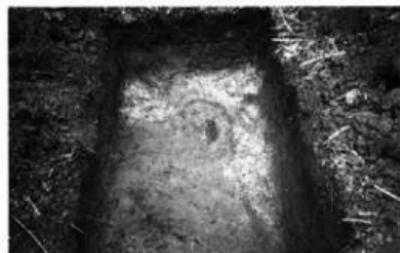
第18図 鷹尾山遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP12土層断面（西から）



TT3遺構検出状況（東から）



出土遺物（1/3）

### (3) 嶽の腰2遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰

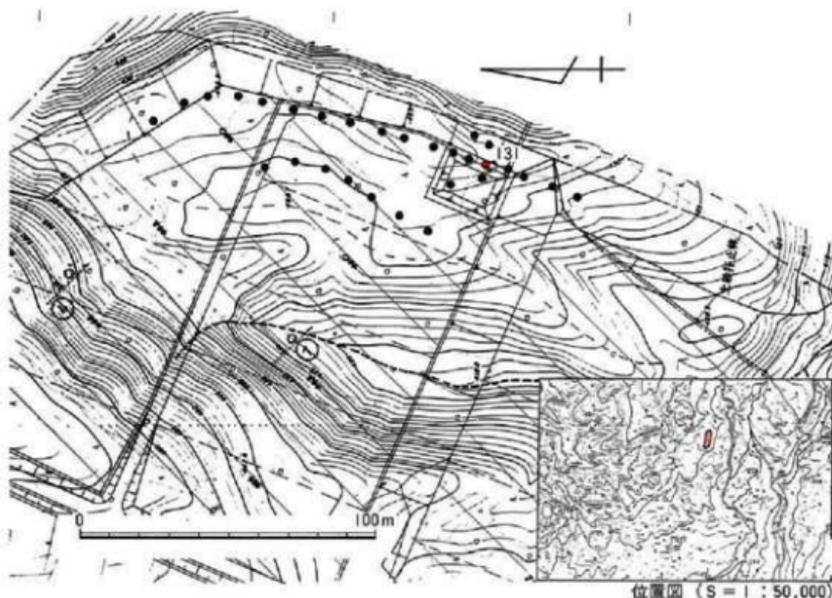
調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年5月12~14、19~22、26日

調査の概要 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の東方約9.7km、湯の台の集落から南西約2kmの山中に位置する。標高430m前後を測る台地状の平場に立地し、地目はクロマツ他の雑木林となっている。

今回の試掘調査は平成2年5月の表面踏査で抽出した、遺跡としての立地条件を備えた地点におよそ10mおきに1m方形の試掘溝を設定し、合わせて6地点で計147カ所を地山まで掘り下げた。

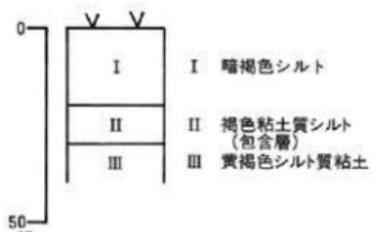
その結果、第1地点~第5地点の5カ所の遺跡可能性地を抽出した標高450m前後の山嶺の平場では遺跡の存在を確認することはできなかったが、一段低い第6地点で縄文時代の遺物包蔵地が確認された。第6地点では28カ所の試掘坑のうちTP131から遺物が出土した。遺物はループ文を持つ一括土器であり、地表下20cmにある層厚10cmの褐色粘土質シルトが包含層となる。遺跡の広がりには、地形から判断して東西50m、南北220mの範囲内と考えられ、範囲を確定するためにはさらに密度の高い試掘調査が必要である。



第19図 嶽の腰2遺跡概要図



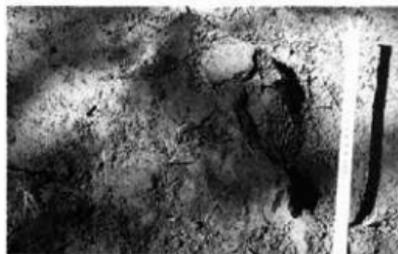
遺跡近景（東境界より）



TPI31土層柱状図



TPI31土層断面（南から）



TPI31土器出土状況（南から）



出土遺物（1/3）

(4) 嶽の腰3遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年11月25・26日 12月1・2日

調査の概要 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の東方約9.3km、湯の台の集落からは南西へ約2.6kmの山中に位置する。標高400~410mをはかる台地上に立地し、北東側に湿地が広がる。地目はクロマツ他の雑木林である。

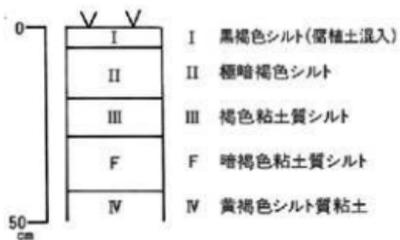
調査は、平成2年5月の表面調査で抽出した第14地点に、ほぼ10mおきに試掘坑(1m方形)を設定し、合計41か所を人力で掘り下げた。その結果、調査区北側のTP101で縄文土器片が出土したほか、TP101、103でピットが検出され、新規遺跡として登録した。遺物包含層は表土下18cmの暗褐色シルト層である。さらに調査区中央のTP119、130でもピット数基が検出されたため、遺跡の南東部への広がりが認められ、遺跡範囲を東西120m、南北120mと推定した。遺跡は縄文時代の集落跡と判断されるが、正確な範囲と性格を把握するためには追加の試掘調査が必要である。



第20図 嶽の腰3遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TP101土層柱状図



TP101土層断面（東から）



TP101ビット検出状況（東から）



出土遺物（1/2）

(5) 嶽の腰4遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年12月3日

調査の概要 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の東方約9.1km、湯の台の集落からは南西へ約2.8kmの山中に位置する。標高405~408mをはかる台地上の平場に立地し、地目はクロマツの雑木林である。嶽の腰3遺跡に近接する。

調査は、平成2年5月の表面調査で抽出した第15地点に、ほぼ10mおきに試掘坑(1m方形)を設定し、合計13カ所を人力で掘り下げた。その結果、2カ所から遺構遺物が検出された。TP154では表土下18cmの暗褐色粘土質シルト層から縄文時代のもと思われるフレイクおよび土器が出土した。またピットも検出された(遺構はTP159でも検出)ため、嶽の腰4遺跡として新規登録した。遺跡は縄文時代の集落跡と判断される。

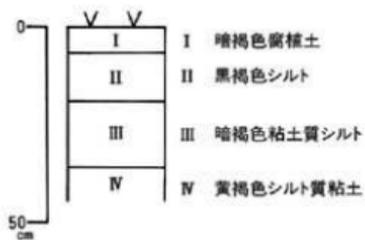
遺跡の範囲は、立地条件を考慮して、東西80m南北80mと推定されるが、正確な範囲を把握するためには、追加の試掘調査が必要である。



第21図 嶽の腰4遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP154土層柱状図



TP159土層断面（北から）



TP154遺構検出状況（東から）



出土遺物（1/2）

(6) 石橋台1遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡八幡町草津字石橋台2-44、2-54、2-53、2-107~109

調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 B調査 平成4年5月27・28日

調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約7.1kmの山中に位置し、標高346~352mの東西及び南北に延びる複せ尾根の頂部に立地する。地目は杉林、雑木林となっている。

今回の試掘調査は、平成2年の表面踏査で抽出した遺跡可能性地について、およそ10mおきに試掘坑を設定して地山まで掘り下げる方法で実施した。本遺跡はその第2地点で発見されたもので、26カ所の試掘坑のうちTP10、21から縄文土器片と刹片が出土し、TP28で土壌とみられる土色変化が確認された。遺物の出土層準は地表下15~30cmにある暗褐色粘土質シルトでこの層は11~26cmの層厚を持つ。

縄文土器は摩滅が著しく判然としないが、胎土に繊維が含まれており、縄文時代早期~前期の所産であろう。

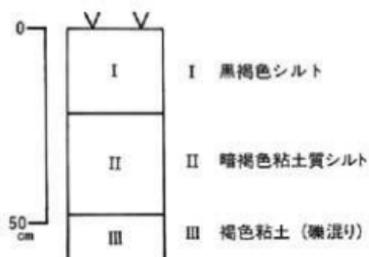
遺跡は地形から判断して最大で東西150m、南北50mの範囲内となるが、今回の調査で得られた資料は僅少であり、トレンチ調査等さらに密度の高い試掘調査を実施して、範囲、性格を明らかにする必要がある。



第22図 石橋台1遺跡概要図



遺跡近景



TP10土層柱状図



TP10土層断面（西から）



TP15遺構検出状況（西から）



出土遺物（1/2）

(7) 石橋台<sup>いしはしかい</sup>2遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡八幡町草津字石橋台109

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年5月28日

調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約7.3kmの山中に位置し、標高365mの東西に延びる瘦せ尾根の頂部に立地する。地目は杉林である。

今回の試掘調査は、平成2年の表面踏査で抽出した遺跡可能性地について、およそ5～10m置きに試掘坑を設定して地山まで掘り下げる方法で実施した。本遺跡はその第3地点で発見されたもので、8カ所設定した試掘坑のうちTP36、TP39、TP40の3カ所からそれぞれ掘器、剥片、土器片各1点が出土した。出土層は地表下15～18cmにある層厚8～11cmの褐色粘土質シルトである。

縄文土器は摩滅が著しく時期決定の根拠を欠いている。

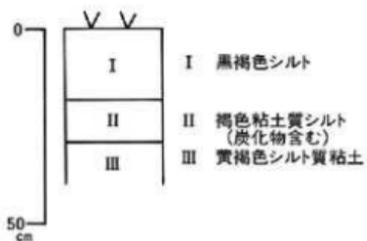
遺跡は地形から判断して最大で東西60m、南北30mの範囲内となるが、今回の調査で得られた資料は僅少であり、トレンチ調査等さらに密度の高い試掘調査を実施して、範囲、性格を明らかにする必要がある。



第23図 石橋台2遺跡概要図



TP36土層断面（東から）



TP36土層柱状図



TP40土層断面（南から）



TP36フレイク出土状況（東から）



出土遺物（1/2）

(8) 石橋台<sup>いしはしかい</sup>3遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡八幡町草津字石橋台2-108、118、119

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

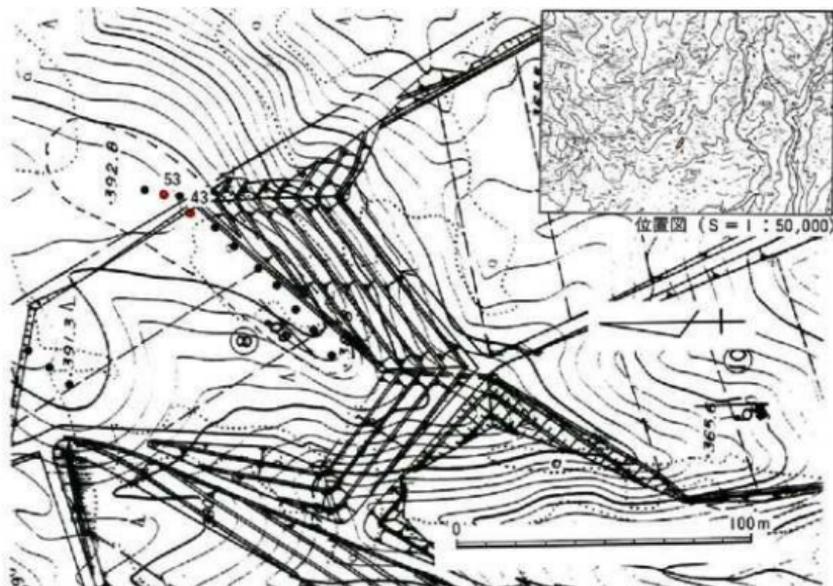
調査期日 B調査 平成4年5月28・29日

調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約7.4kmの山中に位置し、標高392mの台地状の平地から舌状に延びた尾根上に立地する。地目は杉林である。

今回の試掘調査は、平成2年の表面踏査で抽出した遺跡可能性地について、およそ10mおきに試掘坑を設定して地山まで掘り下げる方法で実施した。本遺跡はその第4地点で発見されたもので、11カ所設定した試掘坑のうちTP43、TP53の2カ所から石器が各1点出土した。出土層準は地表下15~20cmにある第II層で層厚5~8cmの暗褐色粘土質シルトである。

TP43から出土した石器は長さ4.2cm、幅2cmの縦長剥片の先端部に二次加工を施した小型の搔器、TP43から出土した石器は縦長剥片の側縁に使用痕が認められる。

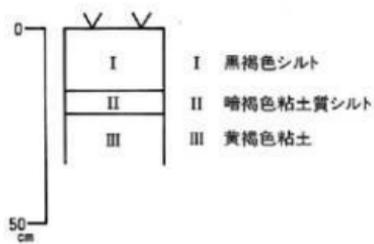
遺跡は地形から判断して東西125m、南北25mの範囲からさらに東側の事業地区外へと延びる可能性がある。今後、トレンチ調査等さらに密度の高い試掘調査を実施して、範囲、性格を明らかにする必要がある。



第24図 石橋台3遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP43土層柱状図



TP43土層断面（東から）



TP45土層断面（西から）



出土遺物（1/2）

(9) 物見森<sup>ものみもり</sup>1遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡八幡町上黒川字物見森12-1

調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 B調査 平成4年5月29日

調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約7.2kmの山中に位置し、標高382mの南北に延びる尾根上に立地する。地目は杉林で、この尾根の東側と西側に水の流れる沢がある。

今回の試掘調査は、平成2年の表面踏査で抽出した遺跡可能性地について、およそ10mおきに試掘坑を設定して地山まで掘り下げる方法で実施した。本遺跡はその第6地点で発見されたもので、嶺の腰(1)工区に隣接する。5カ所設定した試掘坑のうちT P62で縄文土器片が出土し、T P61では配石が検出された。出土層準は地表下15~18cmにある第II層で層厚8~16cmの褐色粘土質シルトである。

T P62から出土した縄文土器は摩滅が著しいためその時期を決定する根拠を欠くが、胎土に繊維を含むことから、縄文時代早期~前期の所産であろう。

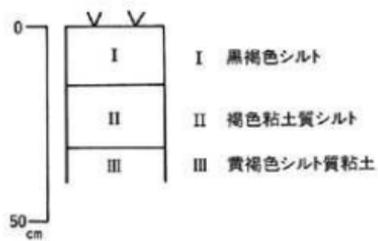
遺跡は地形から判断して最大で東西25m、南北50mの範囲が想定できるが、今後、トレンチ調査等さらに密度の高い試掘調査を実施して、範囲、性格を明らかにする必要がある。



第25図 物見森1遺跡概要図



遺跡近景 (北から)



TP62土層柱状図



TP62土層断面 (南から)



TP63土層断面 (南から)



出土遺物 (1/2)

(10) 物見森2遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡八幡町上黒川字物見森12-1

調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 B調査 平成4年5月29日

調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約7.1km、物見森1遺跡の南西約100mの山中に位置し、標高380mの南東に張り出す小規模な台地上に立地する。東側と南側が沢に向かう急斜面となり、北西側は緩斜面が続く。地目は杉林である。

今回の試掘調査は、平成2年の表面踏査で抽出した遺跡可能性地について、およそ10mおきに試掘坑を設定して地山まで掘り下げる方法で実施した。本遺跡はその第7地点で発見された。2カ所設定した試掘坑のうちTP65で縄文土器片1点、剥片2点が出土した。出土層準は地表下12~18cmにある第II層で層厚4~8cmの褐色粘土質シルトである。

TP62から出土した縄文土器は小片で摩滅が著しいためその時期を決定する根拠を欠いている。

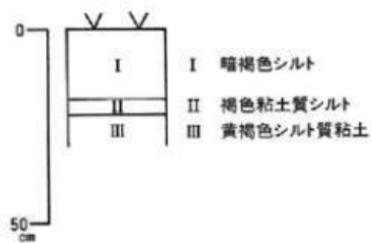
遺跡は地形から判断して東西25m、南北25mの小規模な範囲が想定できるが、今後、トレンチ調査等さらに密度の高い試掘調査を実施して、範囲、性格を明らかにする必要がある。



第26図 物見森2遺跡概要図



遺跡近景（東から）



TP65土層柱状図



TP64土層断面（北から）



TP65土層断面（西から）



出土遺物（1/2）

(11) 物見森<sup>ほのみもり</sup>3遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡八幡町上黒川字物見森12-1

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

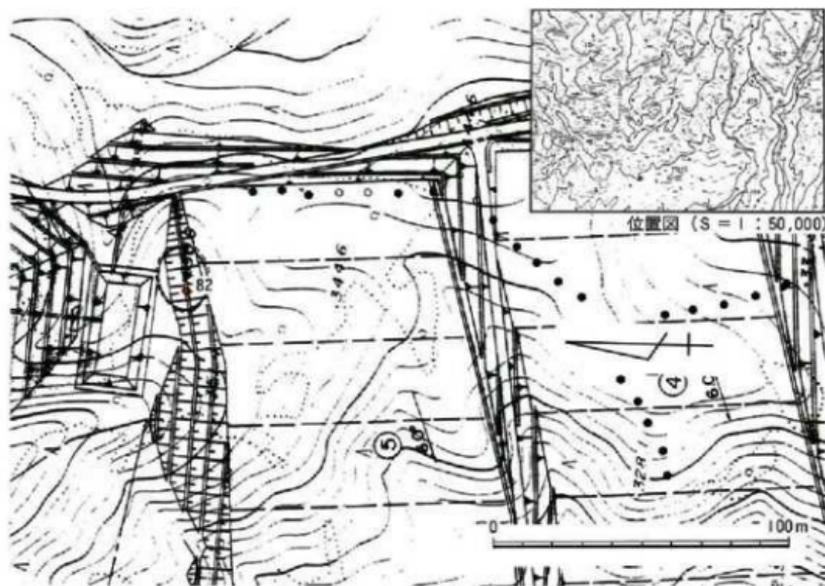
調査期日 B調査 平成4年6月9日

調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約7km、物見森2遺跡の南方約250mの山中に位置し、標高350mの山頂部に立地する。北側に水の流れる沢があり地目は雑木林と杉林である。

今回の試掘調査は、平成2年の表面踏査で抽出した遺跡可能性地について、およそ10mおきに試掘坑を設定して地山まで掘り下げる方法で実施した。本遺跡はその第9地点で発見された。3カ所設定した試掘坑のうちT P 82で縄文土器片2点が出土した。出土層準は地表下16~18cmにある第II層で層厚4~16cmの暗褐色粘土質シルトである。また、T P 82からは深さ20cmのビット、配石等が検出された。

出土した縄文土器はいわゆる瘤付き土器で縄文時代後期後半の所産とみることができる。

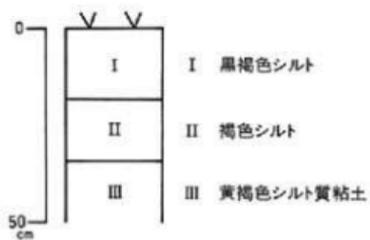
遺跡は地形から判断して東西20m、南北15mの小規模な範囲が想定できるが、今後トレンチ調査等さらに密度の高い試掘調査を実施して、範囲と性格を明らかにする必要がある。



第27図 物見森3遺跡概要図



遺跡近景



TP82土層柱状図



TP82土層断面



TP82ピット半截状況（南から）



出土遺物（1/2）

(12) 物見森4遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡八幡町上黒川字物見森12-1、字大台10-3他

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年6月10~12日

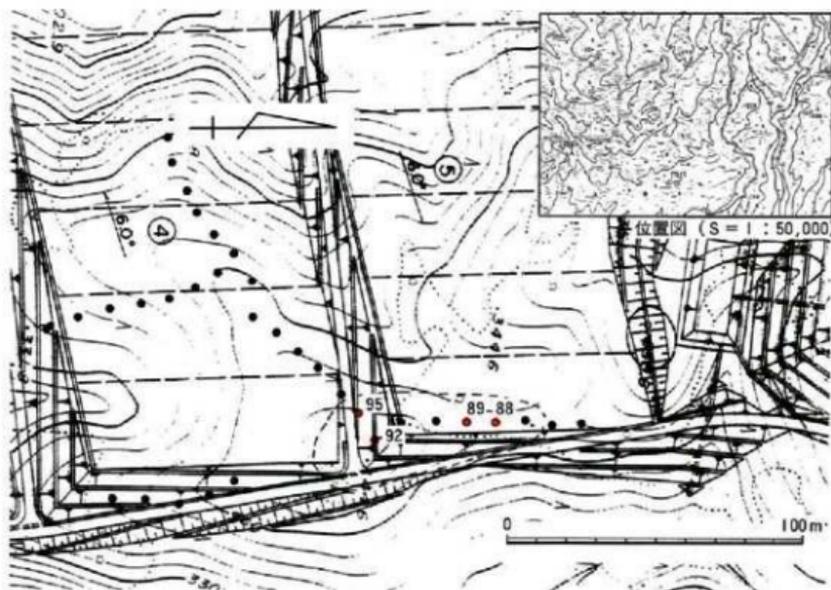
調査の概要 遺跡は八幡町役場の北東約7kmの山中に位置し、物見森3遺跡と鞍部を隔てて南方に隣接する。標高341~345mの山頂部に立地する。地目は杉林である。

今回の試掘調査は、平成2年の表面踏査で抽出した遺跡可能性地について、およそ10mおきに試掘坑を設定して地山まで掘り下げる方法で実施した。試掘坑は第10地点と呼んだ、東西250m、南北130mの範囲内にある尾根の頂部の平場を対象として、全部で46カ所を設定した。

調査の結果、対象区の北東部のTP88、92で縄文土器片、石器が出土し、TP88で竪穴住居または土壇とみられる土色変化を、またTP89、92、95ではピットを確認した。出土層準は地表下16~18cmにある第II層で層厚10~26cmの暗褐色シルトである。

出土した縄文土器には縄文時代中期初頭の北陸系のものがみられる。

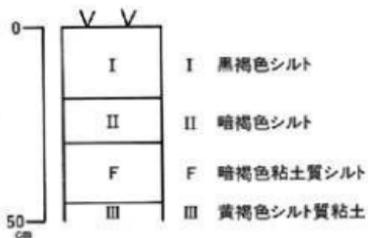
遺跡は地形から東西30m、南北80mの範囲が想定できるが、今後、トレンチ調査等さらに密度の高い試掘調査を実施して、範囲、性格を明らかにする必要がある。



第28図 物見森4遺跡概要図



遺跡近景（北から）



TP88土層柱状図



TP89土層断面（南から）



TP88遺構検出状況



出土遺物（1/2）

(13) 西谷地遺跡 (平成3年度登録)

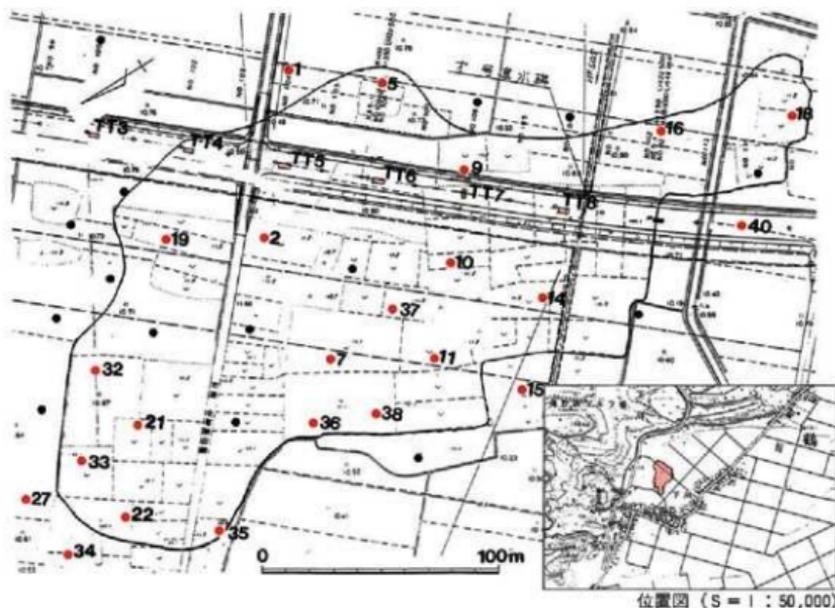
所在地 山形県鶴岡市大字下川字西谷地

調査員 佐藤庄一 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 A調査 平成4年6月18日 B調査 平成4年10月20～23日

調査の概要 鶴岡市善宝寺の北東約600mの松葉から陳川に至る農道の中ほどに位置する。遺跡の中心部は畑地で周囲には水田が広がっている(北側の水田部分はかつての畑地が削平を受けている)。今回の調査は主要地方道酒田鶴岡線建設及び県営ほ場整備事業計画に伴い、調整を目的として実施された。

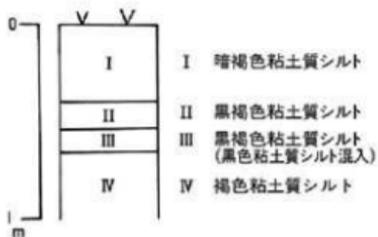
調査は、春の表面踏査で遺物の分布を確認した後、秋に試掘調査を行った。試掘調査では、道路計画路線内に縦4m、横1～2mのトレンチ9カ所と、ほ場計画地区に合計40カ所の試掘坑を設定して地山まで掘り下げた。その結果畑地付近を中心に東西200m、南北360mにわたって遺跡範囲が確認された。(遺跡の面積は約32,000平方m。)遺構はT5の竪穴住居跡をはじめ、ピット、溝状遺構が検出され、遺物は須恵器、赤焼土器、土師器が整理箱2箱ほど出土した。遺物包含層は表土下30cmから50cmの黒褐色粘土質シルトである。以上より遺跡は平安時代の集落跡と判断される。



第29図 西谷地遺跡概要図



遺跡近景 (北から)



TT5土層柱状図



TT5土層断面 (南から)



TT7遺構検出状況 (北から)



出土遺物 (1/3)

(14) 西田面遺跡 (平成3年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字下川字西田面

調査員 佐藤庄一 高橋直

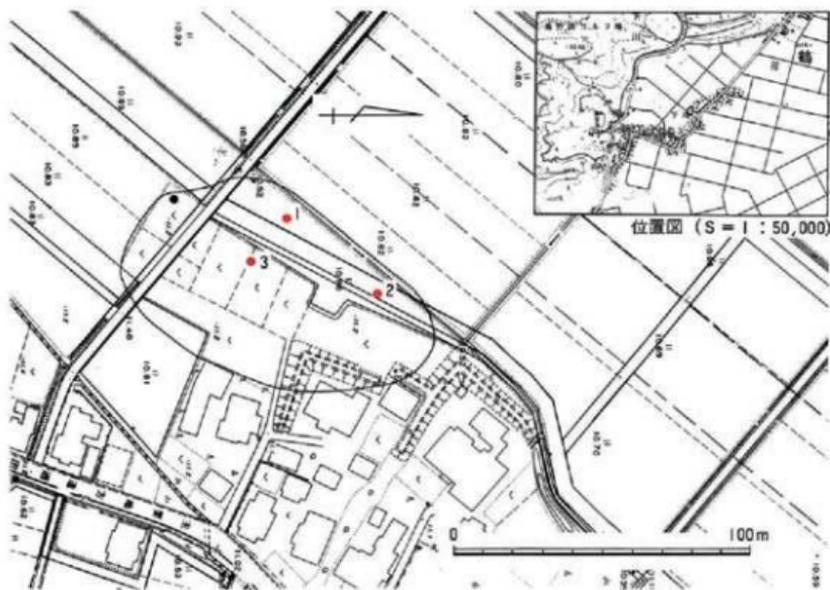
調査期日 B調査 平成4年10月23日

調査の概要 鶴岡市善宝寺の北東約800mの松葉から陳川に至る農道の東端にあり、西谷地遺跡の200mほど南東にあたる。標高は11mをはかる。地目は農道、畑地である。今回の調査は県営ほ場整備事業の計画に伴い実施された。

調査は、平成3年度の表面踏査で赤焼土器、土師器、須恵器などの遺物の散布が確認された農道両脇の畑地付近を中心に、1m方形の試掘坑を4カ所、ほぼ20m～40mおきに設定し、地山まで掘り下げた。

その結果、TP1、TP2でそれぞれ平安時代のもと思われる柱跡、溝状遺構が検出された他、TP3では土師器片が出土した。遺物包含層は表土下35cmの褐色粘土質シルト層である。

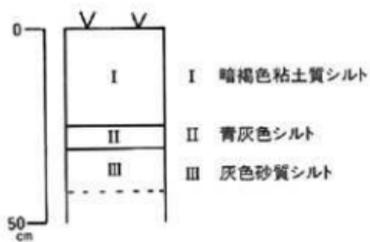
以上より遺跡は、平安時代の集落跡だと判断され、その範囲は東西40m、南北50mと推定される。



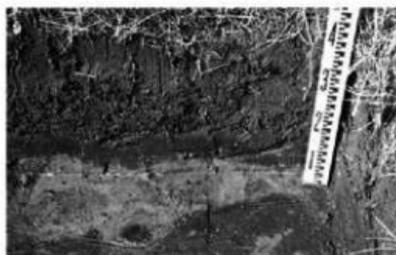
第30図 西田面遺跡概要図



遺跡近景（北西から）



TP1土層柱状図



TP2土層断面（東から）



TP2遺構検出状況（北から）



出土遺物（1/3）

(15) 西ノ川遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字下川字西谷地

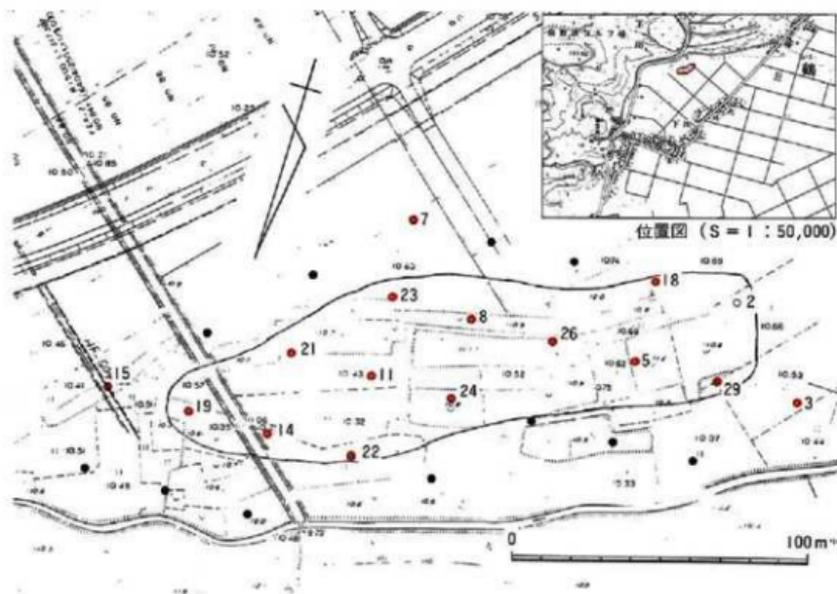
調査員 佐藤庄一 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 A調査 平成4年6月18日 B調査 平成4年10月23日

調査の概要 鶴岡市善宝寺の北東約1kmに位置する。遺跡の中心部は畑地で周囲には水田が広がるが、水田部分がかつての畑地が削平を受けている。遺跡は平成4年春の分布調査で新規発見された。今回の調査は県営ほ場整備事業の計画に伴い実施された。

調査は、表面踏査で遺物の散布が確認された山際の畑地付近を中心に、1m方形の試掘坑をおよそ20mおきに、合計で29カ所設定し、人力で地山まで掘り下げた。その結果T P 11で土壌、T P 26でピットと思われる遺構が検出されたほか、試掘坑の約半数にあたる16カ所から須恵器、赤焼土器が出土した。遺物が集中的に出土したのは、調査区中央部の畑地部分である。遺跡の範囲は東西200m、南北60m (面積は約9,000平方m) と推定される。遺物包含層は表土下20~30cmの暗褐色粘土質シルト層である。

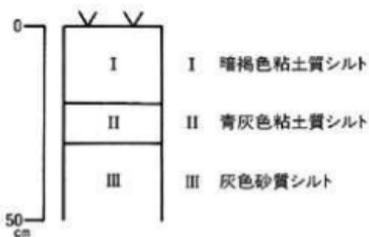
調査の結果から、遺跡は平安時代の集落跡と判断される。



第31図 西ノ川遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP11土層柱状図



TP26土層断面（東から）



TP11遺構検出状況（西から）



出土遺物（1/3）

(16) 上山崎遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字当山字上山崎

調査員 安部 実 植松 暁彦

調査期日 B調査 平成4年10月22日

調査の概要 今回の調査は、県営ほ場整備事業（高瀬川地区）との調整に資するためにおこなったものである。遺跡は遊佐町の北部、市街地の北西部上山崎地区に位置し、高瀬小学校の北西に隣接してある。北流する月光川右岸の平地に位置し、標高は約4.5mを測る。現況は水田である。

これまで本遺跡は地藏田（B）遺跡と中田浦（C）遺跡として扱っていたが、今年度までの分布調査で、二遺跡が一連の遺跡であることが明かとなった。遺跡名を字名からとって「上山崎遺跡」と改称した。

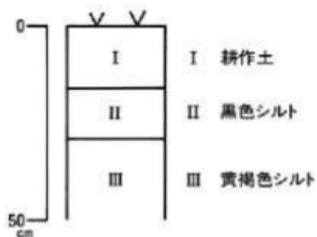
試掘調査した地区は、地藏田（B）遺跡と中田浦（C）遺跡との接点に当たり、対象地区に1m方形の試掘坑を51カ所設けた。表土下の地層は、表土から20～30cm未満を掘り、灰褐色シルトと細砂質土でしまっており安定している。また土層中に火山灰の堆積が確認されている。出土遺物には須恵器と赤焼土器がある。



第32図 上山崎遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP38土層柱状図



調査状況（東から）



TP30土層断面



出土遺物（1/3）

(17) 升川遺跡 (遺跡番号2,240)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字直世字根付六番割

調査員 野尻 侃 阿部明彦

調査期日 B調査 平成4年10月20～22日

調査の概要 今回の調査は、平成5年度に予定される県営ほ場整備事業（洗沢川地区）との調整に資する目的から実施したものである。

遺跡は遊佐町北辺部の水田地帯としては最も北側に位置し、その立地は西流する洗沢川に形成された扇状地上の微高地(自然堤防)と見る事ができる。標高は約6mを測り、現況は水田である。

調査は対象地区に50cm方形の試掘坑を257カ所設けて実施したが、遺跡と判断された一帯を除いては広範に泥炭層の発達が認められた。以上の調査結果から遺跡の広がり調査対象地区の南東辺域、東西170m・南北80mほどと確認される。また、遺物の分布状況は遺跡範囲と相応して認められ、東西二つの集中地点が存在すると推測される。

また、それぞれの集中地点では土坑や柱穴などの遺構が検出されており、出土遺物の須恵器・あかやき土器・青磁・中世陶器の存在から平安時代から中世にかけての集落跡と判断される。



第33図 升川遺跡概要図



遺跡近景（西から）



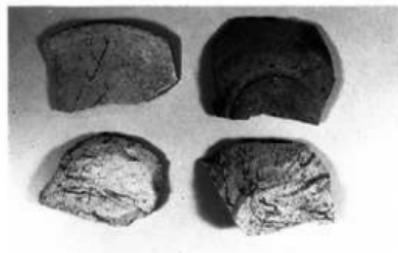
TP197土層柱状図



調査状況（西から）



TP70遺構検出状況



出土遺物

(18) 地藏田遺跡 (遺跡番号2,092)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字当山字上山崎

調査員 安部 実 植松 曉彦

調査期日 B調査 平成4年10月21日

調査の概要 今回の調査は、県営ほ場整備事業（高瀬川地区）との調整に資するためにおこなったものである。

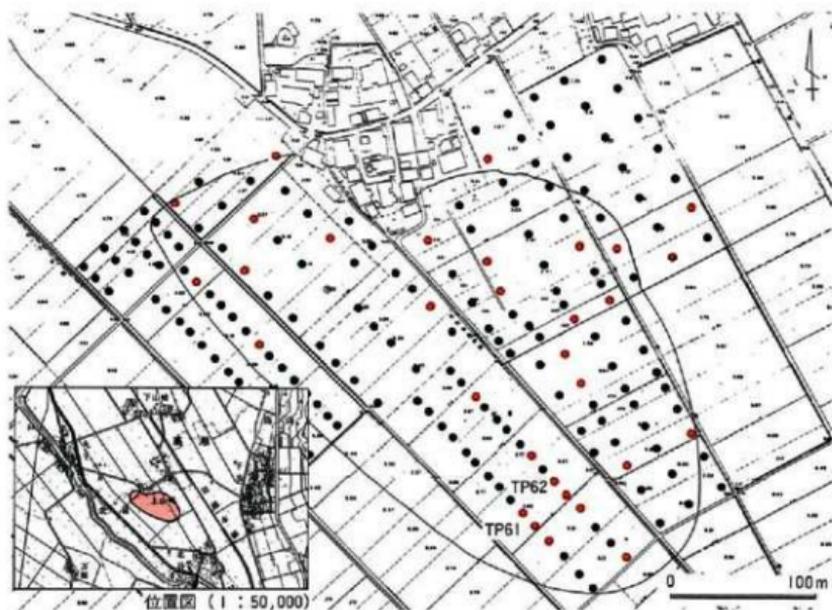
遺跡は遊佐町の北部、市街地北西部の上山崎地区に位置し、高瀬小学校の南方にある。北流する月光川右岸の平地にあたり、標高は約5mを測る。現況は水田である。

本遺跡は平成3年度に集落南周辺の試掘調査をおこなっている。今回はさらに前回の調査区域の周辺を調査して、遺跡の範囲を確認するためにおこなったものである。

表面踏査では遺物の散布は確認されなかった。

試掘調査では対象地区に50cm方形の試掘坑を100カ所設けた。遺跡範囲とした東南部のTP61・62を中心とした地域で遺物がまともに出てきている。表土下の地層は、表土から約30～40cmを測り、褐色シルトと細砂質土でしまっており安定している。

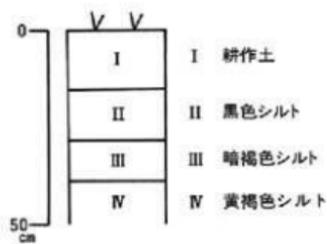
出土遺物には須恵器と赤焼土器がある。



第34図 地藏田遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



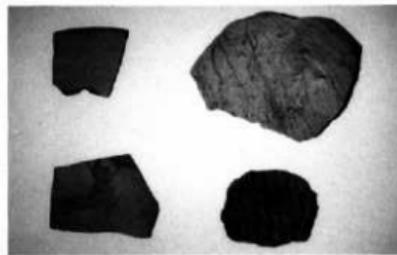
TP61土層柱状図



調査状況 (北西から)



TP94土層断面



出土遺物 (1/4)

(19) 野瀬遺跡 (平成元年度登録)

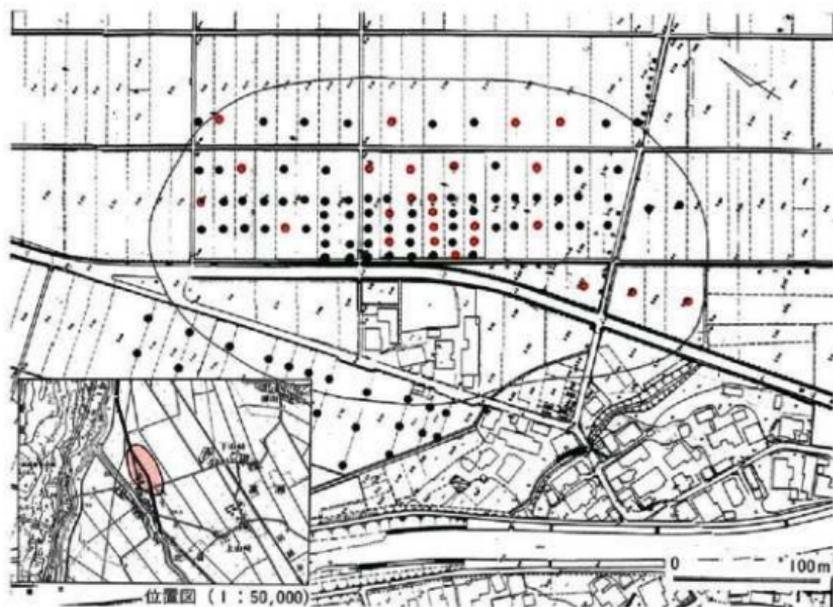
所在地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字野瀬、田屋敷

調査員 安部 実 植松 暁彦

調査期日 B調査 平成4年10月21日

調査の概要 今回の調査は、県営ほ場整備事業（高瀬川地区）との調整に資するためにおこなったものである。遺跡は遊佐町の北部、市街地の北西部丸子地区に位置する。北流する月光川右岸の平地に位置し、標高は約4mを測る。現況は水田と道路・宅地である。野瀬遺跡の周辺には月光川や高瀬川の氾濫によって形成された自然堤防上を中心として、奈良平安時代の遺跡群が点在している。東方には平成4年度に緊急発掘調査された中田浦遺跡がある。平安時代の集落跡で、掘立柱建物跡、井戸跡、板材列、畑跡などが検出されている。

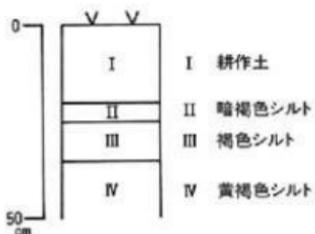
試掘調査では対象地区に50cm×1m方形の試掘坑を93カ所設けた。このうち遺物が集中して出土したTP36、85で遺物包含層を確認した。北側および東側辺は泥炭質の湿地層であった。TP30～52範囲の表土下の地層は、黄灰褐色シルトでしまっており安定している。遺物には須恵器と赤焼土器がある。



第35図 野瀬遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



TP41土層柱状図



調査状況 (南から)



TP33土層断面



出土遺物

(20) 木原遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字宮田字木原

調査員 安部 実 植松 暁彦

調査期日 B調査 平成4年10月20日

調査の概要 今回の調査は、県営ほ場整備事業（月光川下流地区）との調整に資するためにおこなったものである。遺跡は遊佐町の北部、市街地の北西部宮田地区に位置する。北流する月光川右岸の平地に位置し、標高は約6mを測る。現況は水田である。木原遺跡の周辺には月光川や庄内高瀬川の氾濫によって形成された自然堤防上を中心として、十数カ所の奈良平安時代の遺跡群が、南東から北西に向かって細長く断続的に点在している。本遺跡は平成4年度に遺跡城南東辺の6,400平方mを緊急発掘調査している。奈良から平安時代にかけての集落跡で、掘立柱建物跡、井戸跡、畑跡などが検出されている。

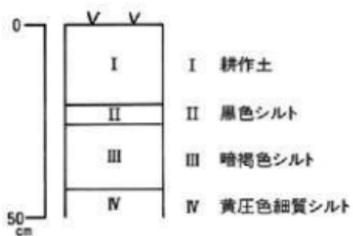
試掘調査した地区は緊急調査区の北西にあたる。対象地区に50cm×1m方形の試掘坑を60カ所設けた。このうちTP42、59、57などで部分的に遺物包含層を確認した。北側は泥炭質の湿地層であった。TP37～48の範囲の表土下の地層は、表土から28cm未満を測り、黄灰色シルトと細砂質土でしまり安定している。出土遺物には須恵器と赤焼土器がある。



第36図 木原遺跡概要図



遺跡近景（北西から）



TP42土層柱状図



調査風景（東から）



土層断面



出土遺物

(21) 小山崎遺跡 (遺跡番号2,214)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字吹浦字柴燈林、七曲堰ノ東

調査員 高橋 直 黒坂雅人

調査期日 B調査 平成4年10月28～30日

調査の概要 今回の調査は、平成5年度以降に予定される県営ほ場整備事業(洗沢川地区)との調整に資する目的から実施したものである。

遺跡は庄内平野の北西端に位置し、その立地は鳥海山西麓の泥流台地上および牛渡川右岸に形成された低湿地である。標高は約2～8mを測り、現況は水田と山林である。本遺跡は牛渡川をはさんで舟森遺跡と隣接している。

調査は対象地区となる水田部分に50cm方形の試掘坑を165カ所設けて実施した。このうち102カ所から遺構・遺物が検出された。遺物の分布は調査範囲のほぼ全域に認められるが、多くは磨滅が著しく、泥炭層への流れ込みと考えられる。その中で調査区域北東縁辺には良好な遺物包含層を伴った集中地点が把握された。出土遺物は縄文土器と石器の他、須恵器・あかやき土器など平安時代のもも若干含むようである。以上の結果から、遺跡は東西・南北各300mの広がりをもち、その主体は北東の台地上にあると判断される。



第37図 小山崎遺跡概要図



遺跡近景 (東から)



TP2土層断面 (北から)



TP2遺構検出状況 (北から)



出土遺物 (1/3)

(22) 舟森遺跡 (遺跡番号2,234)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字直世字舟森、五反割

調査員 高橋 直 黒坂雅人

調査期日 B調査 平成4年10月23、27～28日

調査の概要 今回の調査は、平成5年度以降に予定される県営ほ場整備事業(洗沢川地区)との調整に資する目的から実施したものである。

遺跡は庄内平野の北端部、箕輪集落の北西域に位置し、牛渡川によって形成された扇状地上に立地する。遺跡北縁部は島海山の泥流台地に接し、標高は約2mを測る。現況は水田である。

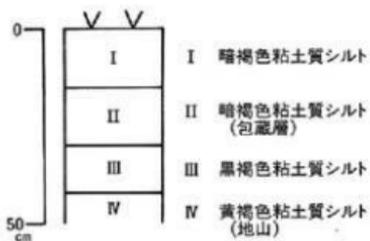
調査は対象地区に50cm方形の試掘坑を283カ所設けて実施した。堆積土の状況は遺跡中央の残丘縁辺と西側の一部を除いて泥炭層が広範囲に認められ、遺構は検出されなかった。遺物は50カ所の試掘坑から出土し、その分布状況は東西・南北各460mの範囲に広がっている。なお集中地点は特に認められず、泥炭層中への流れ込みの様相を呈すると考えられる。出土遺物は縄文土器・石器・あかやき土器などがあり、縄文時代および平安時代の包蔵地と判断される。



第38図 舟森遺跡概要図



遺跡近景（北東から）



TP114土層柱状図



TP101土層断面（南西から）



TP105土層断面（南西から）



出土遺物（1/3）

(23) 北目長田遺跡 (平成3年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町北目字長田

調査員 阿部明彦 植松暁彦

調査期日 B調査 平成4年11月5～6日

調査の概要 今回の調査は、県営ほ場整備事業(高瀬川地区)との調整に資する目的から実施したものである。なお、平成3年度に一部の試掘調査を実施しており、遺跡範囲がさらに周辺へ広がるものと推測された経緯がある。

遺跡は遊佐町の北西部、北目から丸子集落に至る国道345号沿線に位置し、その立地は北流する庄内高瀬川右岸に形成された自然堤防上と見ることができる。標高は約5.5mを測り、現況の大半が水田である。

また、北東に樺待遺跡、北西に野瀬遺跡等が隣接して存在し、同時代の集落遺跡群が特に密集して分布する様子は注目される。

調査は対象地区に50cm方形の試掘坑を160カ所設けて実施し、その結果遺跡範囲の南限は高瀬川、北限は旧河道ないし後背湿地の広がる水田地帯までと判断できる。東西560m、南北210mの範囲である。遺物の包蔵状況は全体に良好であったが、その中でも北西半部に分布の中心があると確認される。出土遺物は須恵器・あかやき土器の類であった。



第39図 北目長田遺跡概要図



遺跡近景 (北から)



TP92土層柱状図



調査状況 (北西から)



TP14土層断面



出土遺物 (1/3)

(24) 櫛待遺跡 (平成3年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町北目字櫛待

調査員 高橋 直 黒坂雅人

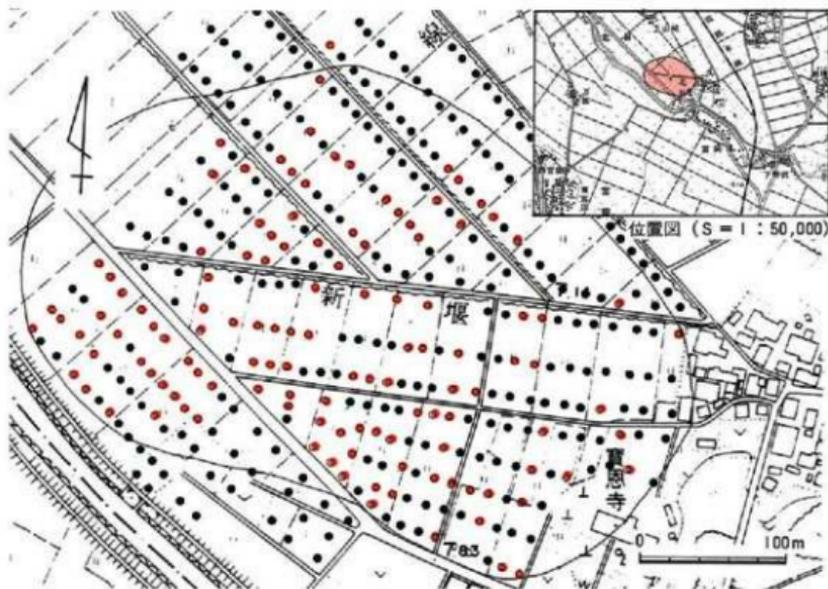
調査期日 B調査 平成4年11月5・6日

調査の概要 今回の調査は、平成5年度以降に予定される県営ほ場整備事業(高瀬川地区)との調整に資する目的から実施したものである。

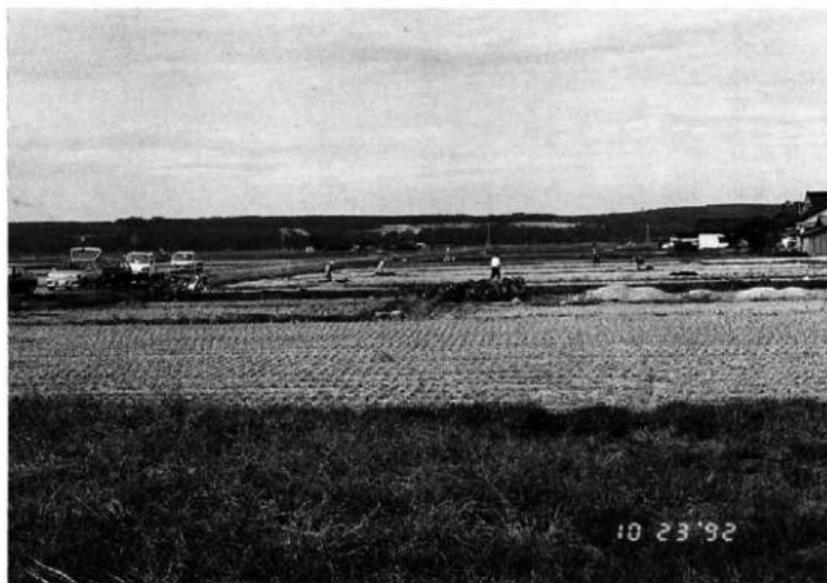
遺跡は遊佐町北西部、国道345号沿線の水田地帯に位置し、その立地は北流する庄内高瀬川右岸に形成された自然堤防上と見る事ができる。標高は約6mを測り、現況の大半は水田である。遺跡の北東には堂田遺跡、北西には北目長田遺跡など、同時代の集落遺跡が隣接する。

調査は対象地区に50cm方形の試掘坑を168カ所設けて実施し、36カ所から遺構、遺物を検出した。遺跡の広がり、は、昨年度の調査結果をふまえて東西460m・南北280mほどと推定される。

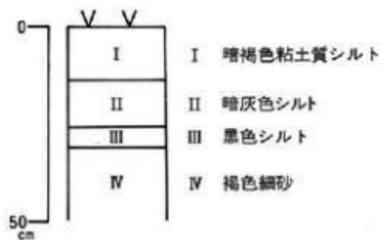
また、遺物の分布状況には大きく4つの集中地点が確認された。それぞれの集中地点では土坑や柱穴などが検出されており、出土遺物は須恵器・あかやき土器の類であった。以上のことから本遺跡は平安時代の集落跡と判断される。



第40図 櫛待遺跡概要図



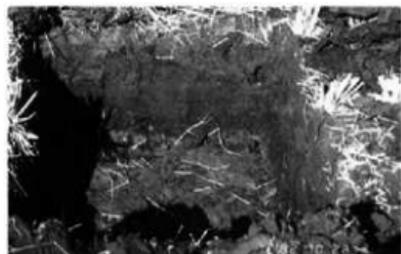
遺跡近景（南西から）



TP143土層柱状図



TP113土層断面（北西から）



TP34遺構検出状況（南東から）



出土遺物（1/3）

(25) 木戸下遺跡 (遺跡番号2,083)

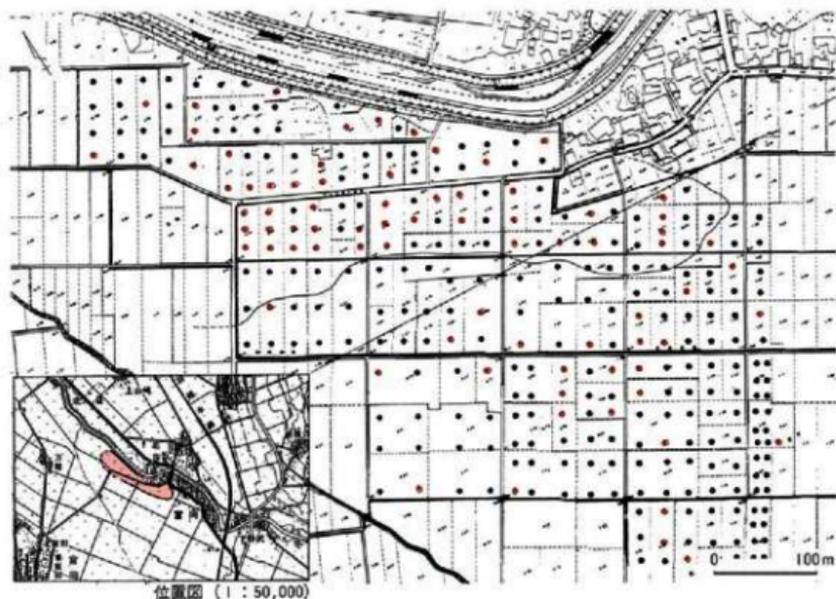
所在地 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字木戸下

調査員 安部 実 植松 暁彦

調査期日 B調査 平成4年10月27～30日

調査の概要 今回の調査は、県営ほ場整備事業（月光川下流地区）との調整に資するためにおこなったものである。平成3年度の試掘調査では事業区が広大なため遺跡範囲を確定するに至らず、今回はその追加調査となる。遺跡は遊佐町の北部、市街地の北部富岡地区に位置する。北流する庄内高瀬川左岸に隣接する平地に位置し、標高は約6mを測る。現況是水田と畑地である。堤防沿いにある畑地是水田面より一段高くなっている。地元民からの聞き取りによると、元の畑地は現在より広範囲にあり、後に水田となったそうである。この畑地周辺で遺物の散布が認められる。上高田遺跡が南東に隣接してある。

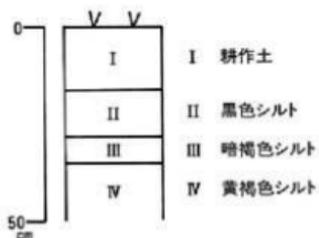
対象地区に50cm方形の試掘坑を約200カ所ほど設けた。南側は泥炭質で現地表面から約50cmほど深くなっている。土層観察と遺物の出土状況から高瀬川の河岸堤防にのるように遺跡が存在している。遺跡域の、西辺および南辺部分にややまとまった包含層が認められた。なお遺跡範囲はさらに北西に広がる可能性がある。



第41図 木戸下遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



TP243土層柱状図



調査状況



TP309土層断面



出土遺物 (1/3)

(26) 上高田遺跡 (遺跡番号2,080)

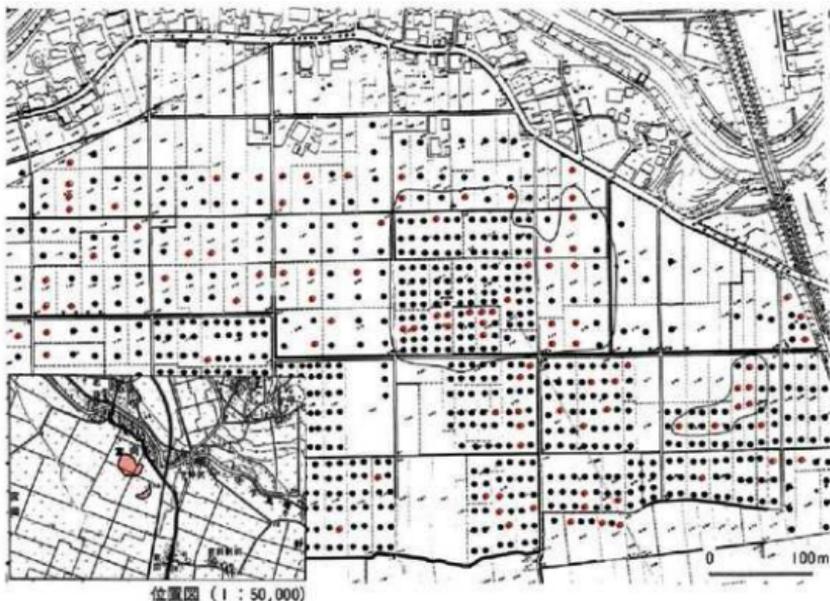
所在地 山形県飽海郡遊佐町大字富岡字上家ノ前

調査員 安部 実 植松 曉彦

調査期日 B調査 平成4年10月27～30日

調査の概要 今回の調査は、県営ほ場整備事業（月光川下流地区）との調整に資するためにおこなったものである。平成3年度の試掘調査では事業区が広大なため遺跡範囲を確定するに至らず、今回はその追加調査となる。遺跡は遊佐町の北部、市街地の北部富岡地区に位置する。北流する庄内高瀬川左岸に隣接する平地に位置し、標高は約8mを測る。現況は水田である。北西に木戸下遺跡が隣接してある。

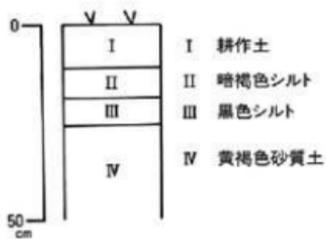
対象地区に50cm方形の試掘坑を約200カ所ほど設けた。南側は泥炭質で現地表面から約50cmほど深くなっている。土層観察と遺物の出土状況から、本遺跡も木戸下遺跡同様に、高瀬川の河岸堤防にのるように遺跡が存在していると考えられる。遺物の散布は地表面では確認できなかった。遺物包含層は散発的ではあるが、5～10cmの厚さで認められた。出土遺物には須恵器と赤焼土器がある。遺物の出土範囲は広範囲に見られるが、摩滅しており保存状態は良好とはいえない。



第42図 上高田遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TPI3土層柱状図



調査状況



土層断面



出土遺物（1/3）

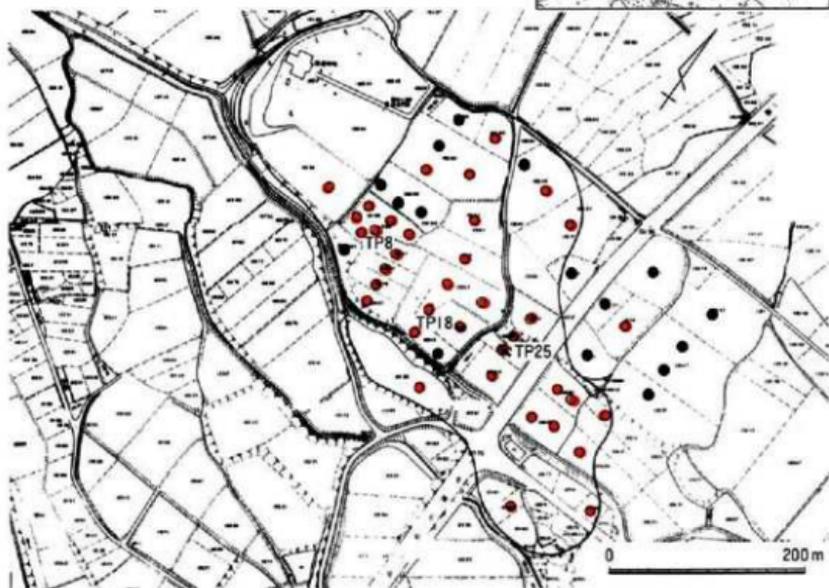
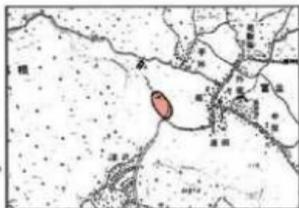
(27) 宮の前遺跡 (遺跡番号615)

所在地 山形県村山市大字富並字宮の前

調査員 阿部明彦 安部 実 植松曉彦

調査期日 B調査 平成4年10月13・14日

調査の概要 今回の調査は県営ほ場整備事業富並地区との調整に資するためにおこなった。遺跡は村山市の北部を東流する富並川左岸の段丘上に位置する。標高は約130mを測り現況は水田と畑地である。段々状の田畑から往時はかなり起伏のあったことが推測される。試掘調査では対象地区に1m方形の試掘坑を55カ所設けた。このうちTP8、18、25などで良好な堆積状況の遺物包含層と、土壌などの遺構を検出した。しかし、調査区全域で見た場合に土層の移動が顕著にみられた。開田するときの切り土や盛り土の状況が多くの試掘坑で階段状に確認された。なお開田されずに残った畑地では縄文土器や石器などの遺物が多量に散布している。なお富並川の河岸段丘上には西海湖遺跡(縄文時代中期の大環状集落)や、最上川と合流する雫の瀬の段丘上に川口遺跡(縄文時代後期の集落跡)などの大規模な集落が営まれていたことが近年の発掘調査で明らかになった。



第43図 宮の前遺跡概要図



遺跡近景 (南から)



TP5土層柱状図



調査状況 (西から)



TP3I土層断面



出土遺物

(28) 松原遺跡 (遺跡番号1,180)

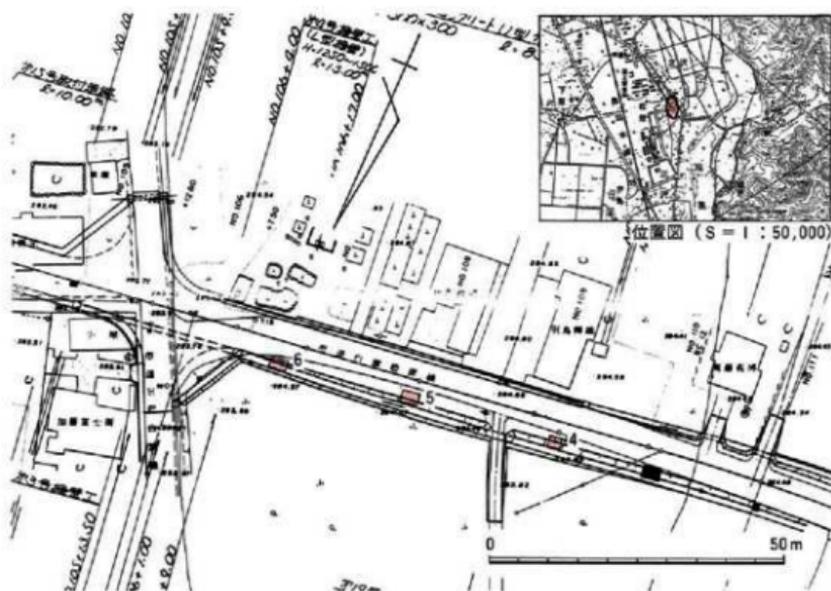
所在地 山形県米沢市大字関根字白旗松原

調査員 佐藤庄一 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年10月6日

調査の概要 米沢市街地の東南4.5km、羽黒川左岸の河岸段丘上に位置し、国立米沢病院に近接する。遺跡付近の地目は畑地、荒地、墓地、道路、宅地である。昭和46年に置賜考古学会が発掘調査を実施しているが、昨年表面踏査では遺物は発見されていない。今回の調査は、農免道(米沢南部2期)の現道拡幅工事にかかわる試掘調査である。

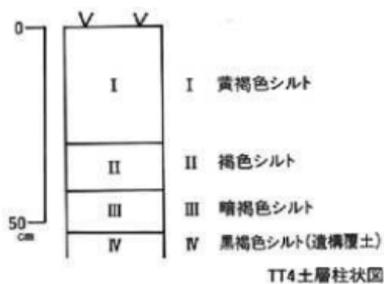
調査は、市道白旗松原線工事予定地区に、縦2m、横2m～3mのトレンチを7カ所設定し、地山まで掘り下げた。その結果、TT4、5、6の3カ所で遺構遺物の検出をみた。出土遺物は縄文前期に属すると思われる土器片のほか、石器が出土した。遺物包含層はII層およびIII層の暗褐色シルト層である。遺構としては土壇およびピットが数基検出されている。以上から遺跡は縄文前期の集落跡で、その範囲は東西90m、南北220mと推定される。



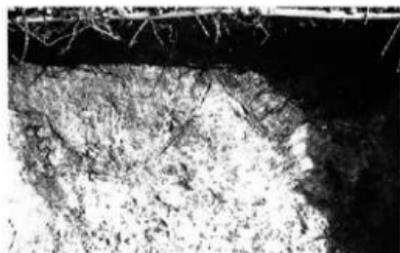
第44図 松原遺跡概要図



遺跡近景（南から）



TP6土層断面（北から）



TP4遺構核出状況



出土遺物

(29) 家根合遺跡 (遺跡番号1,706)

所在地 山形県東田川郡余目町大字家根合字五輪塚3他

調査員 野尻 侃 植松 曉彦

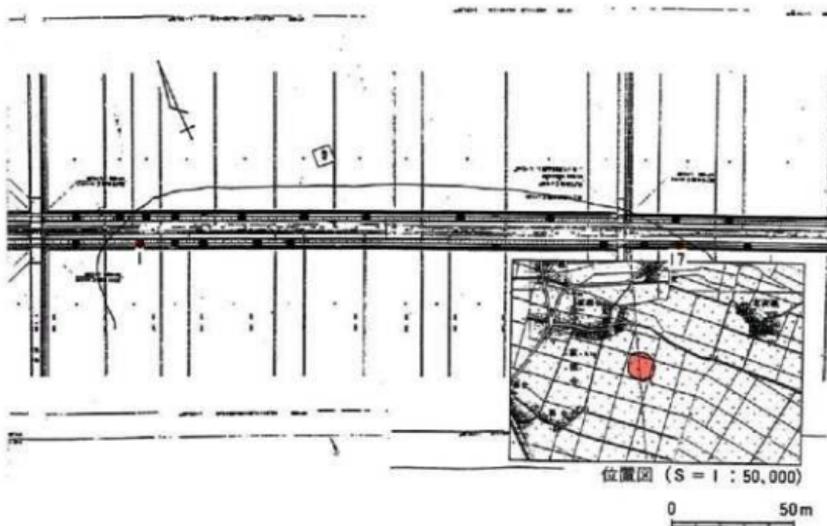
調査期日 B調査 平成4年11月26日

調査の概要 遺跡は余目町役場の西方2.5km、京田川右岸の自然堤防上に位置する。家根合集落の南東水田中にあたる。標高は5.7mを測る。

今回の調査は、県営農免農道整備業（余目南部地区）との調整に資するために行ったものである。

調査は事業計画範囲に1m方形の試掘坑を22カ所設置して実施し、TP1・17の2カ所から遺物が検出された。計画の中心となる部分は現排水路と重なり、A調査では水路上や水田上や周辺の水田上面に遺物の散布が認められた。なお、本調査時の踏査では遺物の散布が認められない。

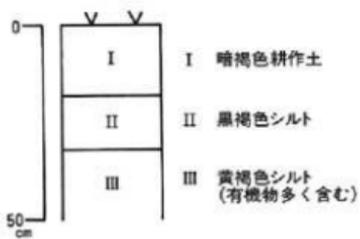
以上のことから、遺跡範囲は当初東西300m、南北300mほどと考えられたが、試掘による遺物集中域や、住民からの聞き取り結果等を総合すると、東西280m、南北320m程度の規模と考えられる。時期は縄文時代後期及び平安時代であり、時代相の重複する複合遺跡と推測される。



第45図 家根合遺跡概要図



遺跡近景（西から）



TP17土層柱状図



調査風景（東から）



TP1土層断面



出土遺物（1/3）

(30) 弓張平H遺跡 (遺跡番号522)

所在地 山形県西村山郡西川町大字志津字弓張平

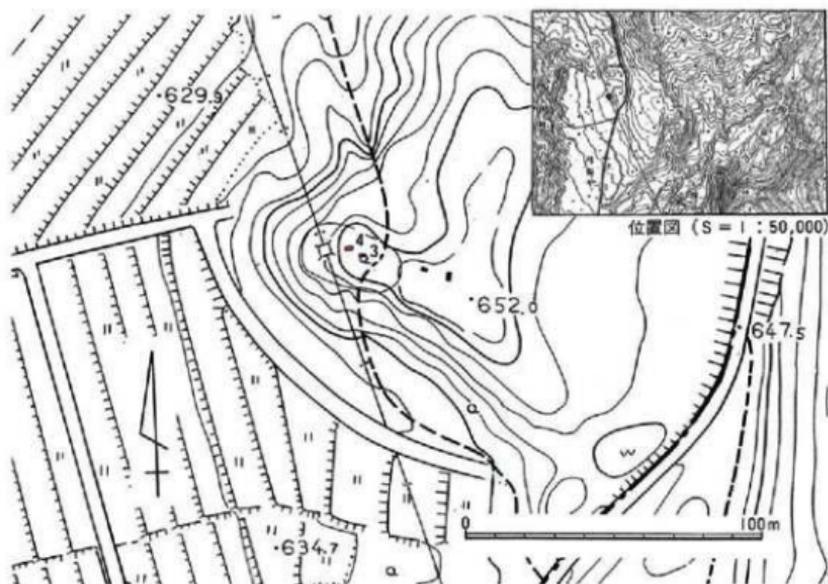
調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年7月16・17日

調査の概要 遺跡は弓張平公園駐車場の北東50mの小丘陵上にあり、標高は650mを測る。地目は雑木林からなる。県教委では昭和51年に試掘調査を実施し、旧石器時代の尖頭器等が出土している。今回の調査は都市計画公園事業(弓張平公園)にともなう試掘調査である。

丘陵上にある送電線用鉄塔付近で石鏃ほかの石器が表採されたが、試掘調査ではこの地点から東側にトレンチ(縦1m横3m)を4カ所設定して掘り下げた。その結果、東端の2地点では遺物検出はなかったものの、TT3、4でフレイク、チップ等の石器が10数点検出された。遺物の包含層はいずれもIIb層とした黄褐色シルト質粘土層(ソフトローム)である。

以上の結果から、遺跡は東西25m南北12mの範囲を中心とする旧石器時代の包蔵地と推定される。



第46図 弓張平H遺跡概要図



○：削片  
●：碎片

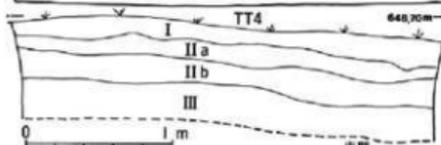
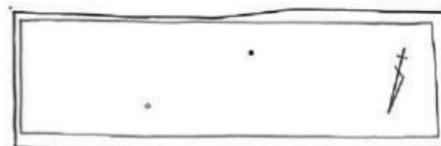
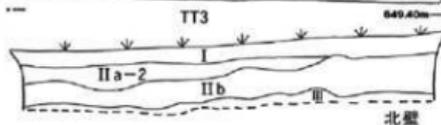
I：7.5YR2/3 極暗褐色粘土質シルト

IIa：7.5YR5/8 明褐色粘土質シルト(ソフトローム)

IIa-2：7.5YR3/4 暗褐色シルトがIIaに混る。

IIb：7.5YR5/8 黄褐色シルト質粘土(ソフトローム)

III：7.5YR/6 明褐色粘土(ハードローム)

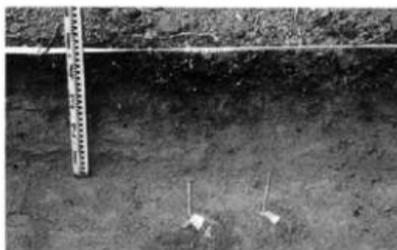


遺跡遠景 (南から)

第47図 弓張平H遺跡TT3、4遺物分布断面図



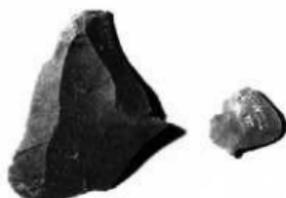
TT3遺物出土状況 (西から)



TT3土層断面 (南から)



TT3出土遺物 (1/1)



TT4出土遺物 (1/1)

図版49 弓張平H遺跡

(31) 弓張平<sup>ゆがひら</sup>遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県西村山郡西川町大字志津字弓張平

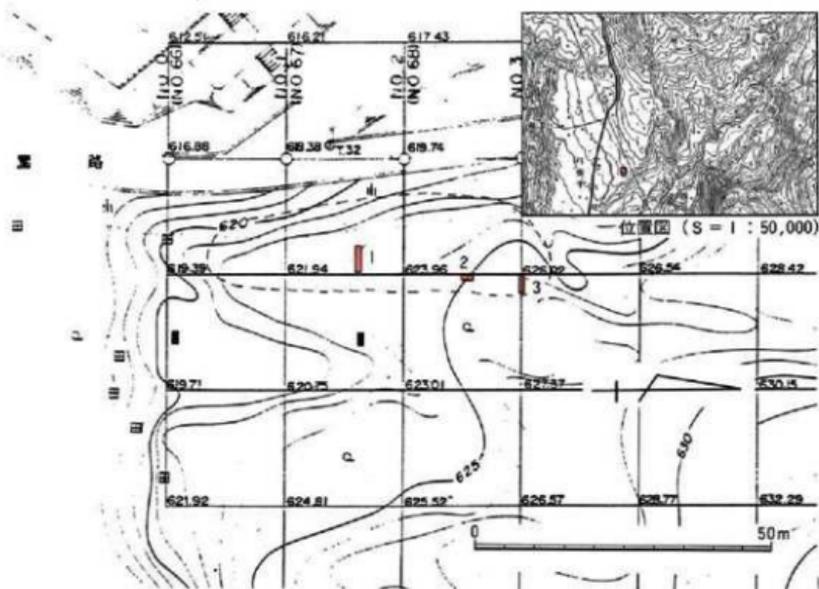
調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年7月9・10・14・15日

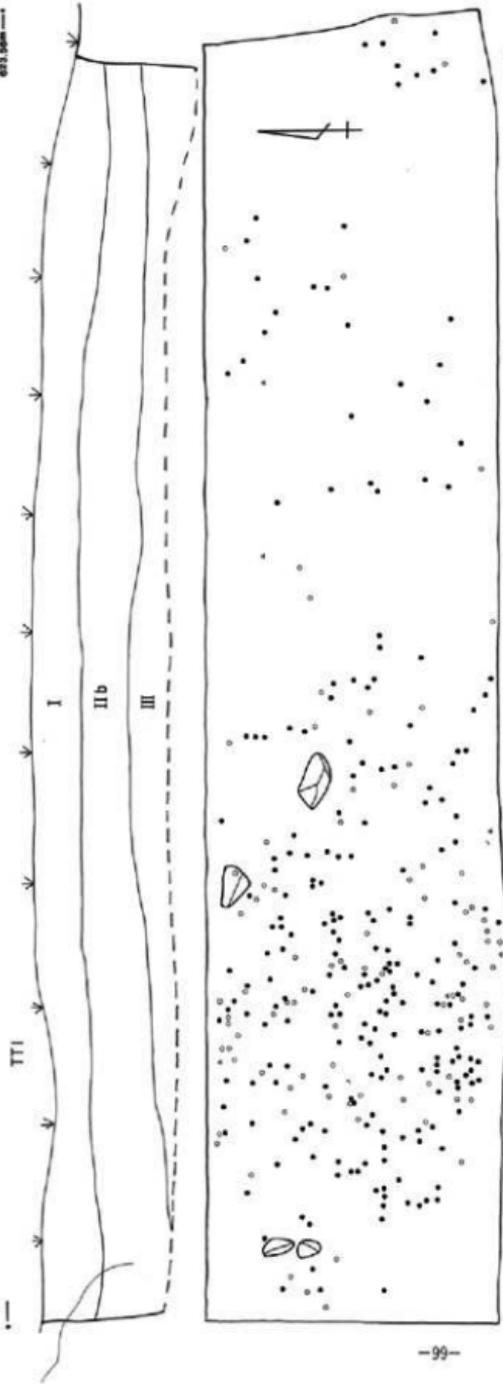
調査の概要 遺跡は弓張平公園内にある陸上競技場東側の台地上に位置し、地目は雑木林からなる。標高は623～626mをはかる。この調査は都市計画公園事業(弓張平公園)にともなう試掘調査である。

調査は、まず工事予定地区内で斜面上に石器が散布する地点の台地に5カ所のトレンチ(縦1m横2～5m)を設定して掘り下げ、3カ所から遺物を検出した。特にT1からはフレイク、尖頭器、スクレイパー、チップ、礫等合計で380点の石器の出土をみた。I～III層いずれもが包含層となり、表土下の第II層(厚さ約40cm)に垂直分布の中心があると考えられるが、今回の調査では包含層を掘りきっていない。

また遺跡は旧石器時代の包蔵地で、その範囲は東西20m南北60mと推定されるが、東側と北側への広がりについては再調査を行って、さらに正確な範囲を確定する必要がある。なお、弓張平公園内で、後期旧石器時代のスキー状スポール、石刃が採集された(図版51)。



第48図 弓張平遺跡概要図

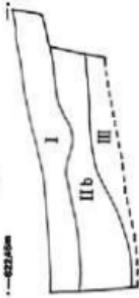


- 凡例
- : 尖頭器
  - : スクレイバー
  - ◐: 刮片
  - ◑: 砕片

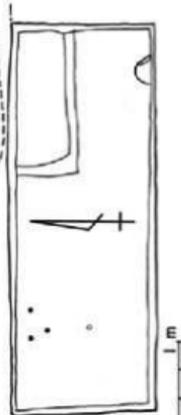
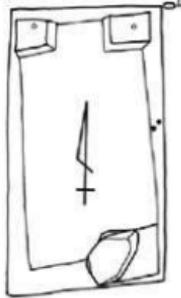
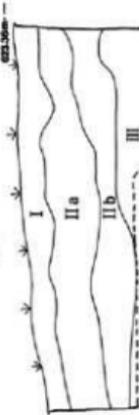
基本層序

- I : 7.5YR2/3 暗褐色粘土質シルト (原積層、米の根を多数含む)
- IIa : 7.5YR5/6 明褐色シルト質粘土 (ソフトローム)
- IIb : 10YR4/6 褐色シルト質粘土 (ソフトローム)
- III : 10YR5/6 明褐色粘土 (ハードローム)

TT2



TT3



第49図 弓張平O遺跡遺物分布断面図



遺跡遠景 (南西から)



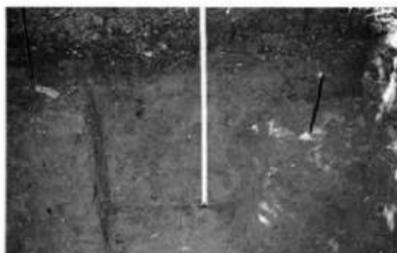
TT1調査状況 (東から)



TT1遺物出土状況 (東から)



TT1土層断面 (南から)



TT2土層断面 (南から)



TT3土層断面 (南西から)



TT1出土石器 (尖頭器) (1/2)



同左裏面 (1/2)



TT1出土石器（スクレイパー）（1/2）



同左裏面（1/2）



TT1出土石器（スクレイパー他）（1/2）



同左裏面（1/2）



弓張平公園採取スキー状スポール（1/2）



同左側面（1/2）



弓張平公園採取石刃（1/2）



同左裏面（1/2）

(32) 塔の腰遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県鶴岡市大字井岡字塔の腰

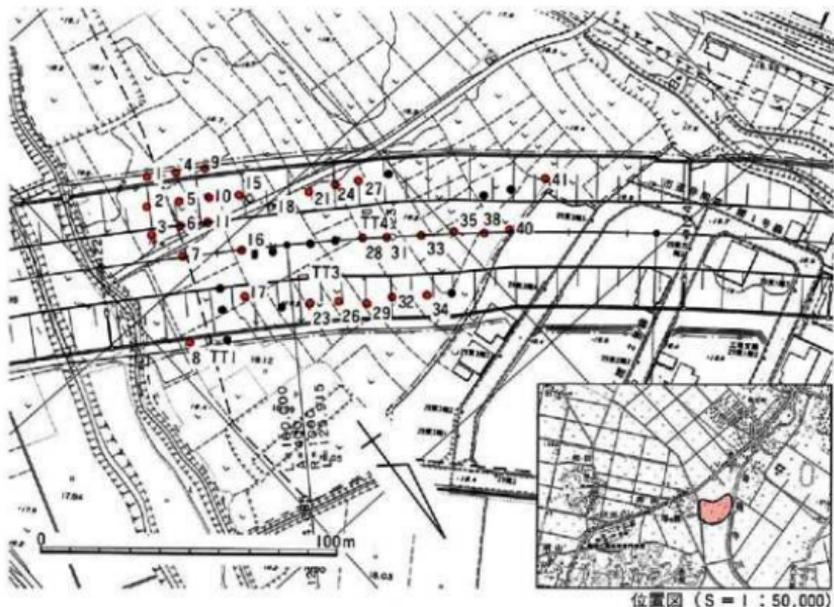
調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 A調査 平成4年7月3日 B調査 平成4年12月8・9日

調査の概要 青龍寺川左岸の河岸段上に位置し、地目の大半は畑地および宅地からなる。標高は18mをはかる。今回の調査は東北横断自動車道酒田線（朝日～酒田間）建設にともなう分布調査である。

試掘調査では工事予定区域内の畑地に、ほぼ10mおきに試掘坑（1m方形）およびトレンチ（縦1m横3～4m）を設定し、合計46カ所を人力で地山まで掘り下げた。その結果、半数以上の31カ所から遺構遺物の検出をみた。出土遺物は赤焼土器、須恵器と中世陶器で、農道の南部およびT P 29、31に集中する。包含層は表土下15～36cmの暗褐色（または黒褐色）シルト層である。遺構は土壇、溝跡、ピット、河川跡で、T P 1、4、7、23等で検出された。

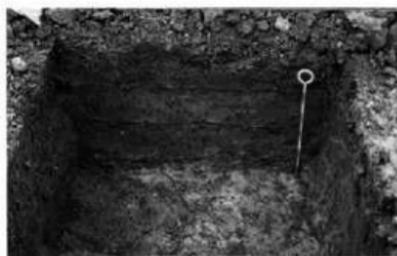
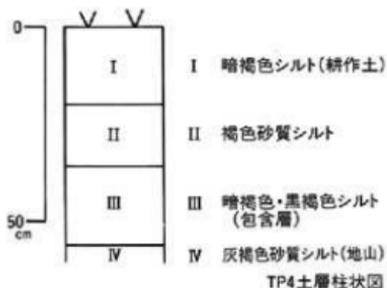
遺跡は平安時代および鎌倉～室町時代の集落跡だと判断される。遺跡の推定範囲は東西290m、南北230mである。



第50図 塔の腰遺跡概要図



遺跡近景 (東から)



TP4土層断面図 (西から)



TP6遺構検出状況 (北から)



出土遺物 (1/3)

(33) 柳沢A遺跡 (遺跡番号1,945)

所在地 山形県東田川郡柳沢町大字西荒屋字柳沢

調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄

調査期日 B調査 平成4年10月12～14日

調査の概要 遺跡は柳沢町役場の南西方約4km丘陵端に立地する。標高は85～108m前後を測り、地目はブドウ、梨の果樹園となっている。

今回の試掘調査は東北横断自動車道酒田線建設工事との調整を図る目的で実施した。沢を挟んで南側を第1地点、北側を第2地点とし、第1地点ではおよそ10mおきに1m四方の試掘坑を設定し、35カ所の坪掘り後、6カ所でトレンチ掘りを実施した。また、第2地点では4カ所でトレンチ掘りを行った。

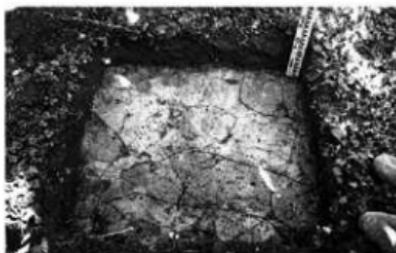
その結果、舌状の台地となる第1地点は開田によって削平を受けている部分があるものの、北東部で縄文時代前期の土器片、石器が出土し土壌、柱穴等の遺構が検出された。南向きの斜面となる第2地点ではTT1で板碑、TT2で石篋、TT3でV字状の溝、TT4で経塚の可能性が高い集石が検出された。遺跡の範囲は第1地点が東西75m、南北30m、第2地点が東西80m、南北60mで、第1地点は縄文時代の集落跡、第2地点は中世の仏教に関係する祭祠遺構を有する遺跡と考えられる。



第51図 柳沢A遺跡概要図



遺跡遠景（南西から）



第1地点TP27遺構検出状況（南から）



第1地点TP32検出柱穴（南から）



第2地点近景（南から）



第2地点TT1板碑（東から）



第2地点TT4検出経塚（東から）



TP26土層柱状図



第1地点出土遺物（1/2）

(34) 高瀬山遺跡群 (遺跡番号429~432、平成元年度範囲修正)

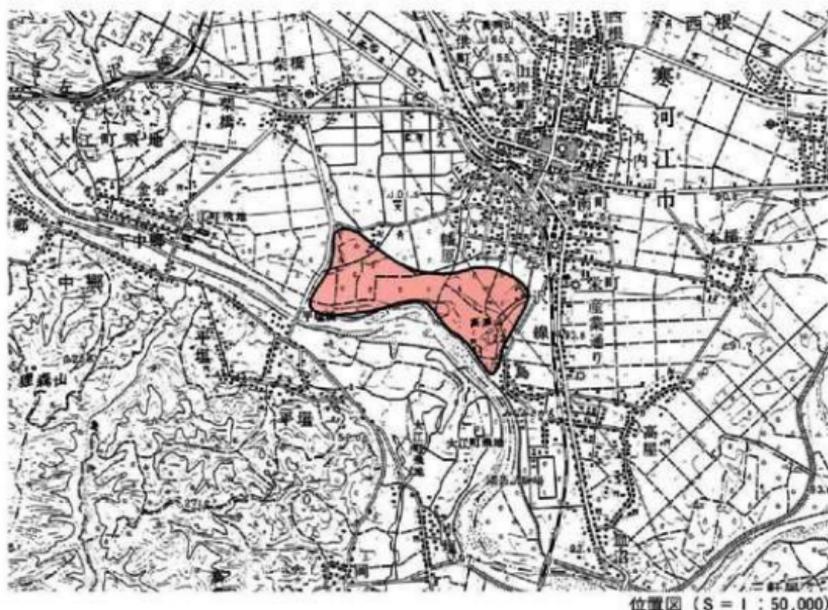
所在地 山形県寒河江市大字島・寒河江・柴橋

調査員 長橋 至 須賀井新人

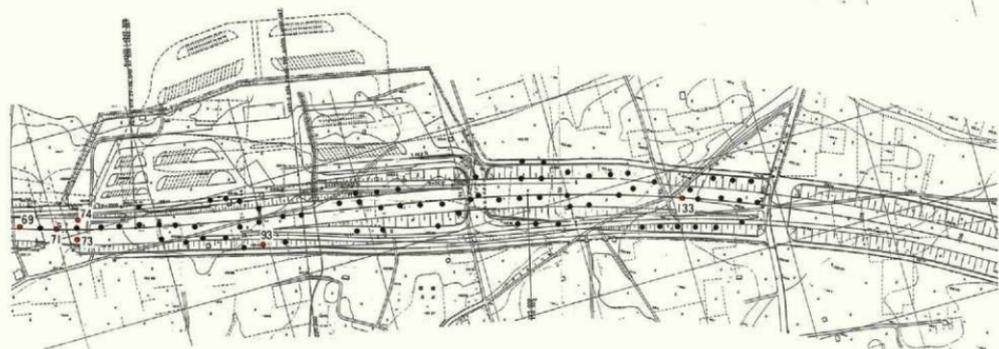
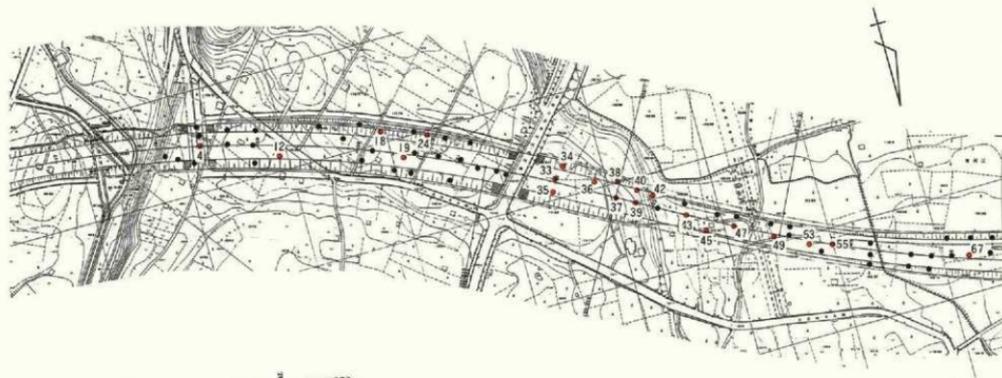
調査期日 平成4年11月24日~12月3日

調査の概要 今回の調査は、東北横断自動車道酒田線寒河江月山沢間との調整に資するためにおこなった。対象地区が未買収のため、地権者の了解を得た上での調査である。調査は、計画路線内に約20m間隔で1×1mの試掘坑を全体で147カ所設定し、地山まで掘り下げながら遺構・遺物の分布状況を探った。その結果、75以西でやや遺構・遺物は希薄になるが、74以东ではほぼ全域で遺構・遺物が確認された。特に35では縄文時代の住居跡、37では焼土、49では大量の平安時代の土器が認められた。75以西でも93・133で平安時代の遺物の散布が認められている。

周知の高瀬山遺跡群との関連では、今回調査対象となった部分については、東側から高瀬山I・D・B・Kの4遺跡が該当する。各遺跡の範囲は地形あるいは遺構・遺物の散布状況からとらえたものだが、今回の調査では、遺跡範囲とされるエリア外からの遺構・遺物の確認も多く、74以东では対象地区ほぼ全域で連続する遺跡群となることが明らかとなった。なお、75以西についても用地買収後、さらに綿密な調査が必要と考えられる。



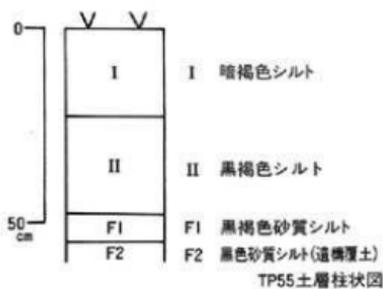
第52図 高瀬山遺跡群位置図 (S = 1 : 50,000)



第53図 高瀬山遊歩道詳概要図



遺跡近景（東から）



TP55土層断面



出土遺物（縄文、1/3）



出土遺物（平安、1/4）

(35) 山居遺跡 (遺跡番号498)

所在地 山形県西村山郡西川町大字水沢字山居

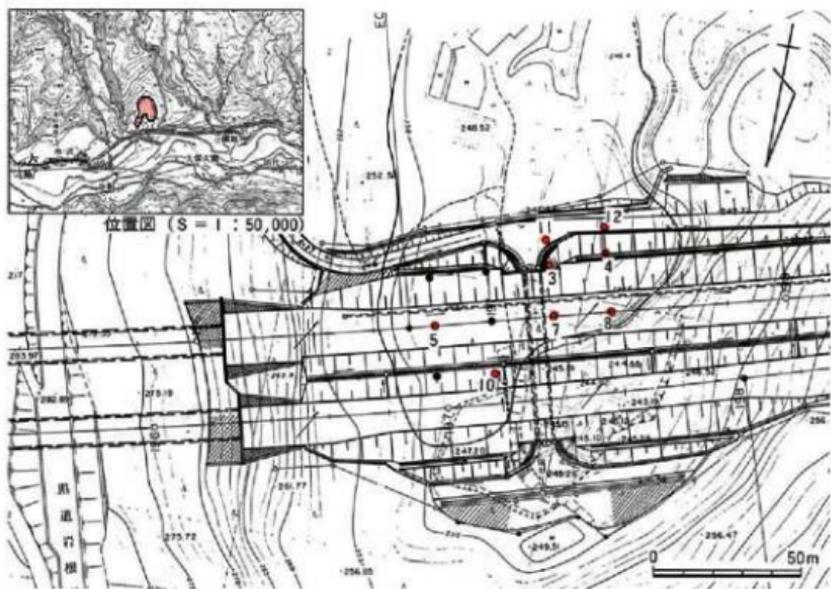
調査員 長橋 至 須賀井新人

調査期日 B調査 平成4年11月19日

調査の概要 遺跡は西川町役場の北西約4km、寒河江川左岸の河岸段丘に位置し、水沢川左岸の茅畑を中心とした台地上に立地する。標高248mで、沖積面との比高は約40mを誇る。地目は宅地・畑地・山林となっている。

今回の調査は、東北横断自動車道酒田線(寒河江～月山沢間)が遺跡北半部を横断することとなったため、遺跡の範囲や性格を明らかにし、事業との調整に資する目的でおこなった。平成2年度に基礎調査として実施した表面踏査の結果、台地一帯から多量の遺物が採集された経緯がある。調査は、遺跡範囲にかかる計画路線内に12カ所の試掘坑(TP)を設定し、地山面まで掘り下げて遺構・遺物の有無とそれまでの深さや堆積層を記録した。

調査の結果、8カ所から縄文土器や石器剥片が出土した。周辺より一段高い台地状畑地の試掘坑からはすべて遺物が出土しており、ピット状の遺構も一部で検出された。特に、台地縁辺の傾斜地に設定したTP7では、流れ込みによる多量の土器・石器が出土している。これら出土土器から、縄文時代中期の集落跡であると考えられる。



第54図 山居遺跡概要図



遺跡近景（南東から）



TP11土層断面



出土遺物（石器、1/3）



出土遺物（土器、1/3）

(36) 清水脇2遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県村山市大字土生田字清水脇1791-4、1805-1他

調査員 名和達朗

調査期日 平成4年11月10日

調査の概要 本遺跡は、国道13号の尾花沢市と大石田町方面へのY字路から南東約250mの距離で、西方へ開く山間の北側尾根の山麓部に位置する。地目は、西方へなだらかな斜面を呈する畑地である。標高は、82~83mを測る。その周辺は水田で、遺跡の東側は、山間を埋める様に水田が奥まで細長く延びている。県教委が、平成元年11月14日この一帯について、分布調査による表面踏査を行った際、遺物の散布は確認できなかったが、遺跡の立地が予測される微高地を呈する地形であることから、遺跡可能性地とした地区である。

今回の試掘調査は、国道13号山形北バイパス計画に伴い、遺跡所在の確認について実施したもので、調査の結果、縄文・平安時代の集落跡の所在が確認された。

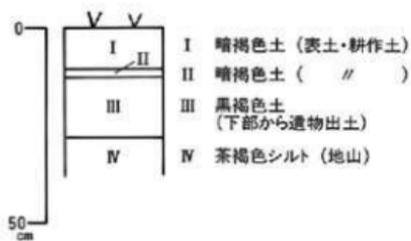
調査は、計画路線内について、約1×9m及び1×6mの2本のトレンチを入れ、地山上面までの掘り下げを基準に遺構・遺物の検出を行った。遺構は、トレンチを斜めに横断する溝跡と考えられるプランが確認された。確認面は、現地表面下36~56cmの深さである。遺物は、縄文時代の土器・石器と平安時代の土器が出土した。



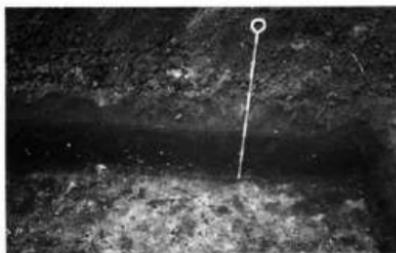
第55図 清水脇2遺跡概要図



遺跡遺景（南から）



TT1土層柱状図



TT1土層断面（南から）



TT1遺構検出状況（西から）



出土遺物（1/3）

(37) <sup>しんまちろしよ</sup>新町後遺跡 (昭和56年度登録)

所在地 山形県新庄市大字鳥越字新町後・本宮後

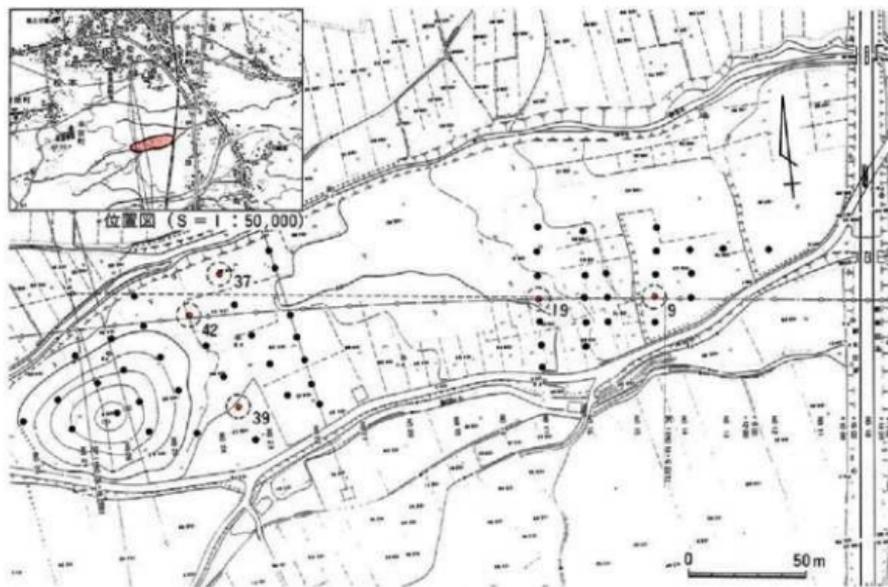
調査員 名和達朗

調査期日 平成4年11月12・13日

調査の概要 本遺跡は、新庄市街地の南側、国道13号と同47号亀割バイパスとの交差路から西方へ約200m、JR奥羽本線すぐ西側の畑地及び水田に位置する。標高は、104～106mを測り、遺跡の南方500mを西流する新田川右岸の段丘上に立地する。この一帯について、昭和56年11月に県教委が分布調査による表面踏査を実施した際、遺物の散布が確認され新規に登録されたものである。

今回の試掘調査は、国道47号新庄南バイパスの計画にともない実施したものである。調査は、計画路線内について10～20m間隔で、1×1mの坪掘りを57カ所入行った。

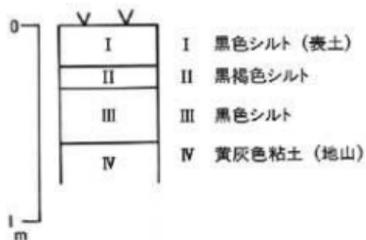
遺跡の東端は、地山面まで整地が行われ、TP9の地山上面から石器が数点出土した以外、遺構・遺物は確認できなかった。中央から西側では、TP19・37・39・42からピットが検出されたが、遺物包含層は確認できなかった。遺物の内容から縄文時代の所産と考えられるが、整地等による2次的な堆積層地点があることや、遺構・遺物確認地点の分布状況から、面的な集落跡の確認までにはいたらなかった。



第56図 新町後遺跡概要図



遺跡遺景（南から）



TP39土層柱状図



TP19遺構検出状況（南から）



TP39遺構検出状況（西から）



出土遺物（1/3）

(38) 岡ノ台遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県西置賜郡白鷹町大字畔藤字岡ノ台

調査員 名和達朗 長橋 至

調査期日 B調査 平成4年10月28～29日

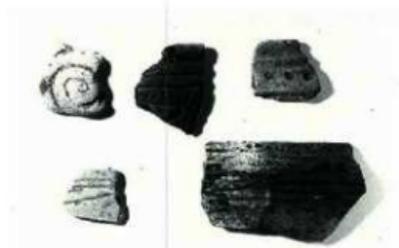
調査の概要 今回の調査は、国道287号道路改良との調整に資するためにおこなった。対象地区が未買収のため、地権者の了解が得られた地点に限り調査を実施している。調査は、計画路線内に27カ所（1×1m）の試掘坑を設定し、地山まで掘り下げながら遺構・遺物の分布状況を探った。その結果、TP5で柱穴とみられる土色変化、TP21～27で縄文時代晩期の遺物包含層、住居跡と考えられる黒色の土色変化が確認された。遺物は整理箱に約1箱程出土している。なお、TP14付近では過去に地権者によって農作業中に縄文時代の完形土器が出土したとの情報も得られている。

遺跡は今回調査対象とした部分を含め、東西500m・南北450mの範囲をもつものと考えられる。

なお、本報告書作成期間中同事業にかかる立会い調査をおこない、1～5の範囲で、古墳時代前期の「土師器」が出土したことを付記しておく（本遺跡の緊急発掘調査時に報告予定である）。



遺跡近景（南から）



出土遺物 (1/3)



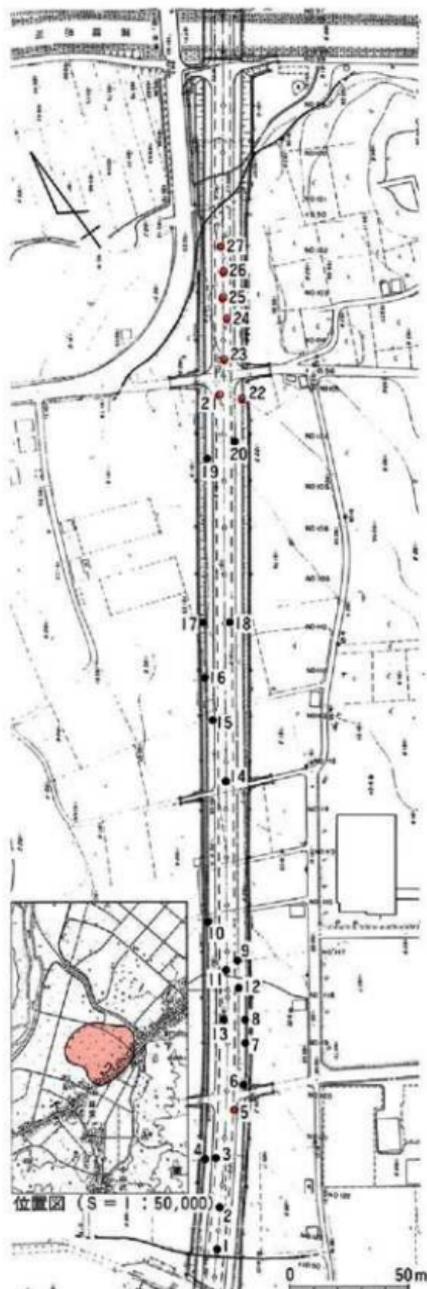
TP5遺構検出状況



TP23遺構検出状況



TP22土層柱状図



第57図 岡ノ台遺跡概要図

図版59 岡ノ台遺跡(2)

(39) 市野々向原遺跡 (遺跡番号1,425)

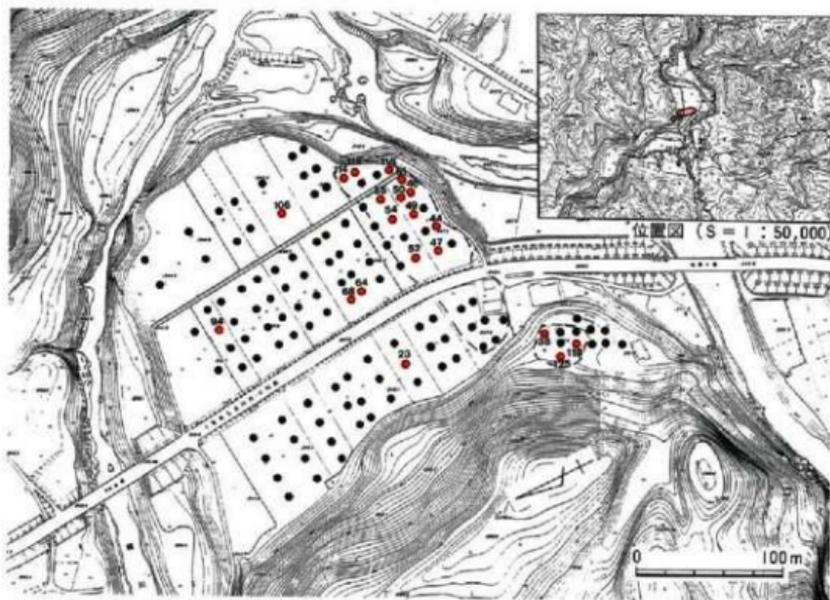
所在地 山形県西置賜郡小国町大字市野々向原道下・道上

調査員 名和達朗 眞壁 建

調査期日 平成4年11月16～20日

調査の概要 本遺跡は、市野々地区を蛇行しながら北流する横川左岸の舌状に張り出す段丘上に立地する。標高は、247・253mを測る。ここを平成元年11月15日に、県教委が分布調査による表面踏査を行い、横川に架かる主要地方道川西・小国線木の谷橋と市野々橋間の畑地と水田畦畔から、縄文時代の石器を確認した。

今回の試掘調査は、横川ダム建設工事に伴い実施したものである。調査は、先の分布調査結果の遺跡範囲を基に、段丘面の水田及び山麓部の原野を対象に、1×1mの坪掘りを125カ所入れ行った。水田部分は、各田1枚につき15～20m間隔で2～4カ所の割合で試掘を行った。遺構は、TP38・115からピットが1基検出されたのみである。遺物は、東西210m・南北50mの範囲で、主に段丘南側縁辺部及び山麓部の山麓部から確認された。水田部分は、深さ30～40cmに遺物包含層が残る地点も一部みとめられるが、ほとんどが昭和20年代後半のほ場整備による攪乱を受けている。出土遺物は、フレイクと採集品の寛状石器で、土器は1点も確認できなかった。



第58図 市野々向原遺跡概要図



遺跡近景（北西から）



TP52土層柱状図



TP52土層断面



TP46遺物出土状況



出土遺物 (1/3)

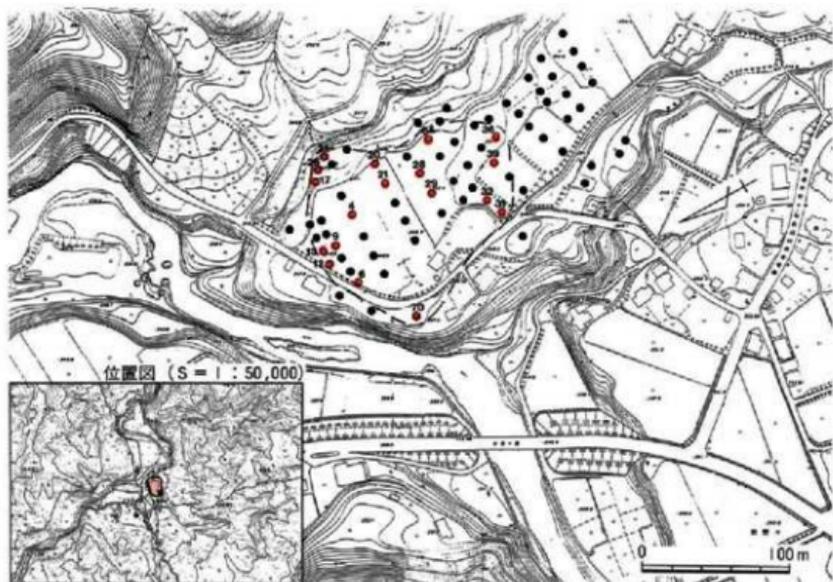
(40) 野向遺跡 (平成元年度登録)

所在地 山形県西置賜郡小国町大字市野々字野向

調査員 齋藤主税 眞壁 建

調査期日 B調査 平成4年11月25～27日

調査の概要 本遺跡は横川ダム建設計画の中で水没予定となったことから、事業者との協議を行うため試掘調査を実施したものである。遺跡は横川を挟んで市野々向原遺跡のすぐ南側の標高約250mの段丘上に立地する。この段丘はさらに南の桜峠方面より流れる2本の沢によって東西を区切られる。現況と聞き取りから、すでにほ場整備が終了している模様であった。試掘調査は1m方形の試掘坑を地形や水田の区画を見ながら10m～15m間隔で計75カ所を設定、地山まで掘り下げた。その結果地表下30cmあたりまでは客土であり、その下はすぐ地山か若干の黒色土層が残っていた。遺構はT P 4・32・39など数カ所の試掘坑から確認されたものの、大幅に破壊を受けていた。遺物はスクレイパー・石筥・フレイク等が17カ所出土した。土器は出土していない。ほとんどが盛土層との境からの出土で、遺物が動かされている可能性が高い。ただしT P 17付近はまわりよりも低いため、盛土のみで削平は受けておらず、残りは良いほうであった。この状況から一部を除いてほ場整備により大部分はかなりの削平・盛土が行われており、遺跡の状態は良好ではない。



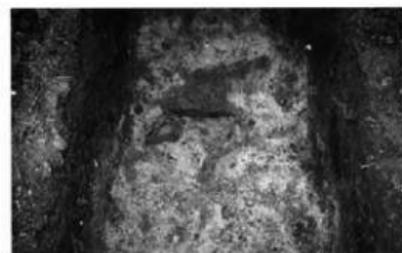
第59図 野向遺跡概要図



遺跡近景（北西から）



TP17土層断面



TP32遺構検出状況（南から）



出土遺物（1/3）

(41) <sup>あずささわ</sup>小豆澤館跡 (平成3年度登録)

所在地 山形県長井市大字平山字小豆澤2758-1~4、2760-1

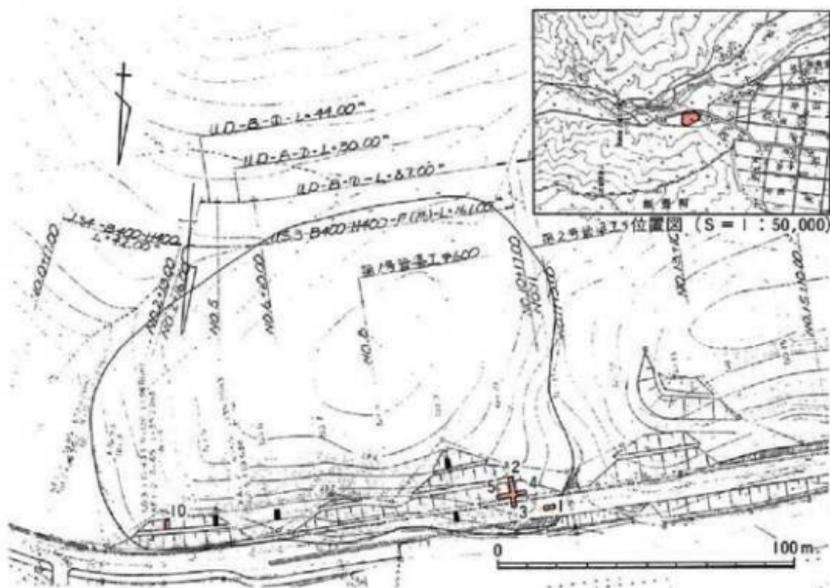
調査員 佐藤庄一

調査期日 A調査 平成4年7月8日 B調査 平成4年10月12・13日

調査の概要 長井市平山の野川第一発電所の東約500mに位置し、野川右岸の山地に立地する。標高は250~285mをはかる。遺跡は平成3年12月に新規発見された。今回の調査は長井ダム建設工事に伴う県道付け替え工事との調整を目的として実施された。

調査では、工事によって館跡が削平される部分(長さ160m、幅10~20m)に、幅1m、長さ2~6mのトレンチを10カ所設定し、地山まで掘り下げた。ただし中央部は急斜面で調査が不可能なため除外した。

その結果、中世の遺構は、調査区西端で礎石根固め石が検出された。また縄文時代のものと思われる落ち込みが、調査区東端で検出されたほか、第5トレンチでは、石器4点(フレイク3片、石核1点)が出土した。第5トレンチの包含層の厚さは約5cmである。その他のトレンチでは、遺物の出土はなく、遺物包含層も認められなかった。以上の結果から、遺跡は縄文時代の包蔵地、室町~戦国時代の城館跡と判断され、遺跡範囲は東西160m南北120mと推定される。



第60図 小豆澤館跡概要図



調査区近景（南東から）



TT5土層柱状図



土層断面（南から）



横割め石検出状況（南から）



出土遺物（1/3）

(42) <sup>みやげ</sup>宮下遺跡 (遺跡番号1,259)

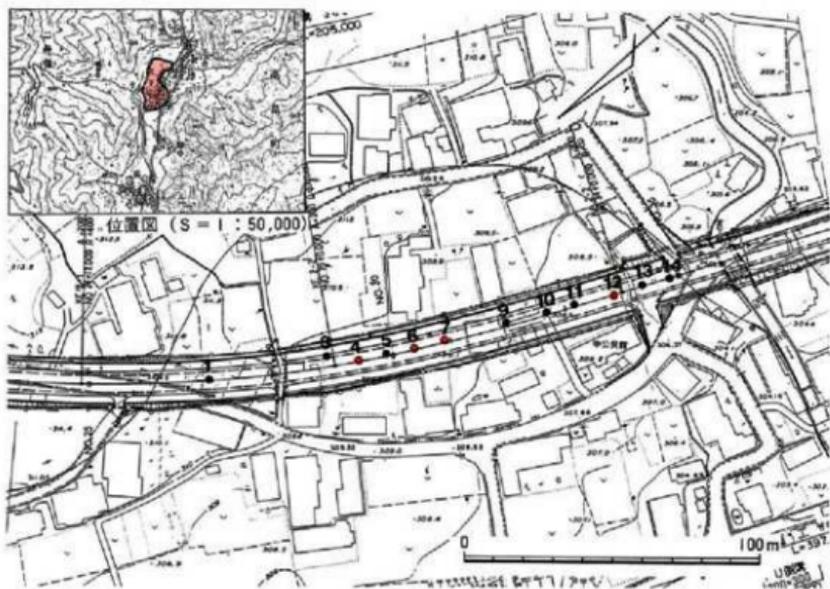
所在地 山形県東置賜郡高畠町大字二井宿字宮下

調査員 渋谷 孝雄 高橋 直

調査期日 A調査 平成4年9月3・4日 B調査 10月7日、12月9日

調査の概要 高畠町宮下公園北側から観音寺集落にかけての屋代川の河岸段丘上に位置し、地目は水田、畑地、宅地等からなる。標高は303～313mをはかる。今回の調査は一般県道橋下高畠線の道路改良工事との調整をはかるため実施された。A調査の段階でスクレイパー、縄文土器などの遺物の散布が確認された地区を中心に試掘調査を実施したところ、宮下公園内は5カ所設定したいずれのトレンチでも遺物遺構の検出はなかった。しかし公園南東部の畑地からは14カ所の試掘坑のうち4カ所で縄文土器片が出土した。試掘坑はいずれも礫を大量に含むものが多いが、遺物が出土した地点では礫は比較的少ない。遺構は検出されなかった。包含層は表土下20～23cmの暗褐色砂質シルト層（または極暗褐色シルト層）である。

試掘調査の結果から遺跡は、縄文時代の包蔵地と判断される。遺跡範囲は東西200m南北450mと推定されるが、出土地点は遺跡南東部に当たる。



第61図 宮下遺跡概要図



(43) 黒藤館跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県西置賜郡白鷹町大字畔藤字館ノ内

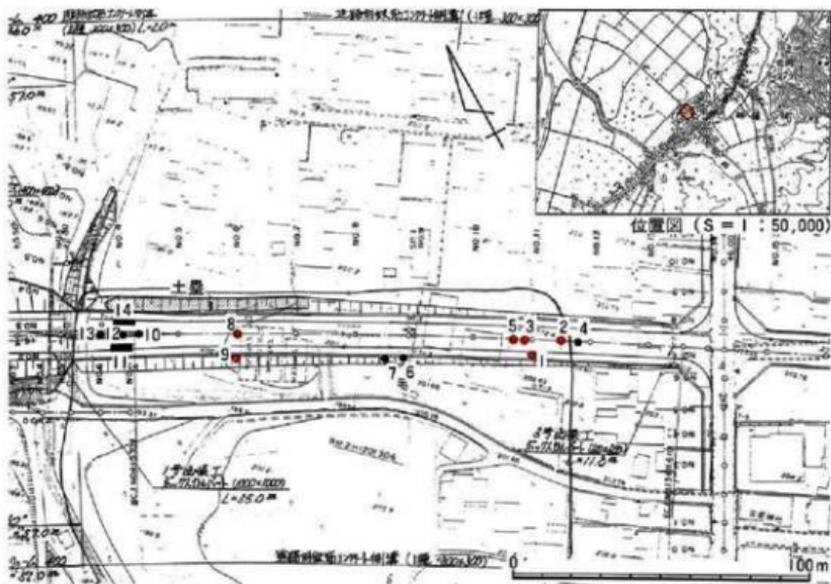
調査員 名和達朗 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 A調査 平成4年9月22日 B調査 平成4年10月29・30日

調査の概要 今回の調査は、一般県道南陽白鷹線道路改良との調整に資するためにおこなった。A調査では遺物の散布状況を重点に踏査した際、土塁状の高まりを確認、さらに小字名が「館ノ内」という聞き取りが得られた。

B調査では、計画路線内に12カ所(1×1m)の試掘坑および2本のトレンチ(1×7m)を設定し、地山まで掘り下げながら遺構・遺物の分布状況を探った。その結果、1～3・5で館跡の東側を区切ると考えられる堀跡の覆土が確認された。また、8・9では、幅30cm程の溝跡2条が検出された。土塁は館跡の北側に良好に遺存している。高さ2m前後を測り、東側で民家により一部削平されている。土塁北側には自然の地形を利用した空堀りも良好に遺存している。B調査では遺物は未検出であった。

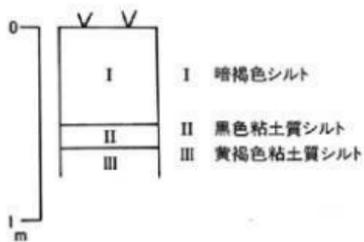
本館跡の範囲は、今回調査対象とした部分を北限とし、東西170m、南北170mの広がりをもつと考えられる。なお、調査対象地区に平行する町道は、後世に掘削されたものである。



第62図 黒藤館跡概要図



遺跡遠景（西から）



TP8土層柱状図



遺跡近景（東から）



TP9遺構検出状況



土塁遺存状況（西から）

(44) 向名高遺跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県最上郡大字名高字鞭打野

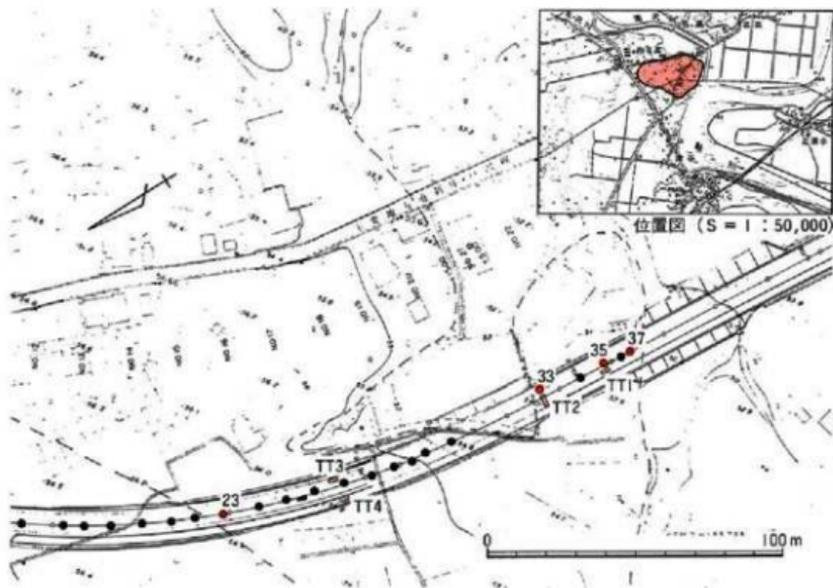
調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 B調査 平成4年9月28～30日

調査の概要 JR陸羽西線津谷駅の北方約1.2kmの鮭川段丘上に位置し、地目は畑地、果樹園、荒地である。標高は50～56mをはかる。今回の調査は主要地方道新庄戸沢線(交付金A)道路建設との調整を図るために行われた。

調査では道路予定地区内のセンターラインに沿ってほぼ10mおきに試掘坑(1m方形)を設定し、人力で地山まで掘り下げる方法をとった。その結果、遺物の畑地内への散布もみられる、調査区南部では遺構遺物が確認された。試掘坑の番号ではTP23、33、35、37およびTT1、2、3、4である。出土遺物は、縄文土器片、土鉄、フリイクである。遺物の包含層は表土下18cm～30cmの黒色粘土質シルト(または暗褐色シルト質粘土)である。遺構としては、ピット(TP35)、土壇(TT3他)および溝跡(TT1)が、検出された。

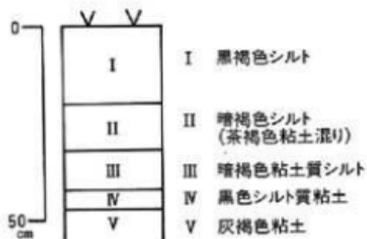
以上より、遺構遺物の検出状況は散漫であるが、遺跡は縄文の集落跡と判断され、遺跡範囲は東西500m、南北250mと推定される。



第63図 向名高遺跡概要図



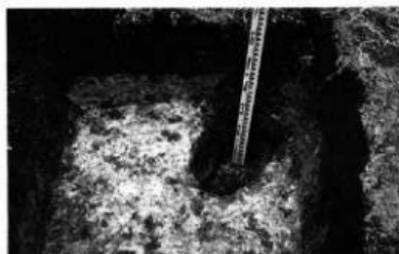
遺跡近景 (北から)



TP33土層柱状図



TP33土層断面 (南から)



TP35ピット検出状況 (南から)



出土遺物 (1/2)

(45) 津谷遺跡 (遺跡番号1,099)

所在地 山形県最上郡戸沢村大字津谷字鞭打野1330地

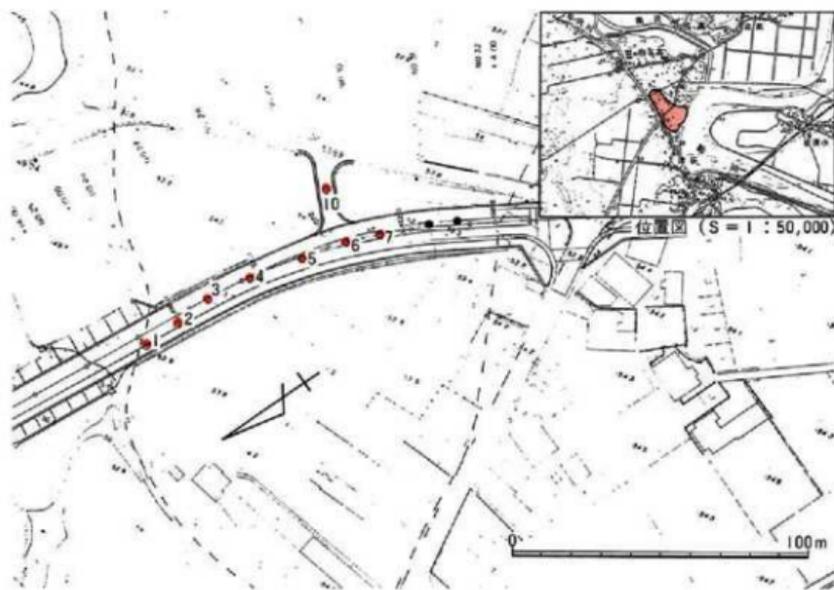
調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 B調査 平成4年9月29・30日

調査の概要 JR陸羽西線津谷駅の北方約750mの鮭川段丘上に位置し、向名高遺跡とは沢を挟んですぐ南側の舌状台地上に立地する。地目は畑地、荒地で、畑地上には多数の遺物の散布が見られる。標高は53mである。今回の調査は主要地方道新庄戸沢線（交付金A）道路建設との調整を図るために行われた。

調査では道路予定地区内のセンターラインに沿って10mから15mおきに試掘坑（縦1m横2m）を設定し、10カ所を人力で地山まで掘り下げる方法をとった。その結果、宅地周辺部を除き、いずれも良好な遺構遺物の検出をみた（TP1～7、TP10）。出土遺物は、縄文後期の土器片、フレイクである。遺物の包含層は表土下20cm～30cmの黒色シルト質粘土層である。遺構としては、竪穴住居跡（または土壇）と思われる遺構やピットが検出された。

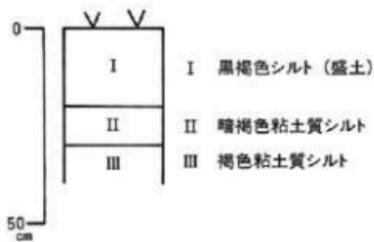
以上より、遺跡は縄文後期の集落跡と判断され、遺跡範囲は東西100m、南北500mと推定される。



第64図 津谷遺跡概要図



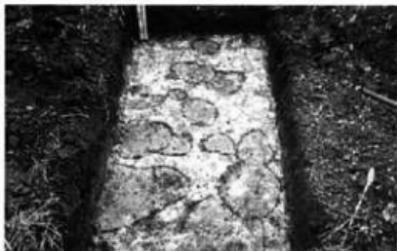
遺跡近景（東から）



TP3土層柱状図



TP6土層断面（北から）



TP4遺構検出状況（西から）



出土遺物（1/3）

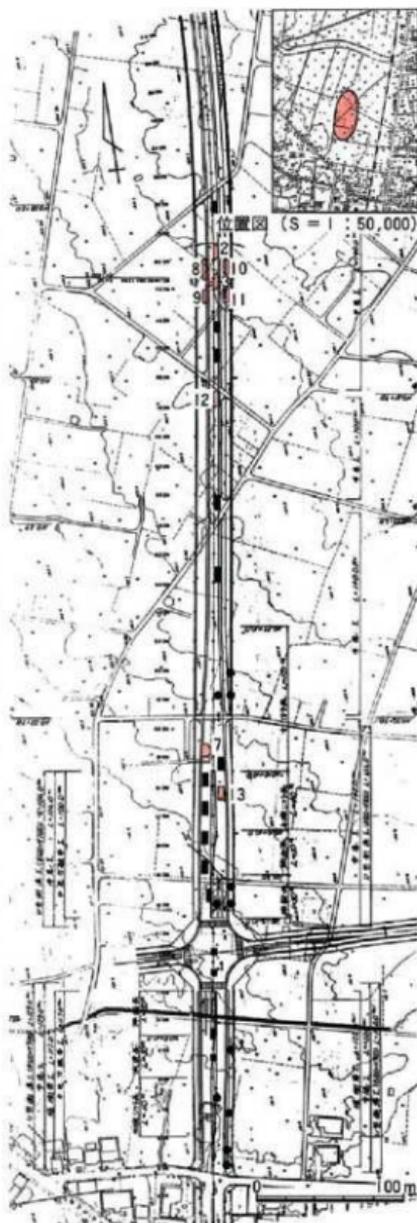
#### (46) 押切遺跡 (平成元年度登録)

所在地 山形県天童市大字高木字押切

調査員 名和達朗 長橋 至

調査期日 平成4年10月20～23日

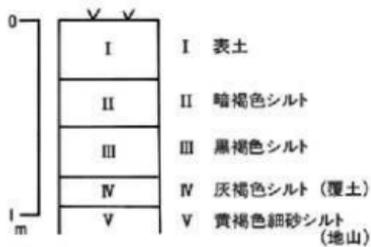
調査の概要 天童市街北部は、乱川扇状地に入り、西流する押切川左岸及び、JR奥羽本線西側に広がる果樹畑地帯である。遺跡は、平成元年度この一帯について、県教委が分布調査による表面踏査を行った際確認された新規のもので、扇状地先端部付近に立地する。標高は、104mを測る。試掘調査は、主要地方道山形天童線道路改良の計画に伴い平成2年11月6・7日に一度実施しているが、今回の調査は、そのさらに北側の確認と、前の調査時の未調査部分について実施したものである。本遺跡の南側は古井戸遺跡(平成元年度登録)に隣接するが、調査の結果連続する遺跡であることから、前回の調査では古井戸遺跡と押切遺跡に分けて報告書(1991年)に記載されているが、ひとつにまとめ押切遺跡の範囲に含めた。調査は、計画路線内について、1×1mの坪掘り11カ所、約1×10mのトレンチ24本を入れて行ない、うち9カ所から遺構・遺物が検出された。確認面は、現地表面下30～70cmの深さである。TT3・7・12からは、竪穴住居跡あるいは溝跡と考えられるプランが確認された。出土遺物は、土師器である。前回の試掘調査内容も含めると、遺跡は、南北435mの範囲に分布する平安時代の集落跡と考えられる。



第65図 押切遺跡概要図



遺跡近景（南から）



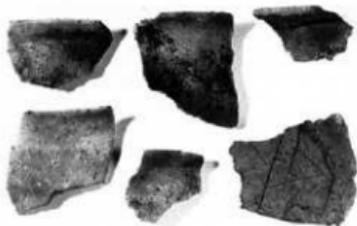
TT3土層柱状図



TT3土層断面（南西から）



TT3遺構検出状況



出土遺物（1/3）

(47) 八幡<sup>やま</sup>2遺跡 (遺跡番号1,482)

所在地 山形県西置賜郡白鷹町大字鮎貝字八幡3・1211他

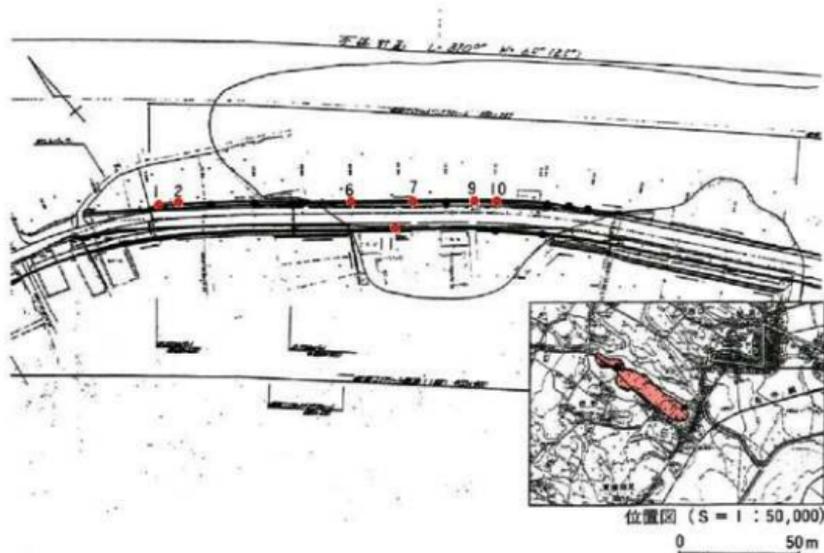
調査員 野尻 侃 植松 曉彦

調査期日 A調査 平成4年9月22日 B調査 平成4年12月15日

調査の概要 遺跡はJRフラワー長井線鮎貝駅の西方約300m、朝日山系から東流する八幡川右岸の舌状の台地上に立地し、標高は200～210mを測る。

今回の調査は主要地方道長井・白鷹線まちづくり総合整備事業(山口地区)との調整に資するために行ったものである。

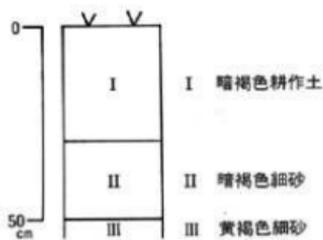
調査は現道拡幅部分に1m方形の試掘坑を16カ所設置し、TP1・2・6・7・9～11の7カ所から遺物が検出された。しかし、TP1・2は周囲の畑地より1m程低く、畑地からの流れ込みによる出土と考えられる。遺物包含層は地表下16～19cmに厚さ20～32cmの暗褐色粘質土層が確認され、縄文土器片、石器、石皿等が出土したが、桑の根等により攪乱が著しく明確な包含層とは判断出来なかった。遺構確認面までの深さは53～65cmと深く、土器が出土したTP11では遺構はなかった。しかし、住民からの聞き取り結果等や周辺の畑地開墾時では土器片や石器が出土するとのことから、遺跡の範囲は東西約650m、南北約120mと推測される。時期は縄文時代中期の集落跡と考えられる。



第66図 八幡2遺跡概要図



遺跡近景（南西から）



TP9土層柱状図



調査風景（東から）



TP9土層断面



出土遺物（1/3）

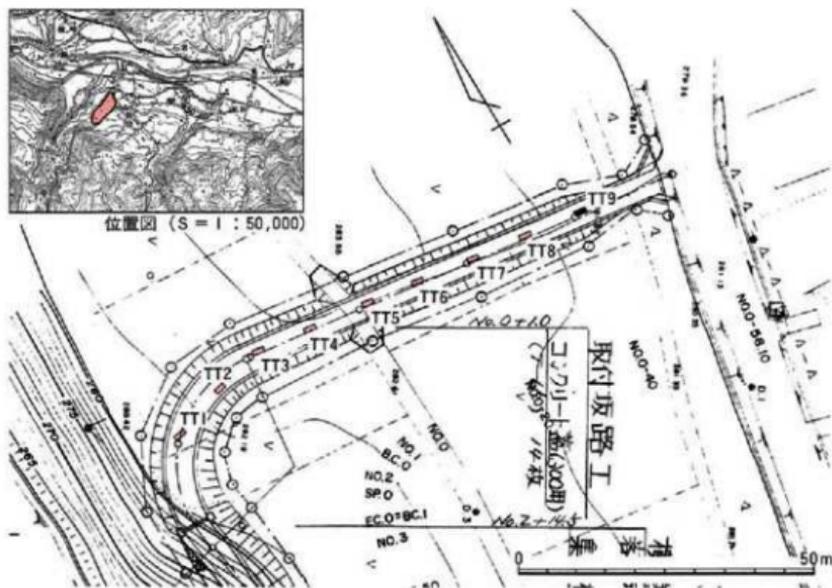
(48) お仲間林遺跡 (遺跡番号491)

所在地 山形県西村山郡西川町大字入間字新田平

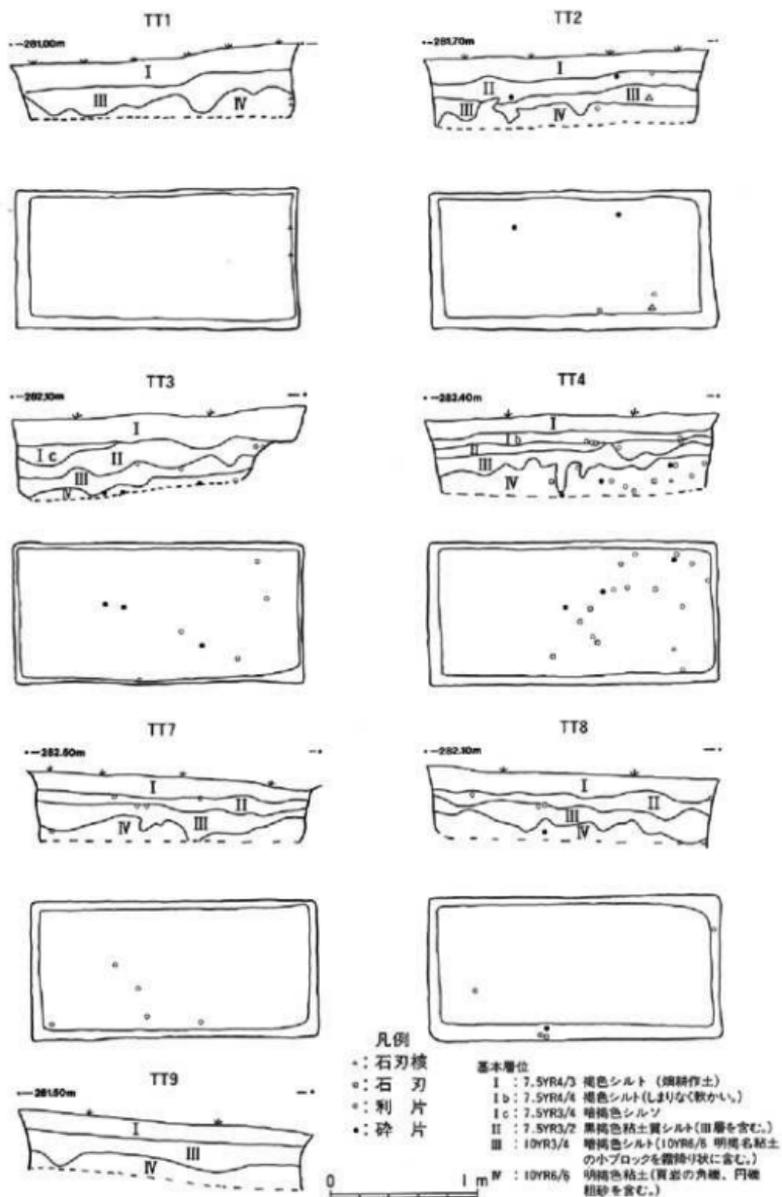
調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 A調査 平成4年9月2日 B調査 9月24・25日

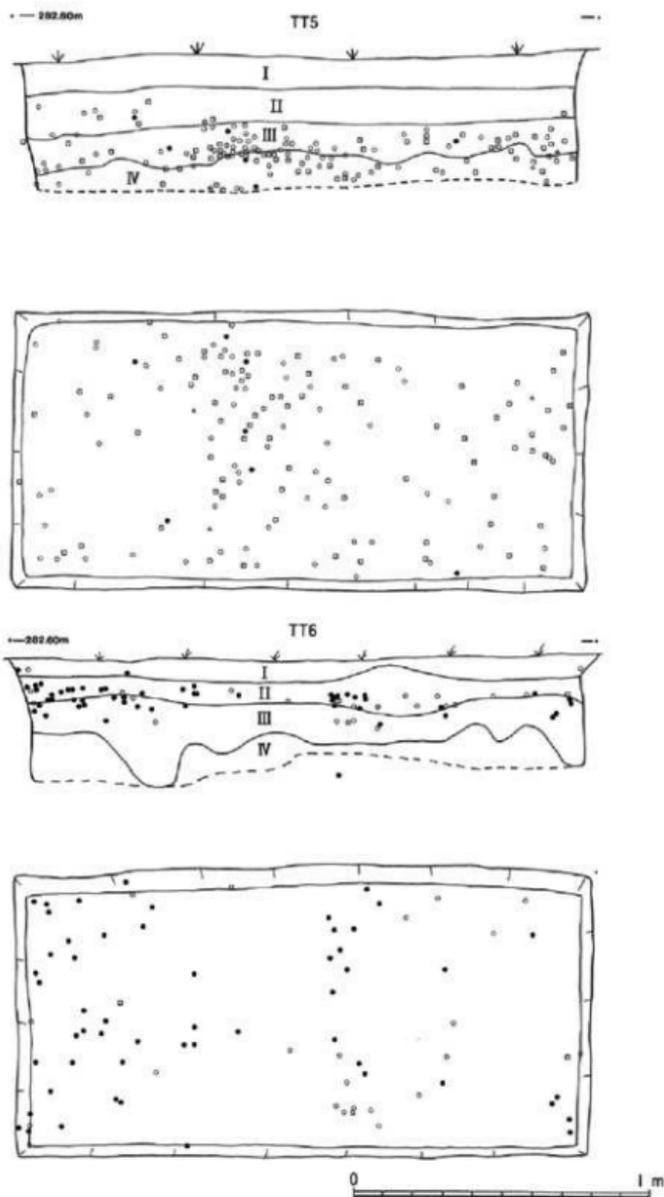
調査の概要 遺跡は新田集落北西50mに位置し、大入間川の河岸段丘上に立地する。地目は畑地、荒地である。標高は282mをはかる。畑地内から付近一帯にかけて、多量の石器が散布している。今回の調査は、最上川水系寒河江川直轄砂防事業にかかる仮設道路建設との調整をはかるために行われた。また9月には慶応大学の学術調査が実施されている。調査では、道路建設予定地のセンターに9本のトレンチ（縦1m横2m）を設定した。遺物の出土地点と高さを記録しながら、IV層まで掘り下げたところ、石刃核、石刃、フレイク、チップ等の石器が多数出土した。各トレンチの出土点数は、TT1が2点、TT2が5点、TT3が9点、TT4が19点、TT5が146点、TT6が79点、TT7が5点、TT8が5点である。TT9からの出土はなかった。遺物はI～IV層いずれからも検出された。以上の結果、遺跡は、旧石器時代の良好な包蔵地であることが確認された。範囲は東西90m南北230mと推定される。



第67図 お仲間林遺跡概要図



第68図 お仲間林遺跡遺物分布図(Ⅰ)



第69図 お仲間林遺跡遺物分布図(2)



調査区近景（東から）



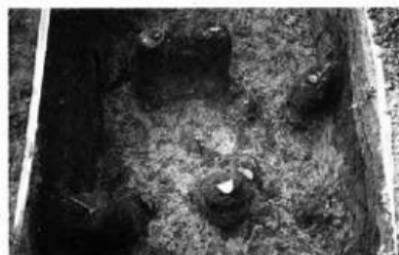
TT1土層断面出土状況（南から）



TT2土層断面出土状況（南から）



TT3土層断面出土状況（南から）



TT4出土状況（東から）



TT4土層断面出土状況（南から）



TT5出土状況（1）（西から）



TT5出土状況（2）（西から）



TT5出土状況(3) (東から)



TT6出土状況 (西から)



TT6土層断面 (南から)



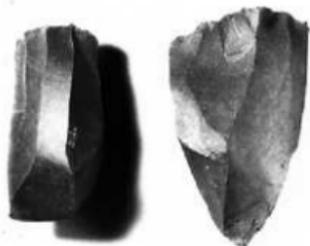
TT7出土状況土層断面 (南から)



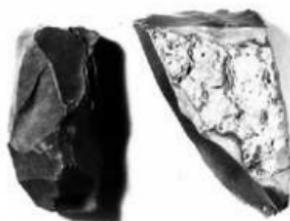
TT8出土状況土層断面 (南から)



TT9土層断面 (南から)



TT5出土石刃核 (1/3)



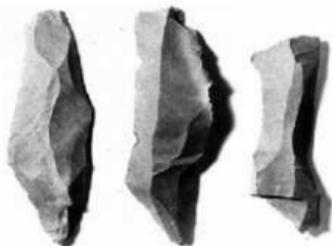
同左裏面 (1/3)



TT5出土稜付き石刃 (1/3)



同左裏面 (1/3)



TT5出土石刃(1) (1/3)



同左裏面 (1/3)



TT5出土石刃(2) (1/3)



同左裏面 (1/3)



TT5出土石刃(3) (1/3)



同左裏面 (1/3)

(49) <sup>かわらび</sup>河原田遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県山形市大字今塚字河原田

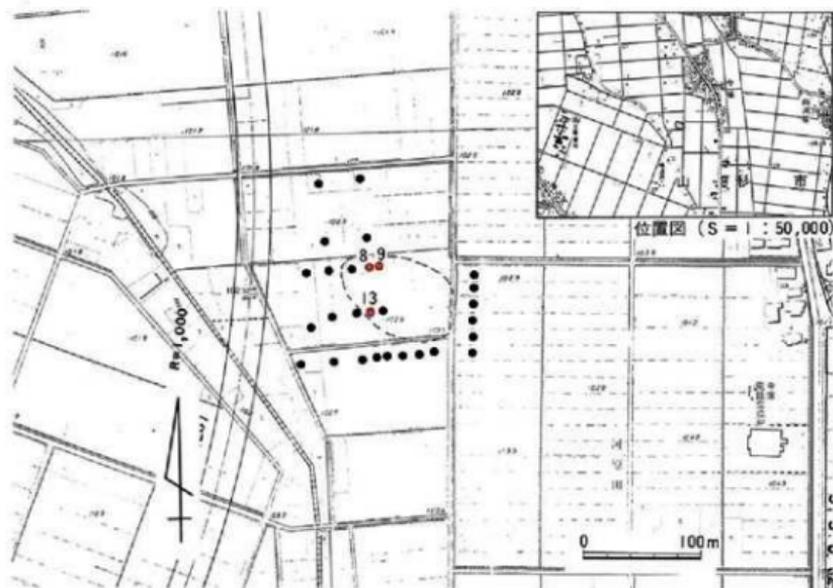
調査員 波谷孝雄 高橋直

調査期日 B調査 平成4年12月11日

調査の概要 遺跡は今塚集落から南西に300mほどの平地にあり、地目は水田、畑地からなる。標高は103mをはかる。今回は、昨年度の今塚地区の調査で遺跡可能性地とされたもののうち未調査になっていた地区の試掘調査である。調査は山形県住宅供給公社の住宅団地分譲事業との調整のため実施された。

調査では、工事予定区域内を試掘未同意地区を除いて、5mから15m間隔で試掘坑(1m方形)を合計で28カ所設定し、地山まで掘り下げた。このうち3カ所から遺物が検出された。出土した遺物は土師器甕、赤焼土器坏である。包含層は表土下30cmの黒色シルト質粘土層である。また遺構はTP8で溝跡(または土境)が検出された。

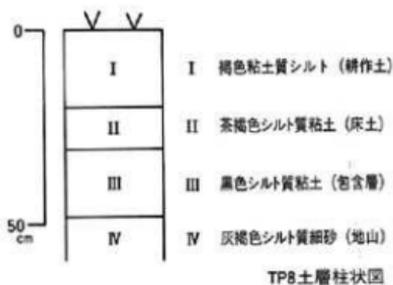
試掘未同意地区を含めた遺跡は、最大でも東西100m南北60mの範囲内に収まるものと考えられるが、今後、未調整地区の試掘を行い、範囲、性格を明らかにする必要がある。遺跡は平安時代の集落跡と判断される。



第70図 河原田遺跡概要図



遺跡近景 (南東から)



TP8土層断面 (西から)



TP9土層断面 (東から)



出土遺物 (1/3)

### 3 記録保存調査・立会い調査の概要

#### (1) 高島城跡 (昭和63年度登録)

所在地 山形県東置賜郡高島町大字高島字古城ノ内外

調査員 渋谷孝雄 高橋直安 部実

調査期日 C調査 平成4年4月20～23日

調査の概要 高島城跡は高島町役場の東方約1kmの平地に立地する。標高は227m前後を測り、地目は宅地、学校、畑地、水田となっている。高島城は承安年間に樋爪五郎季衡によって築城されたと伝えられており、現在の高島小学校に堀が残っている。

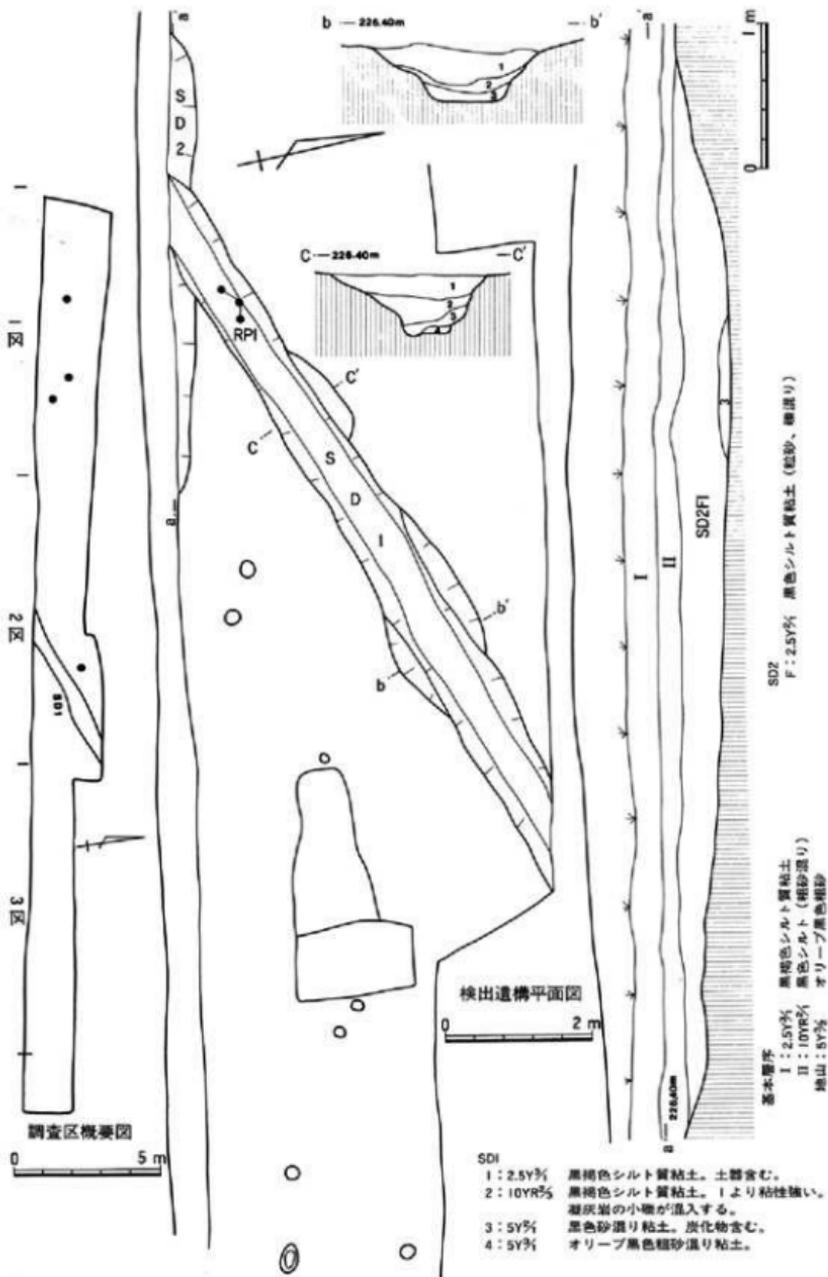
今回の調査は平成2年度の国道399号道路改良事業に伴う試掘調査の結果に基づいて実施した。試掘調査では縄文時代の土器片、石器、奈良～平安時代の土器が出土し、一部で溝状の遺構が検出され、城の堀の可能性が考えられた。

調査対象区は高島城の南端と考えられる地区で、試掘調査で溝状遺構が検出された地点である。道路拡幅部分の延長30mの表土を重機で剥ぎ取った後、面削りで遺構検出作業を行った。

その結果、調査区の中央部で東西の走行を持つ溝跡(SD1)とこれを切る国道と平行な溝跡(SD2)の一部、ピットを数カ所検出した。



第71図 高島城跡概要図

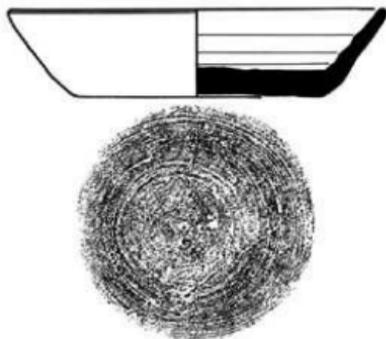


第72図 高島城跡検出遺構平面図他

SD1は確認面での幅が60cm～120cm、底面幅が40～50cm、深さ40cm前後を測り、調査区内で延長10mを確認したが東西とも調査区外へ延びている。堆積土1層から底面に回転ヘラ削りが認められる完形の須恵器坏1個体が出土し、2層、3層、底面からも須恵器、土師器が出土した。奈良時代の所産と考えられる。

SD2は調査区の南端で部分的に確認した溝跡で、最深部で45cmまで掘り下げたが底面に達していない。奈良時代の溝SD1を切っているが、時期を明確にできる遺物は出土しなかった。

ピットは径20cm前後、深さ10～20cmでSD1の東部で8基検出されたが遺物の出土はなかった。地山直上から出土した縄文土器は器面に鋸歯状の粘土紐の貼付けが認められる縄文時代前期の土器であるがまとまりがない散漫な分布状況を示し、器面の荒れも認められることから二次的な移動が考えられる。



第73図 高島城跡SD1出土遺物(1/3)



遺跡遠景(南西から)



SD1 検出状況(南西から)



SD1 土層セクション(南西から)



SD1 須恵器出土状況(北から)



SD1 全景 (北西から)



SD1、SD2、基本層序 (北西から)



縄文土器出土状況 (南東から)



調査区全景 (西から)



出土遺物(1)縄文土器



出土遺物(2)須恵器環 (RPI)



出土遺物(3)SD1F2



出土遺物(4)SD1 底面

(2) 東千作遺跡 (平成2年度登録)

所在地 山形県西置賜郡白鷹町大字佐野原字東千作

調査員 渋谷孝雄 高橋直

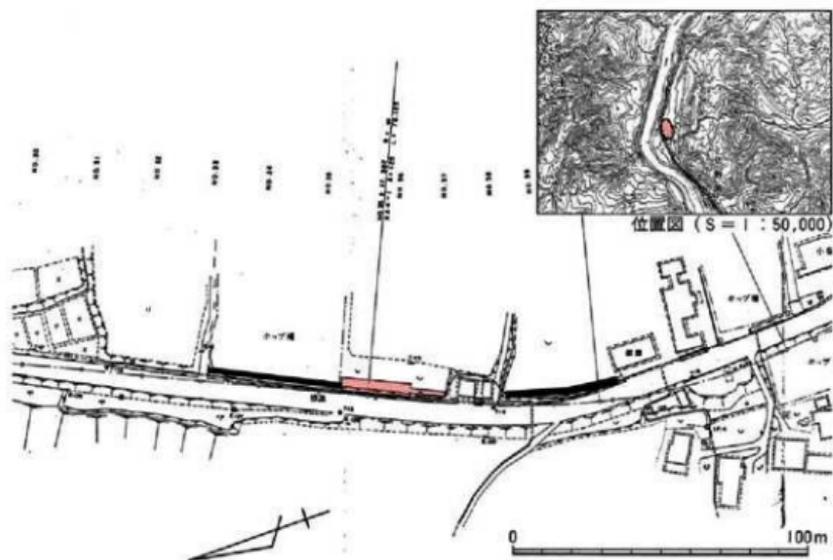
調査期日 立会い調査 平成4年6月23～26日

調査の概要 フラワー長井線荒砥駅の北側約5kmに位置し、最上川が北流する山間の右岸の段丘上に立地する。標高は180m程で、現況は宅地、畑地、ホップ畑となっている。最上川に沿って国道287号線が走っている。

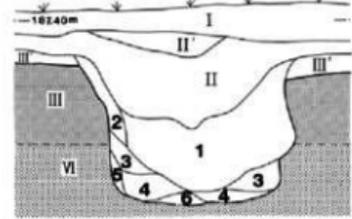
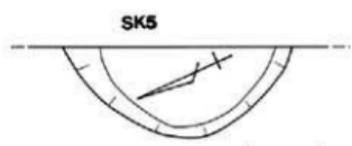
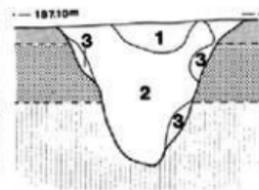
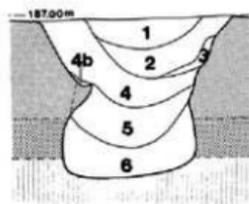
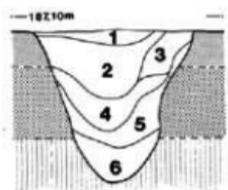
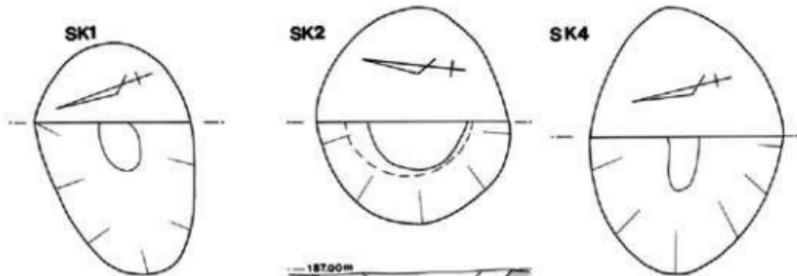
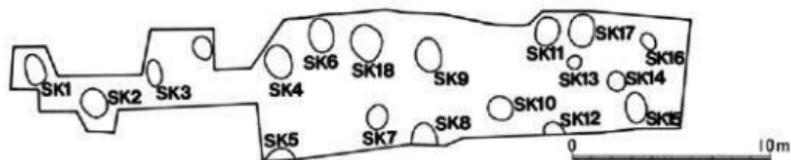
本遺跡は平成2年度に県教育委員会が実施した、国道287号の凍雪害防止工事(佐野原地区)の事業計画に伴う遺跡詳細分布調査によって発見・登録され、平成3年10月にその調整に資するための試掘調査が行われた。

試掘調査は道路拡幅予定地のセンターに、5mおきに22カ所実施したが、一部で時期不明の土壌と見られる土色変化と石核、剥片が出土したが土器の出土はなく、遺跡の周辺部に当たるものと判断された。この結果を基に、事業主体の山形県土木部と遺跡の取扱についての協議を行い、事業開始時に、立会い調査を実施することとなった。

今回の立会い調査は、拡幅予定地の中央に幅約2mのトレンチを設定し、重機で表土を除去し、面削りて遺構の検出を行った。その結果、工事杭N036付近で縄文時代早期の土



第74図 東千作遺跡概要図



- SK1
- 1: 黒色砂質シルト
  - 2: 暗褐色砂質シルト (黄褐色粘土質シルト、褐色細砂のブロックを多量含む)
  - 3: 暗褐色砂質シルト (小礫、地山のブロックを露降り状に含む)
  - 4: 黒色砂質シルト (地山ブロックを露降り状に多量含む)
  - 5: 黄褐色砂質粘土 (2の基本土を帯状、縞状に含む)
  - 6: 褐色シルト混り細砂 (黄褐色粗砂を含む)

- SK2
- 1: 黒色砂質シルト (ほぼ純粋)
  - 2: 暗褐色砂質シルト (黄褐色粘土質シルトの大ブロックを含む)
  - 3: 褐色粘土質シルト (2の基本土を縞状に含む)
  - 4: 黒褐色砂質シルト (黄褐色粘土質シルトの小ブロックを若干含む)
  - 5: 暗褐色砂質シルト (黄褐色粘土質シルトの小ブロックを露降り状に、黄褐色細砂の大ブロックを縞状に含む)
  - 6: 暗褐色砂質シルト (5よりやや黒っぽい、黄褐色粘土質シルト細砂に加え、粗砂のブロックも混る)
- 4b: (3と同じ)

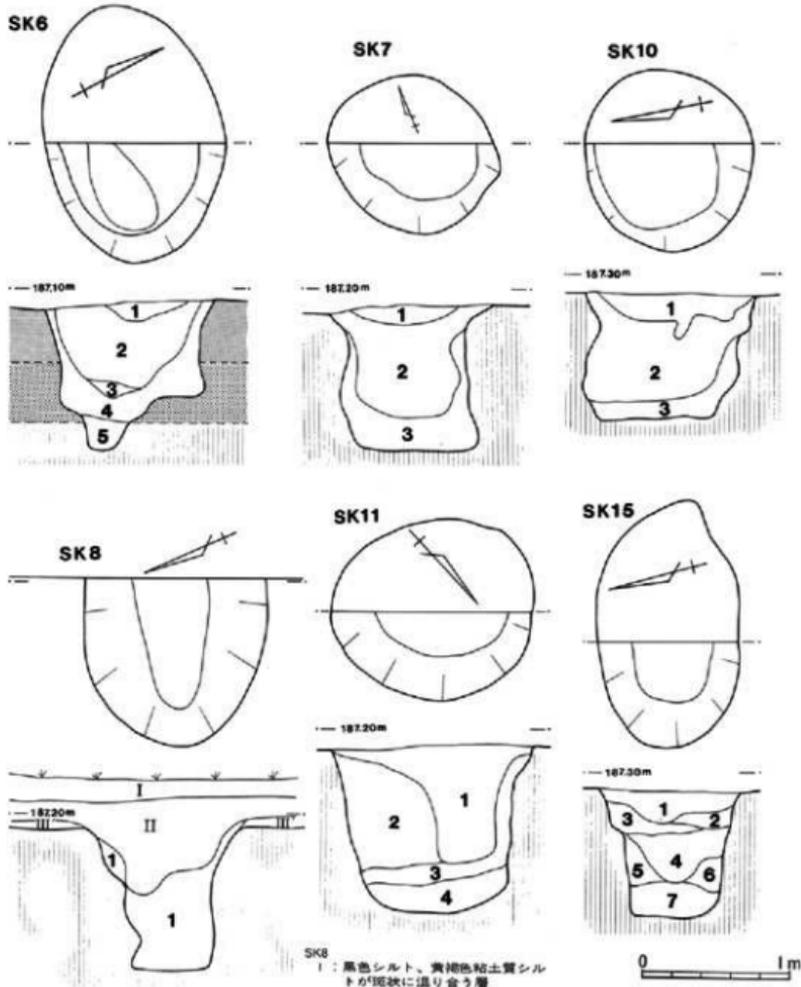
- SK4
- 1: 黒色砂質シルト
  - 2: 暗褐色シルト質細砂
  - 3: 褐色砂質シルト (黄褐色粘土質シルトのブロックを含む)

- 基本層位
- |                                      |              |
|--------------------------------------|--------------|
| I: 暗褐色砂質シルト (表土)                     | IV: 黄褐色砂質シルト |
| II: 暗褐色砂質シルト (根の穴乱あり)                | V: 黄褐色粗砂     |
| III: 黒色砂質シルト                         |              |
| VI: 黄褐色シルト質粘土                        |              |
| III: 褐色砂質シルト (黄褐色シルト粒が露降り状に混る、やわらかい) |              |

- SK5
- 1: 暗褐色シルト (黄褐色粘土質シルトの小ブロックを露降り状に含む)
  - 2: 暗褐色粘土質シルトの小ブロックを1より更に多く含む)
  - 3: 黄褐色粘土質シルトと黒褐色、暗褐色砂質シルトが縞状に混り合う。
  - 4: 暗褐色シルト (黄褐色粘土質シルトの大ブロックを含む、地山崩壊土)
  - 5: 褐色砂質シルト
  - 6: 黄褐色粘土質シルトと暗褐色シルトの二者が縞状に混る。



第75図 東千作遺跡検出遺構平面図(1)他



SK8  
I : 黒色シルト、黄褐色粘土質シルトが斑状に混り合う層

SK6

- 1 : 黒色砂質シルト
- 2 : 暗褐色砂質シルト
- 3 : 黒色砂質シルト
- 4 : 暗褐色シルトに黄褐色粘土ブロック、細砂を多量含む。
- 5 : 褐色砂質シルト (黄褐色細砂のブロックを若干含む)

SK7

- 1 : 黒色シルト
- 2 : 黒褐色砂質シルト (黄褐色粘土質シルトの小ブロックを露降り状に若干含む)
- 3 : 暗褐色粘土質シルトの大ブロックを多量含む

SK10

- 1 : 黒色砂質シルト (炭化物を含み、土器、フレークを含む)
- 2 : 暗褐色砂質シルト (炭化物を若干、遺物を若干含む)
- 3 : 褐色粘土質シルト (細砂を多量含む、遺物含まず)

2b : 2と同じ

SK11

- 1 : 黒褐色砂質シルト
- 2 : 黄褐色粘土質シルト (黒褐色シルトが斑状に入る)
- 3 : 黄褐色粘土質シルト+暗褐色砂質シルト
- 4 : 暗褐色砂礫層 (土器含む)

SK15

- 1 : 暗褐色砂質シルト (黒色シルトを斑状に含む)
- 2 : 黒褐色砂質シルト (黄褐色粘土質シルトを若干含む)
- 3 : 黒褐色砂質シルト (基本的に2と同じだが黄褐色粘土質シルト粒を露降り状に多量含む)
- 4 : 黒褐色砂質シルト (地山ブロックを若干含む)
- 5 : 黄褐色砂質シルト (黒色シルトのブロックを含む)
- 6 : 黄褐色粘土質シルト (黒褐色砂質シルトを斑状に含む)
- 7 : 暗褐色砂礫を含むシルト

第76図 東千作遺跡検出遺構平面図(2)

器片が出土し、土壌と考えられる土色変化を確認した。

そこで、この地域について、拡幅部分全体の表土を除去し、面削りを行った結果17基の土壌が確認された。遺構確認面は3層上面である。

#### 検出遺構（第75・76図）

17基の土壌を検出したが、このうちSK3、9、12、16は浅い落込みで、遺物の出土もなかった。

SK1は長径1.6m、短径1mの楕円形プランで確認面からの深さは105cmを測る。中央が窪む底面から急角度で立ち上がり、堆積土は6層に分かれる。遺物は出土しなかった。

SK2は長径1.48m、短径1.25mの略円形のプランをもち、確認面からの深さは108cmを測る。底面はほぼ平坦でフラスコ状となる。堆積土は大きく6層に分けられたが遺物の出土はなかった。

SK4は長径1.8m、短径1.32mの楕円形プランで確認面からの深さは98cmを測る。溝状の底面から急角度で立ち上がっており、堆積土は3層に分けられる。遺物の出土はない。

SK5は調査区の東端で検出した土壌である。径1.5mで、確認面からの深さは100cm前後である。基本層位の2層が大きく落ち込んでいる様子が窺え、平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がっている。堆積土は6層に分けられるが遺物の出土はない。

SK6は長径1.74m、短径1.22mの楕円形プランで深さは96cmを測る。底面が溝状に一段深くなり、堆積土は5層に分けられたが遺物の出土はなかった。

SK7は長径1.14m、短径1.02m略円形プランで深さは98cmを測る。平坦な底面からほぼ垂直に立ち上がり、堆積土は3層に分けられたが遺物の出土はなかった。

SK8は長楕円形のプランを持ち短径は1.24m、地表からの深さは130cmを測る。底面は平坦で溝状を呈し、ほぼ垂直に立ち上がっている。堆積土は1層で遺物の出土はない。

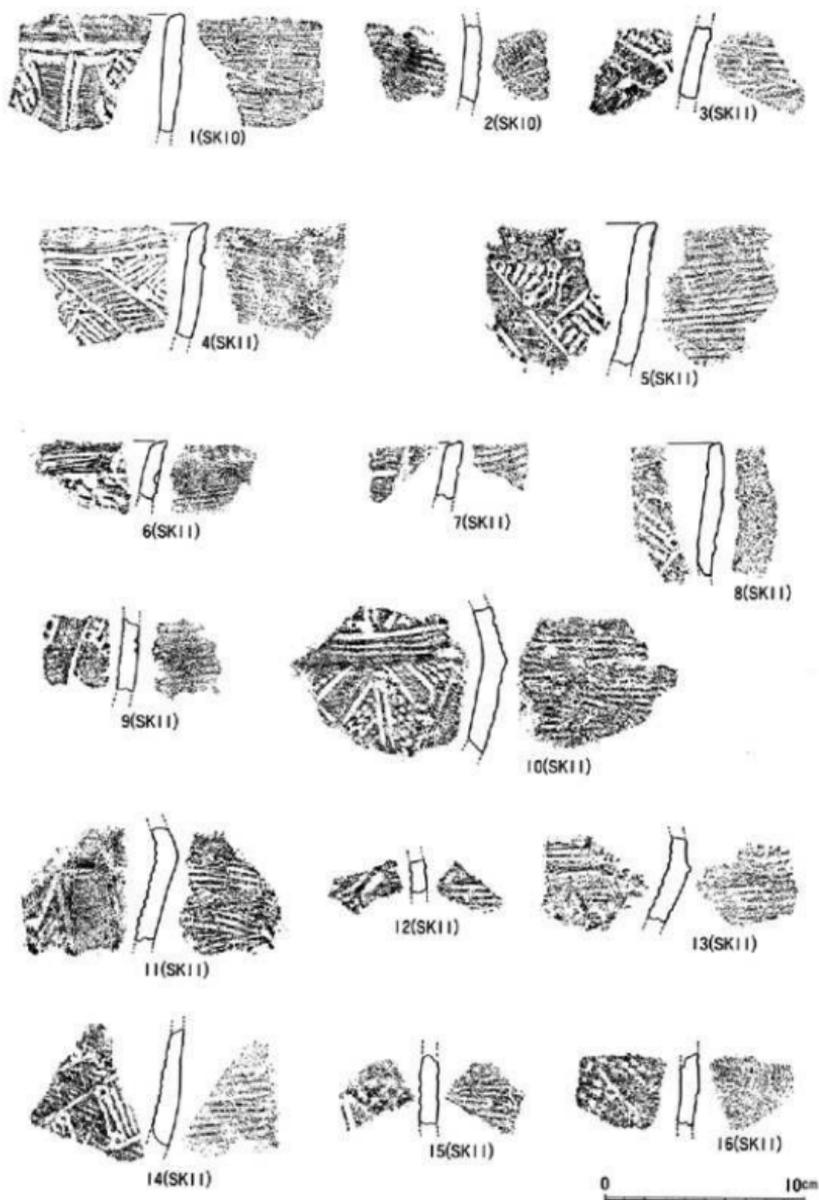
SK10は長径1.25m、短径1.15mの楕円形プランで深さは98cmを測る。部分的に袋状となり、堆積土は3層に分けられ、2層から縄文土器が出土した。

SK11は長径1.36m、短径1.22mの楕円形プランで深さは116cmを測る。鍋底状の底面から急角度で立ち上がっている。堆積土は4層に分けられ各層から縄文土器、剥片が出土した。

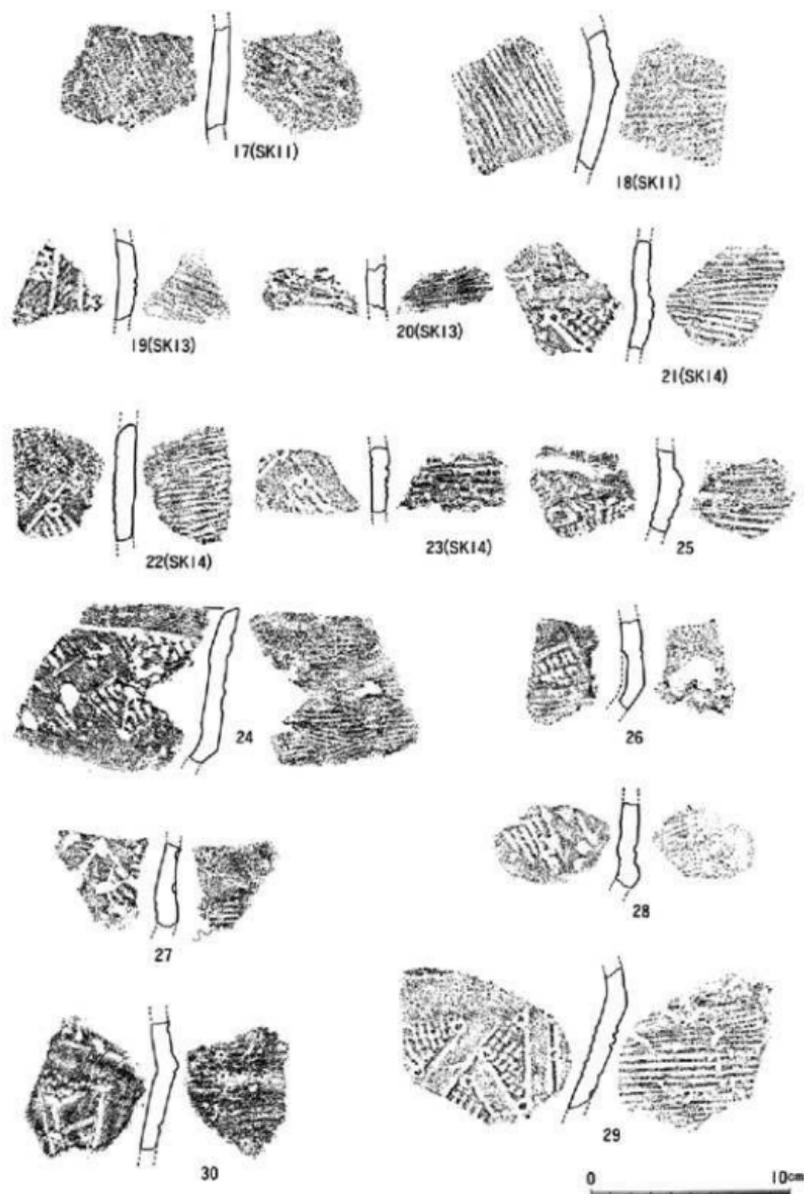
SK13は径0.7m前後、深さ72cmの小規模な土壌で堆積土から縄文土器が出土した。

SK14は長径0.95m、短径0.90mの楕円形プランで、深さ65cmを測りほぼ垂直に立ち上がっている。堆積土から縄文土器、剥片が出土した。

SK15は長径1.68m、短径0.95mの楕円形プランで深さは86cmを測る。ほぼ垂直に立ち上がり、堆積土は7層に分けられたが遺物の出土はなかった。



第77図 東千作遺跡出土土器拓影図(1)



第78図 東千作遺跡出土土器拓影図(2)



遺跡遠景（南東から）



調査状況（南から）



拡張区全景（北から）



土器出土状況（南から）



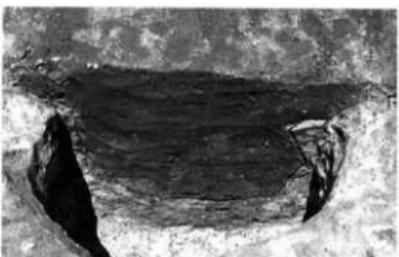
SK2土層断面（西から）



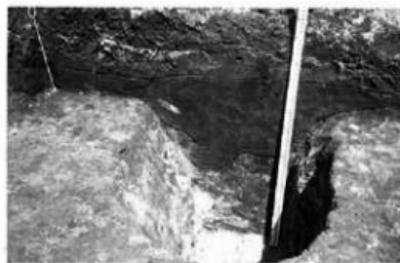
SK5土層断面（西から）



SK7検出状況（西から）



SK7土層断面（南から）



SK8土層断面（西から）



SK9完掘状況（西から）



SK10土層断面（西から）



SK11土層断面（南から）



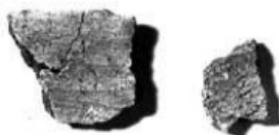
拡張区全景（北から）



出土石器(1/3)



SK10出土土器表面(1/3)



同左裏面(1/3)



SK11出土土器(1)表面(1/3)



同左裏面(1/3)



SK11出土土器(2)表面(1/3)



同左裏面(1/3)



SK11出土土器(3)表面(1/3)



同左裏面(1/3)



SK13出土土器表面(1/3)



同左裏面(1/3)

S K17は長径1.74m、短径1.25mの楕円形プランで確認面までの深さは116cmを測る。遺物の出土はなかった。

出土遺物 (第77・78図)

今回の調査で出土した遺物は整理箱で2箱で、縄文土器と石器、剥片等がある。遺物は土壌が集中して発見された地区に集中しており、遺構の分布域と一致する。縄文土器は表面に円形刺突や連続刺突文が施され、微隆起線で文様帯を区画する手法が認められ、裏面には貝殻条痕文を持つ土器に限られる。従って本遺跡は早期後半の鶉ヶ島台式の単純遺跡と捉えることが可能である。



SK14出土土器表面 (1/3)



同左裏面 (1/3)



遺構外出土土器(1)表面 (1/3)



同左裏面 (1/3)



遺構外出土土器(2) (1/3)



遺構外出土土器(3) (1/3)

### (3) 石田遺跡 (遺跡番号2,108)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字石田

調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 立会い調査 平成4年7月28～31日 8月3日

調査の概要 遺跡はJR遊佐駅の東北東2kmに位置し、月光川右岸、庄内高瀬川左岸の自然堤防上に立地する。地目は水田で、県営ほ場整備(月光川上流地区)との調整に資する目的で昭和63年度、及び平成3年度に試掘調査を実施している。これらの調査結果を基にした取り扱いの協議により、事業の実施によって破壊される恐れのある地区については平成4年度に記録保存のための緊急発掘調査が行われた。今回の立会い調査は遺跡の一部に係る用排水路を対象として実施したものである。

調査対象区は概要図に示した範囲で、農道を挟んで対象区の東側についてもトレンチを入れたが遺構・遺物とも検出されなかった。

掘削によって破壊される部分について、重機で表土を除去した後、面削りで遺構の検出を行ったところ、調査区の西端で柱を伴う掘り方が確認されたため、その規模を把握するために建物の予想範囲内を拡張した。また、緊急調査対応の調査区との位置関係を明らかにするため、同一グリッドを採用した(石田遺跡発掘調査報告書参照)。

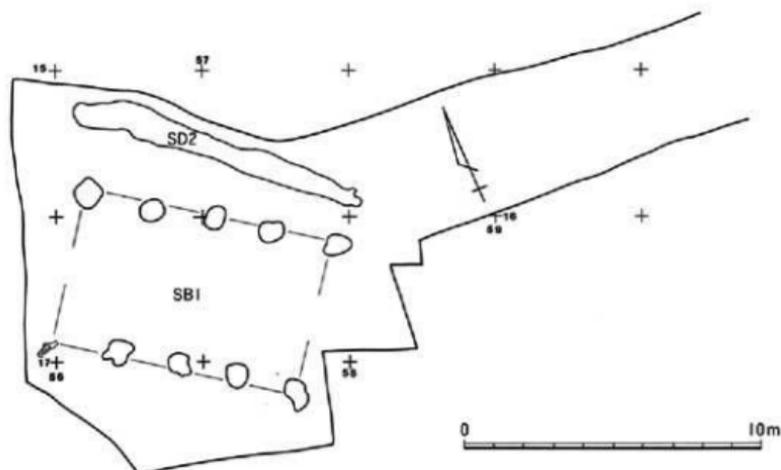


第79図 石田遺跡概要図

検出した遺構は掘立柱建物跡1棟とこの柱列とほぼ平行する溝跡1条である。

掘立柱建物跡は主軸方向が北西-南東となり、EB1~10の掘り方を確認した。東面の柱列はEB1の南3mの位置までに掘り方はなく、EB1・6間に掘り方の存在を確認できなかったものの建物の南限と考えて良いだろう。なお、EB5、10の北側はさらに延びる可能性がある。掘り方の規模は一辺70~90cmの比較的大きな隅丸方形を基調とすると考えられるが一部変形したものがある。確認面からの深さは40~60cmで、10基の掘り方の内8基に径20cm前後の柱根が残っていたが一直線には並んでいない。掘り方から遺物の出土はなかった。

溝跡SD2は長さ10.3m、幅70~100cm、深さ20~25cmを測り、底面からやや浮いた状態で板状の木片が検出された。また、底面直上で回転ヘラ切りの底部を持つ須恵器の有台(RP1)と無台(RP2)の坏が各1点出土した。



第80図 石田遺跡遺構配置図

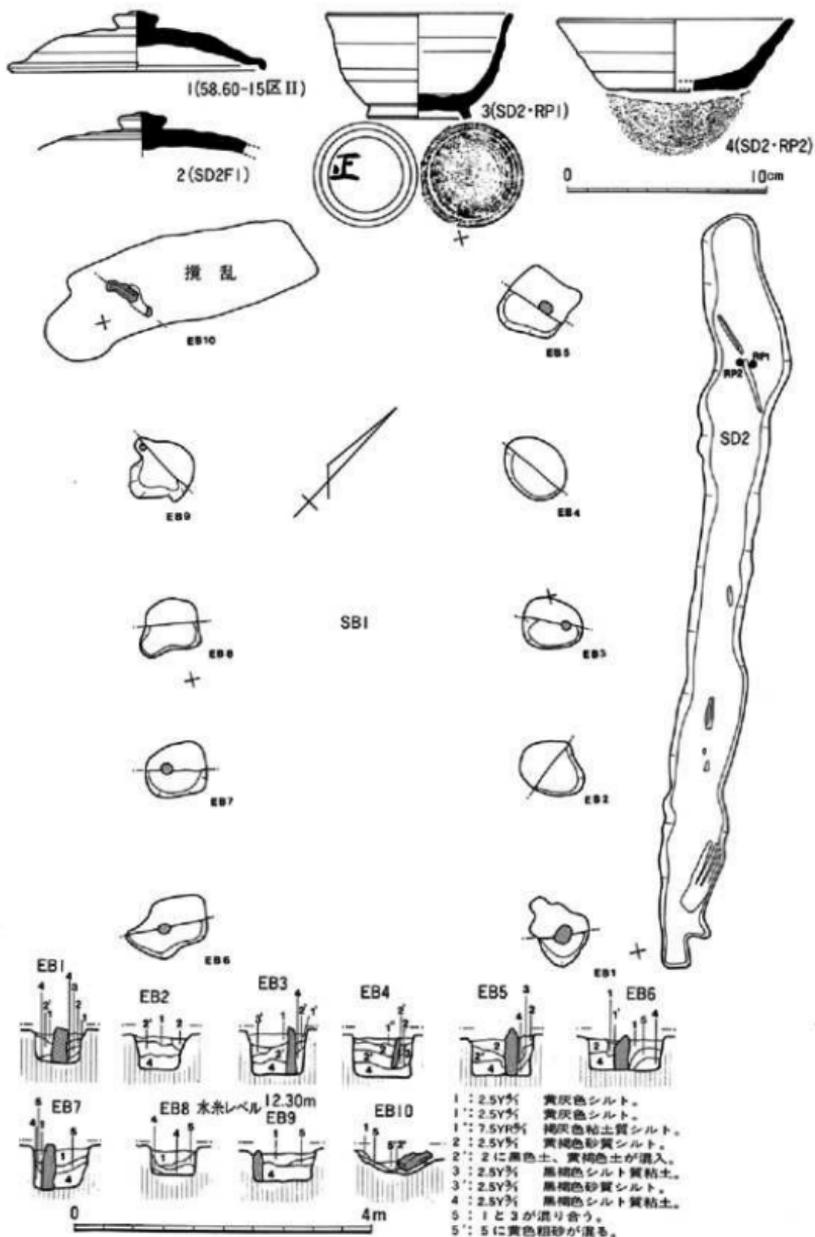


遺跡遠景 (南東から)



SBI 調査状況 (北西から)

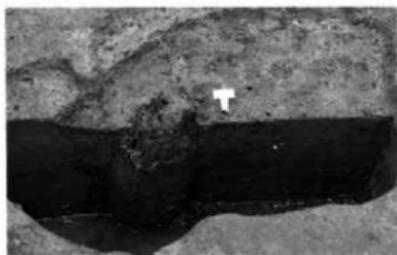
図版 79 石田遺跡(1)



第81図 石田遺跡 S B I 平面図他



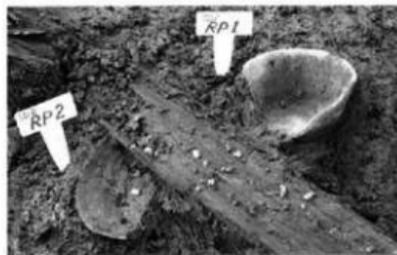
SBI・EB1 土層断面 (南から)



SBI・EB6 土層断面(南から)



SBI・EB5 土層断面 (南から)



SD2・RP1、2 出土状況 (西から)



遠橋外出土土器 (1/3)



SD2・RP2 (1/3)



SD2・RP1 (1/3)



同左底部墨書

#### (4) 宅田遺跡 (遺跡番号2,109)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字宅田 (家の前)

調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 立会い調査 平成4年8月28～30日

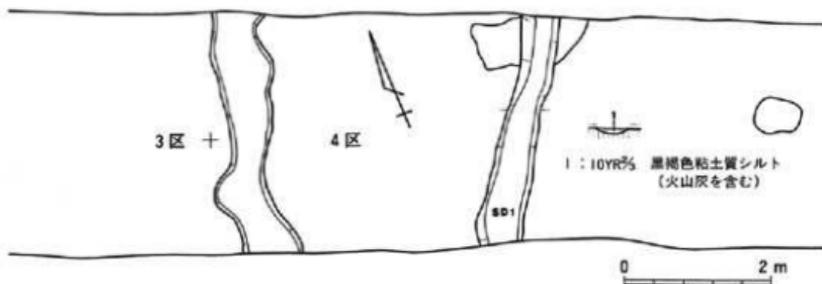
調査の概要 遺跡はJR遊佐駅の東北東約2.2kmの庄内高瀬川左岸に位置し、地目は一部畑地、および水田である。昭和57年に河川改修事業に伴って緊急調査が実施され9～10世紀前半頃の所産の遺構・遺物が検出されている。また、昭和63年と平成3年度に県営ほ場整備事業(月光川上流地区)との調整に資する目的で試掘調査が行われた。その後の協議で遺跡の大半は削平のない現状保存となったが、破壊を避け得ない用排水路部分について立会い調査を実施することとなった。

調査対象区は概要図に示した遺跡の北部、及び南部の2本の用排水路であり、重機で表土を除去したあと、面削りで遺構の検出作業を行ったが、南トレンチの西端部で、堆積土に灰白色火山灰を含む浅い溝跡1条が検出されただけで、目立った遺構は発見されなかった。北トレンチは昭和57年の調査地区に近いが、遺構は検出されなかった。

遺物は、南・北トレンチとも須恵器、赤焼土器片が整理箱に3分の1箱程出土したが、復元できるものは1点もなかった。



第82図 宅田遺跡概要図



第83図 宅田遺跡南トレンチ検出遺構



遺跡近景 (北西から)



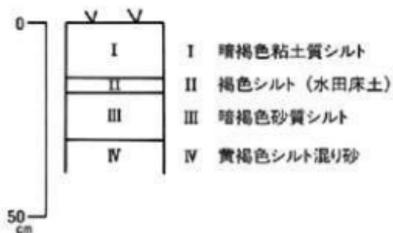
南トレンチSDI 他検出状況 (西から)



南トレンチSDI 調査状況 (北から)



北トレンチ土層断面 (南から)



北トレンチ土層柱状図



出土遺物

(5)宮ノ下遺跡 (遺跡番号2,086)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字宮ノ下・矢口・中瀬

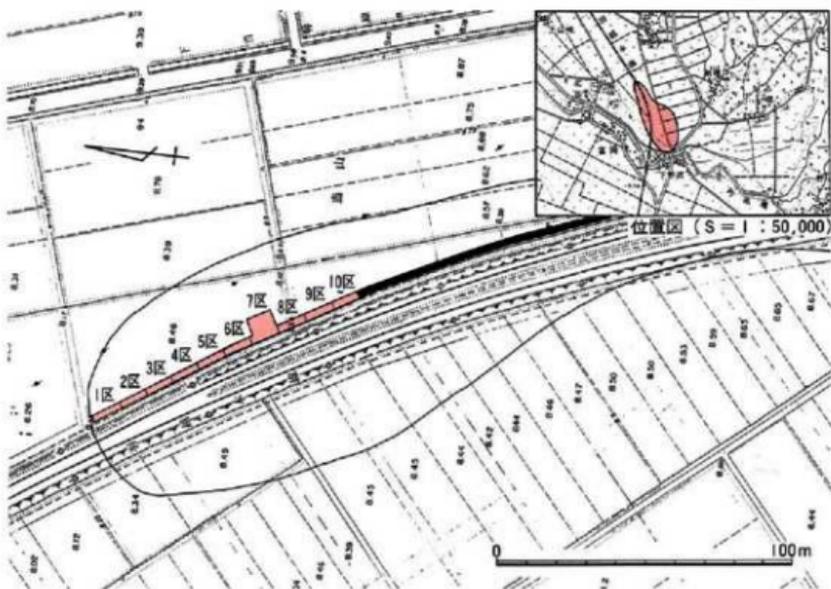
調査員 渋谷孝雄 高橋直

調査期日 立会い調査 平成4年8月3日～6日

調査の概要 遺跡はJR羽越本線遊佐駅の北方約2.5kmの水田中に位置し、庄内高瀬川の右岸側の自然堤防上に立地する。標高は約8.5mを測る。昭和63年度と平成3年度に県営ほ場整備事業(高瀬川地区)との調整を図るための試掘調査を実施した結果、遺跡は羽越本線を挟んで東西250m・南北7500mに及ぶ範囲をもつ平安時代の集落跡となることが明らかとなった。

今回の調査は試掘調査の結果を踏まえた協議により、平成4年度に実施される県営ほ場整備事業の範囲内で掘削されることによって現状保存が困難となる用排水路を対象とした立会い調査である。調査対象区は線路の東側に沿って遺跡の北端から270mの位置までである。

重機で表土を除去した後、面削りを行って遺構の検出作業を行ったところ、遺跡北端部から南へ100mの位置まで(1区から10区)は地山も安定し、遺物の出土がみられたが、それ以南では泥炭の地山となり、遺構遺物とも検出されなかった。

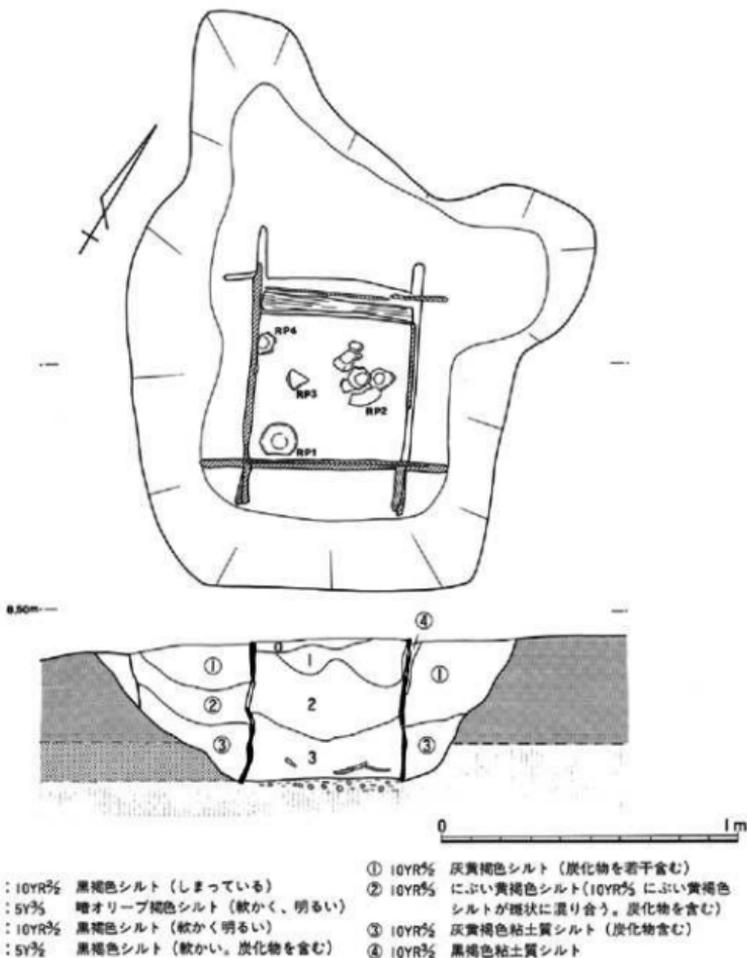


第84図 宮ノ下遺跡概要図

### 検出遺構と遺物

4区から7区の間で井戸跡1基、溝跡2条、落込み1基が検出された。このうち井戸跡を切る溝跡は近年のものと考えられ、古代に遡るものではない。

井戸跡SE1は7区で検出された。一辺約1.30mの隅丸方形の掘り方の内部に内法2尺の井戸枠を設置したものと考えられ、北辺と北東隅が崩壊している。井戸枠は3段確認されたが、最下段を除いて腐朽が著しい。井戸の堆積土は3層に分けられ最下層から5個体

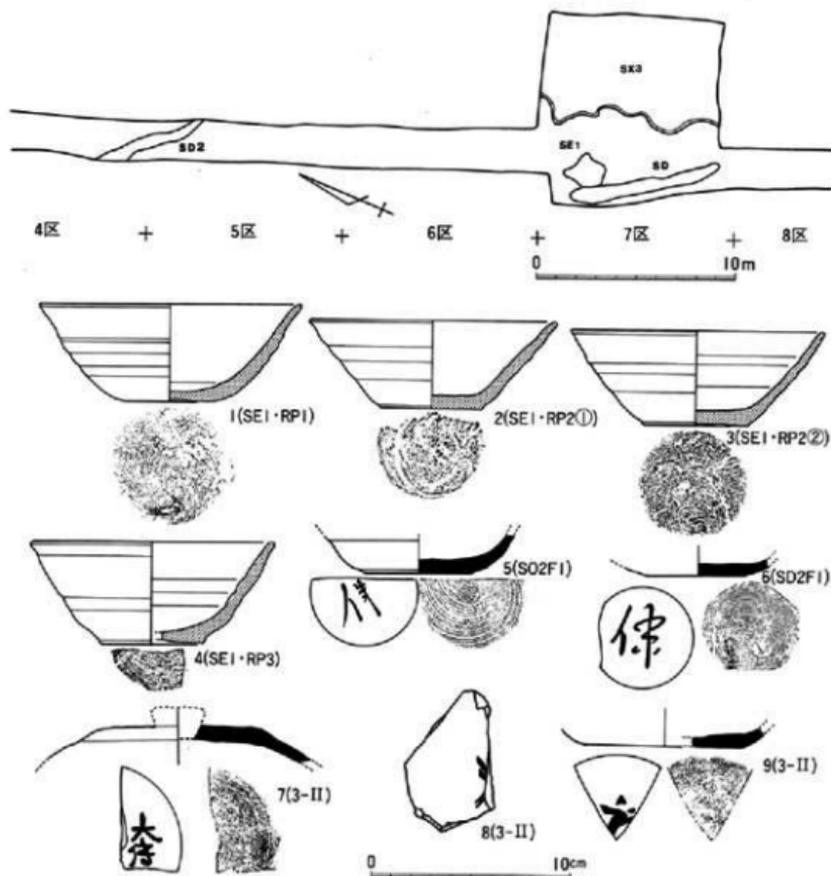


第85図 宮ノ下遺跡検出井戸跡

の平安時代の土器が出土した。これらの土器はいずれも赤焼土器の坏で、内4個体が復元できた(第86図1~4)。掘り方からは、回転ヘラ切りの須恵器坏の破片が出土している。

SD2は4区で検出された溝跡で、幅70cm前後を測り堆積土から墨書土器を含む須恵器、赤焼土器の破片が出土した(第86図5・6)。

SX3は7区にある大きな落込みで、深さは5cm前後と浅いが、須恵器、赤焼土器の小破片が整理箱に約1箱分出土している。この他遺構外からも墨書土器が出土している。



第86図 宮ノ下遺跡遺構配置図、出土土器実測図



遺跡近景・粗掘り状況（北から）



面精査状況（北から）



井戸跡検出状況（南から）



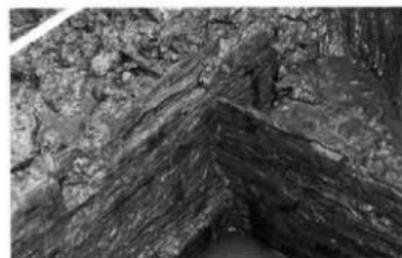
井戸跡内部堆積状況（南から）



井戸枠（西から）



井戸跡土器出土状況（南から）



井戸枠組み合せ状況（南西から）



井戸跡掘り方（南から）



井戸跡調査状況（南から）



井戸跡全景（南東から）



(6)野瀬遺跡 (平成元年度登録)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字北目字野瀬

調査員 渋谷孝雄 高橋 直

調査期日 立会い調査 平成4年8月4～7日

調査の概要 遺跡はJR東日本羽越線遊佐駅の北北西約3.7kmに位置し、丸子集落の北に隣接する。高瀬川右岸のほぼ平坦な沖積地に立地し、地目は水田である。本遺跡は平成元年度に実施された国道345号道路改良事業に関連する遺跡詳細分布調査により発見、登録された。平成2年度には同事業に伴う範囲確認調査及び立会い調査が行なわれた。その結果平安時代の遺構5条、柱穴1基他、平安時代の土器を含む旧河川が検出され、良好な遺存状態を示す集落跡であることが確認されている。また、平成3年度には県営ほ場整備事業(高瀬川地区)との調整に資する目的で試掘調査が行われ、遺跡の範囲は東西180m南北250mとなることが明かとなった。今回の調査はこの調査を基にした協議によって掘削で破壊される恐れのある用排水路を対象として実施されることとなったものである。

調査は南北の排水路延長約160mを対象として、重機で表土を除去した後、面削りで遺構の検出作業を行った結果、南部の11～16区で土壇、溝跡等の密集した遺構群が検出された。これらの遺構の精査、記録を実施して、調査を終了した。



第87図 野瀬遺跡概要図

## 検出した遺構と遺物

土壌は6基確認したが、いずれも調査区内で完結するものはない。SK2は11・12区の境界で検出された。確認面からの深さは10cm前後で堆積土2層から須恵器の有台と無台の坏各1点と叩きのある赤焼土器の甕の破片が出土した。SD1、SD6に切られている。SK3は1辺2.5m程の隅丸方形のプランの土壌と考えられ、底面には凹凸が認められる。SK4、SD5・6・7・8を切っている。大振りの赤焼土器坏が出土している。SK4は1辺2.6mの隅丸方形のプランの土壌と考えられるが部分的な検出に終わった。SK9は溝条のプランを持つ、不整形な土壌で第89図4～8に示した赤焼土器が出土した。「人」の墨書銘のあるものもある。SK17は13区で検出された土壌でプランは不整形である。確認面からの深さは30cmで第90図20～25図の須恵器、赤焼土器坏が出土した。SK24は14区で検出された不整形の土壌で、堆積土から34・35の土師器が出土した。

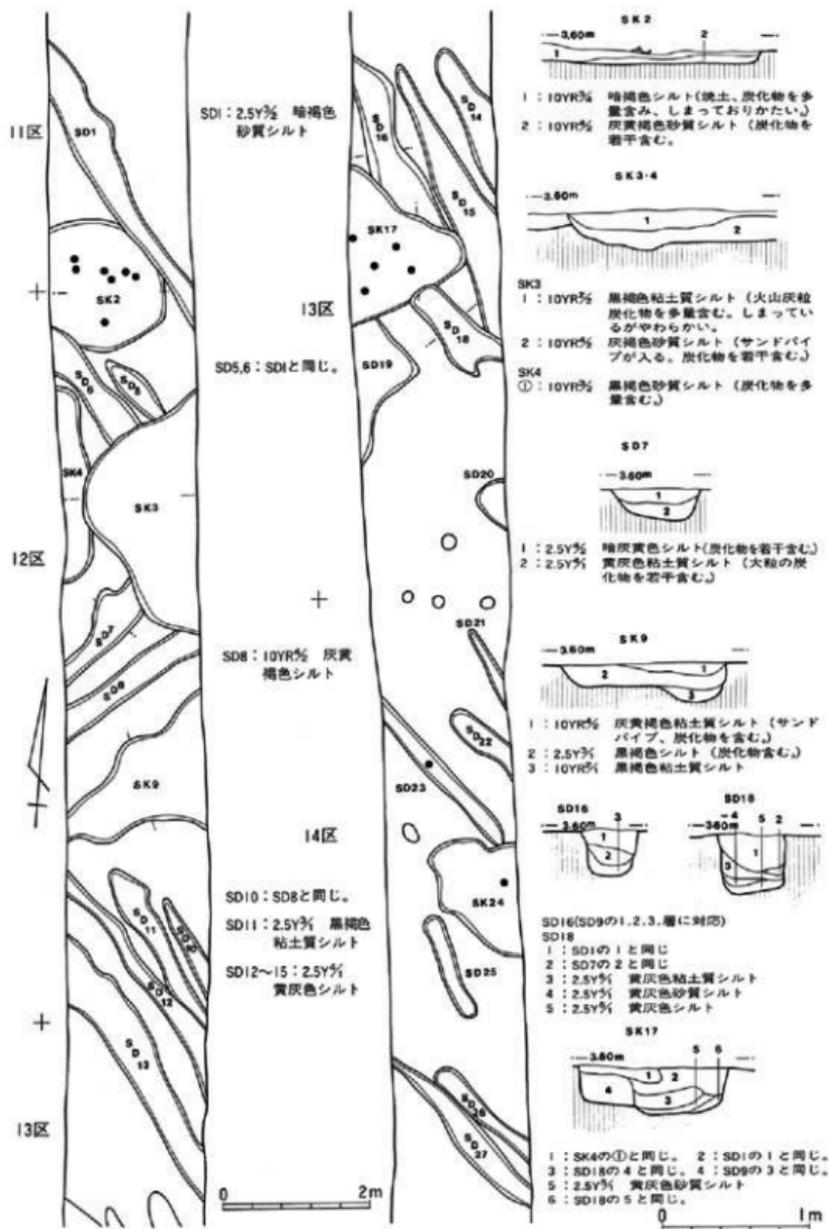
溝跡は20条検出された。北西-南東の走行を持つものが多く、12区内ではこれと直交する溝がある。調査区内で完結するものは少なく、部分的な調査となっている。SD1～11は幅15cm～55cm深さ10～25cmの溝であるが、これらの溝からは、復元、実測可能な土器は出土しなかった。SD12は幅18～38cm、深さ15cmの溝でSD11に切られている。堆積土から第89図9に示した墨書のある赤焼土器が出土した。SD13はSD12に平走して南に隣接する溝で幅42～67cm、深さ16cmを測る。10に示した土師器坏11に示した赤焼土器甕が出土した。SD14～16は調査区内に北端のある溝で幅20～60cm、深さ20～30cmを測り、SD15、16はSK17に切られている。また、SD15・16の出土遺物に接合関係がある。SD15から12～14に示したいずれも墨書のある赤焼土器坏が出土した。また、SD16から15に示した底部に墨書のある須恵器坏、17～19に示した赤焼土器坏が出土した。SD18はSD15、SK17を切る溝で深さ40cmの堆積土から26～31に示した須恵器、赤焼土器坏が出土した。SD23は幅28cm、深さ13cmで23、24に示した赤焼土器坏が出土した。SD25は長さ1.5m、幅25cm、深さ16cmを測る。SD26、27は遺構群の南端を限る溝で、SD26から36に示した墨書のある赤焼土器坏の破片が出土した。



調査区近景（北から）



13-14区遺構検出状況（南から）



第88図 野瀬遺跡検出遺構



SD1 土層断面 (南から)



SK2 検出状況 (南から)



SK2 土層断面 (南から)



SD7 土層断面 (西から)



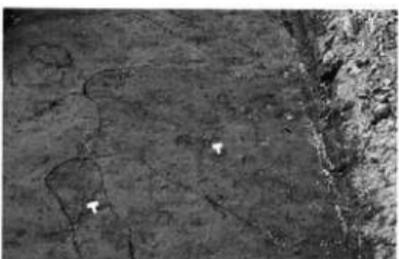
SD16 土器出土状況 (南から)



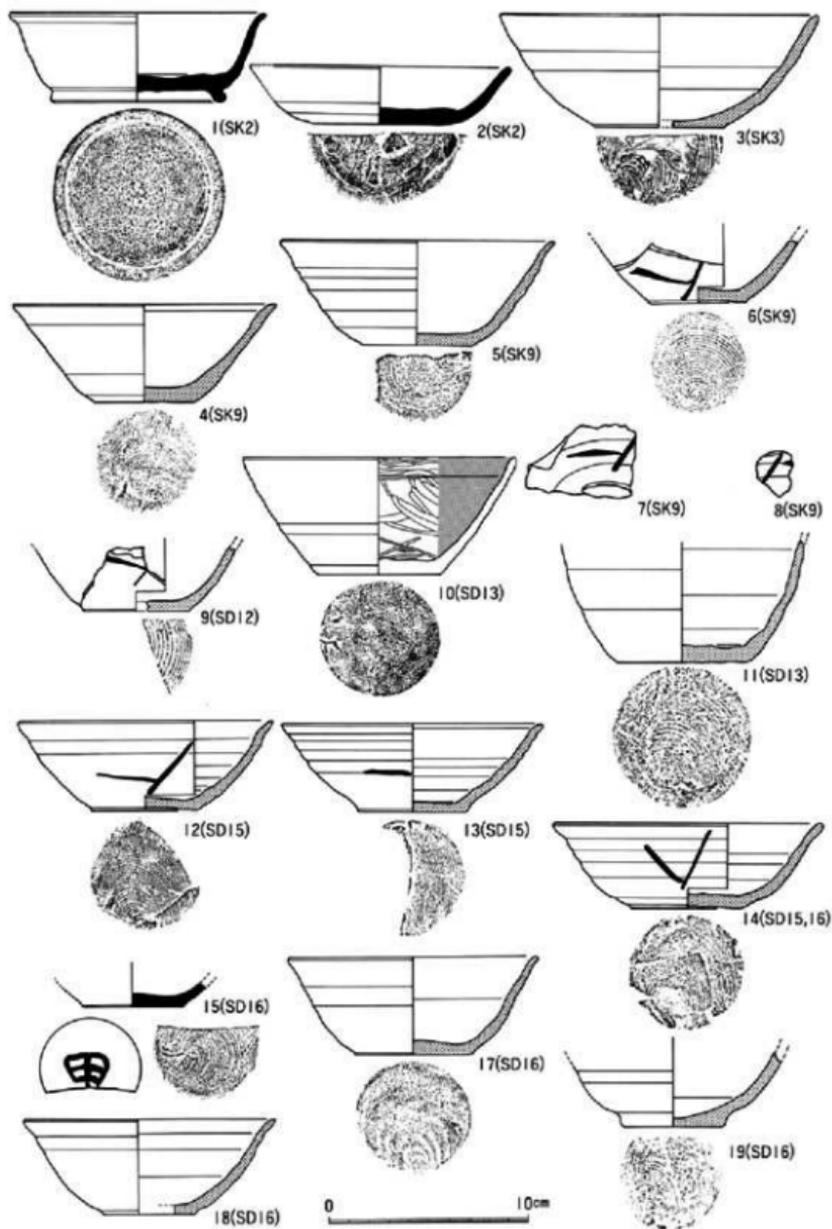
SK17 検出状況 (南から)



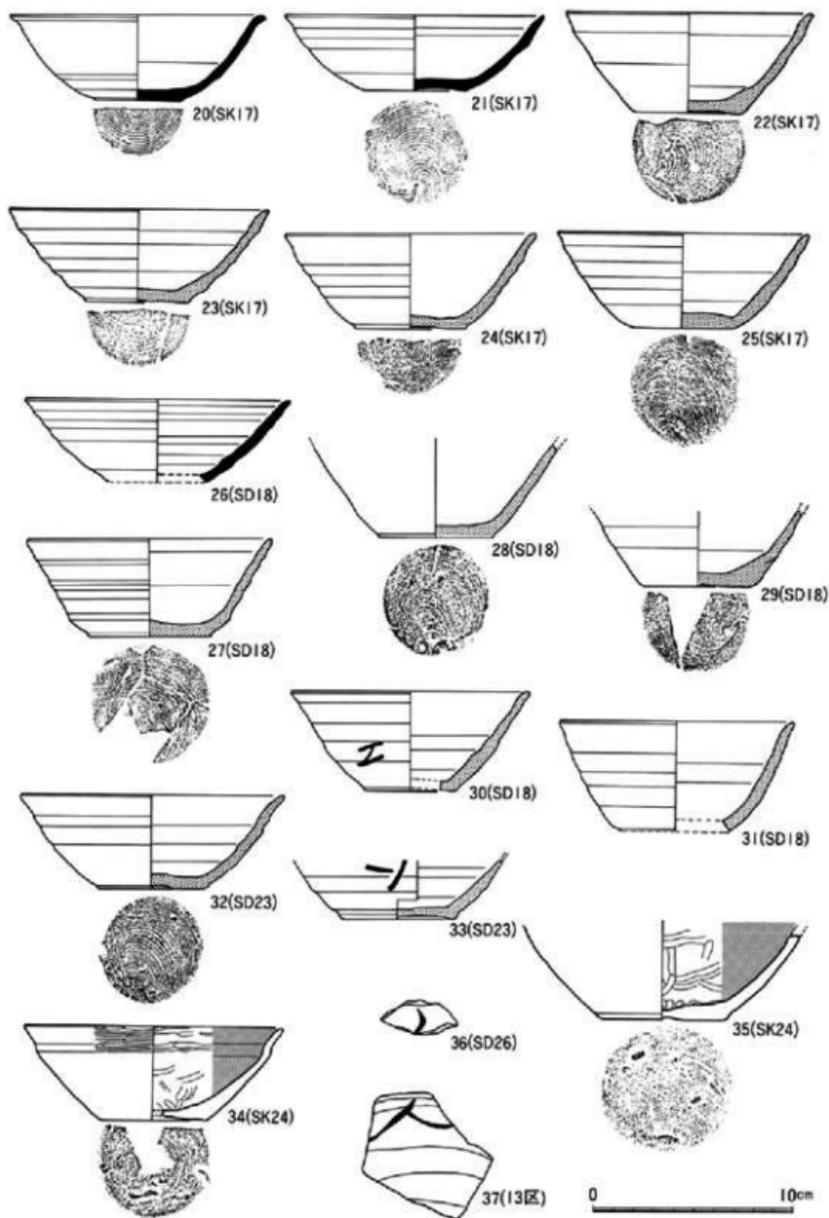
SK17 土層断面 (南から)



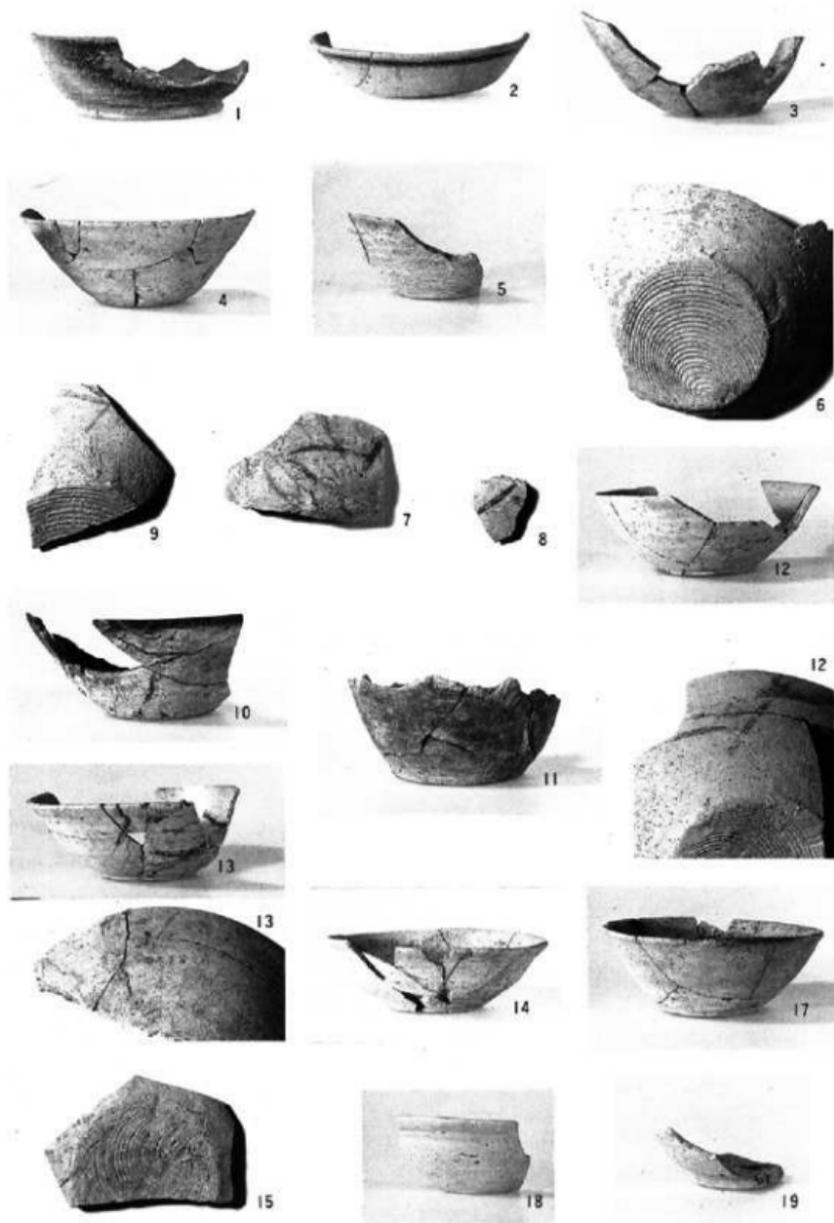
SK24 検出状況 (南から)



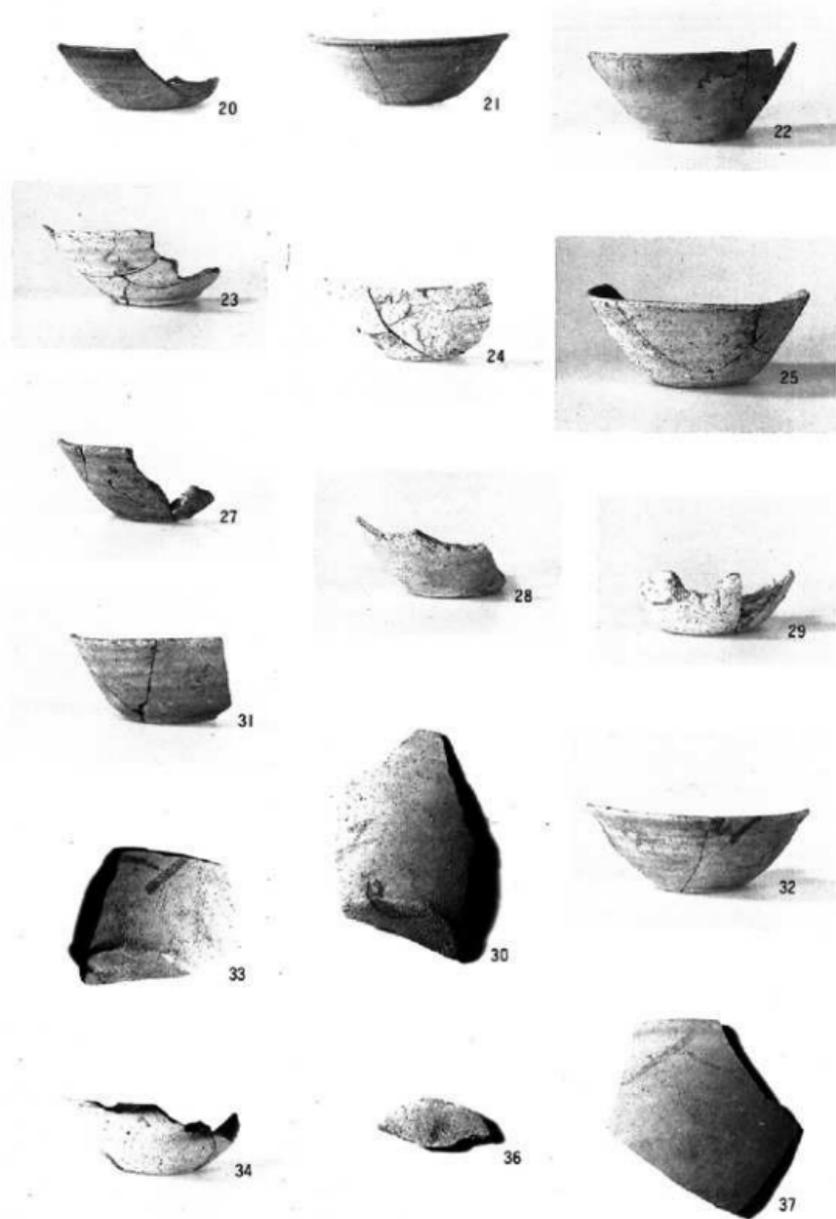
第89図 野瀬遺跡出土土器(1)



第90図 野瀬遺跡出土土器(2)



図版86 野瀬遺跡(3)



图版87 野瀬遺跡(4)

(7)上屋地A遺跡 (遺跡番号1,528)

所在地 山形県西置賜郡飯豊町大字上屋地字九才沢口311-2他

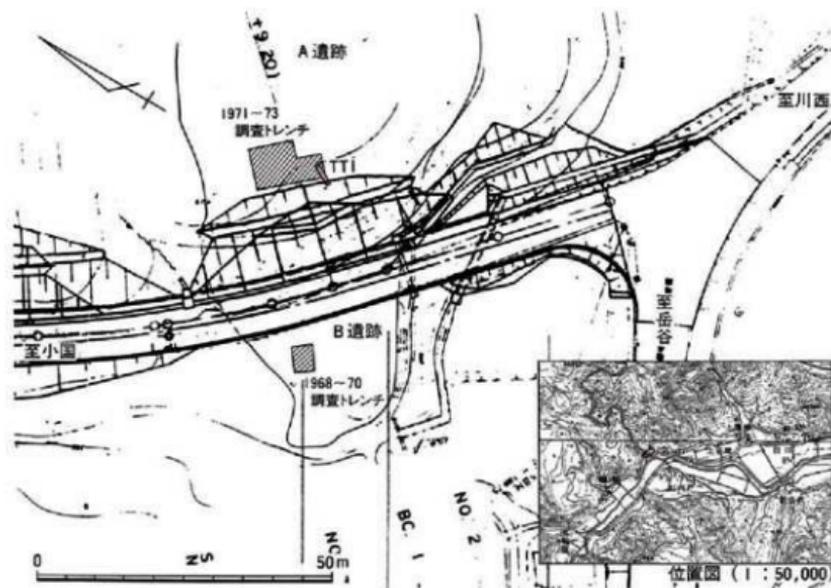
調査員 渋谷孝雄

調査期日 A調査 平成4年6月24日 立会い調査 平成4年7月23日

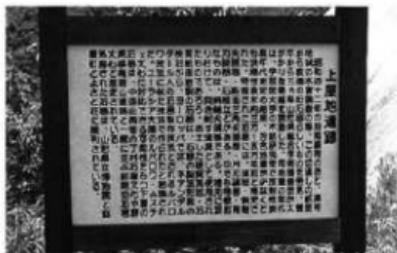
調査の概要 遺跡は飯豊町中津川地区の中津川谷底平野の西端部に位置し、白川が堰止められてできた古中津川湖によって形成された湖成段丘のうち最も高い高位段丘1面に立地する。一段低い高位段丘2面にある上屋地B遺跡は昭和43年から45年まで3次にわたって発掘調査が行われ、斜軸尖頭器、チョッパー、チョッピングツール、ルパロワ型石核等前期旧石器時代の石器群が出土した。また、A遺跡は昭和46年から48年まで3次にわたって発掘調査が行われ、旧石器時代終末期の尖頭器、片刃石斧、搔器、削器等が出土した。こういった成果を踏まえて、A・B遺跡とも飯豊町の史跡に指定された。

今回の調査は主要地方道川西小国線道路改良工事で、A遺跡南端の法面の一部に工事が及ぶこととなったため、現地確認を行ったところ、昭和46年から48年までの調査トレンチに水が貯り、道路と遺跡の保全のため管を埋設して水抜き措置が必要となったことから実施されたものである。

調査は昭和46年から48年の調査区から道路法面まで、幅50cm、長さ7mのトレンチを設



第91図 上屋地A遺跡概要図



遺跡説明板 (B遺跡)



A遺跡近景 (南B遺跡から)



トレンチ設定状況 (南から)



調査状況 (北から)



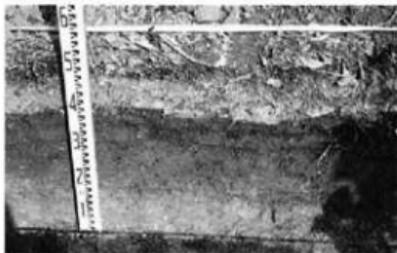
遺物出土状況 (南から)



遺物出土状況 (北から)



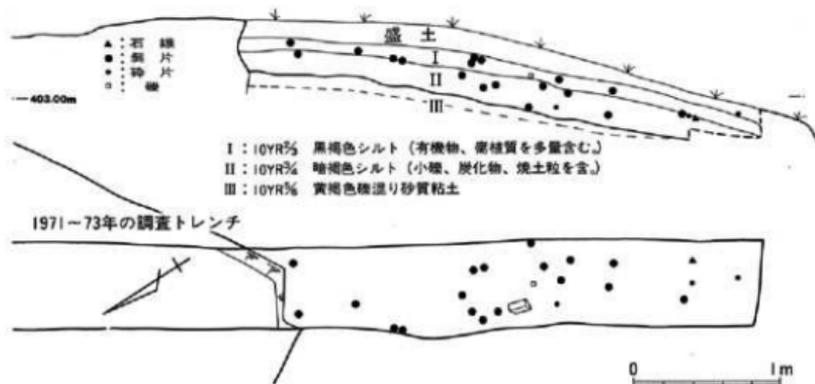
石鎌出土状況 (南から)



土層断面 (西から)

定し、管の下端である地表下50cmまでの掘り下げを行った。

調査の結果、平均15cmの盛土（昭和46年から48年の排土に由来する）の直下から石器が出土し始め、2層下面まで石器の存在が確認されたが、3層は無遺物であった。出土石器は石鏃、剥片、碎片、礫があり、合計23点であった。



第92図 上屋地A遺跡遺物分布図、土層断面図



図版89 上屋地A遺跡(2)

(8) 龍ヶ嶽遺跡 (平成4年度登録)

所在地 山形県西置賜郡小国大字足野水字龍ヶ嶽438—51他

調査員 佐々木洋治 渋谷孝雄 長橋 至

調査期日 A・B調査 平成4年9月21日 B・立会い調査 平成4年10月8・9日

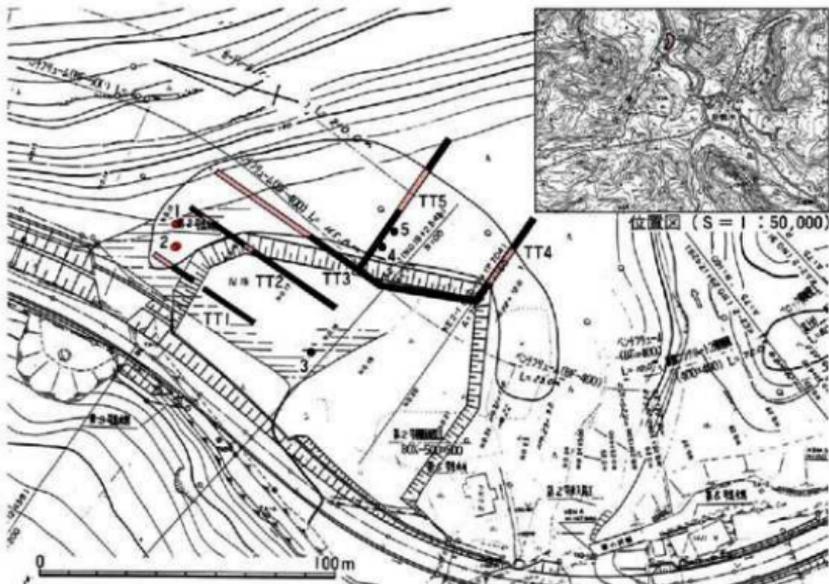
調査の概要 遺跡は足野水の集落の北東約600mに位置する。足野水川の左岸の段丘上に立地し、標高は146～148mを測る。地目は荒地、山林、畑地となっている。

一般県道下新田土尾線道路改良(まちづくり総合事業)に伴い、土砂捨て場として使用したいが、遺跡の有無を調査して欲しいという県土木部の依頼によって現地確認と5カ所の坪掘りを行った結果、2カ所で縄文土器と剝片が出土したため遺跡の範囲確認を目的として重機を使用したトレンチ調査を実施した。

その結果、遺跡は段丘崖に沿って弓形に南北150m、東西40mとなることが明らかとなった。

この調査と平行して現地で遺跡の保護について協議を行い、土砂捨て場は遺跡外に確保する合意が得られたが一部は遺跡内に係ることとなったため、範囲確認の調査と平行して、この部分の立会い調査を実施した。

調査では、TT5を中心に縄文時代中期前半の北陸系の土器がまとめて出土し、TT1では、縄文時代中期末の土器も出土した。



第93図 龍ヶ嶽遺跡概要図



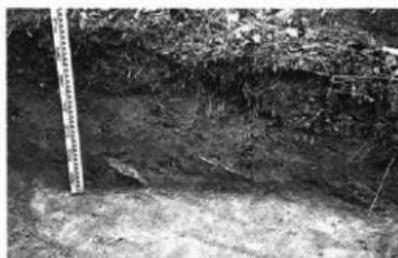
遺跡近景（南西から）



遺跡近景（南東から）



TT1 調査状況（西から）



TT2 土層断面（南から）



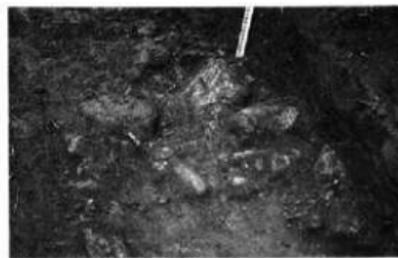
TT3 調査状況（西から）



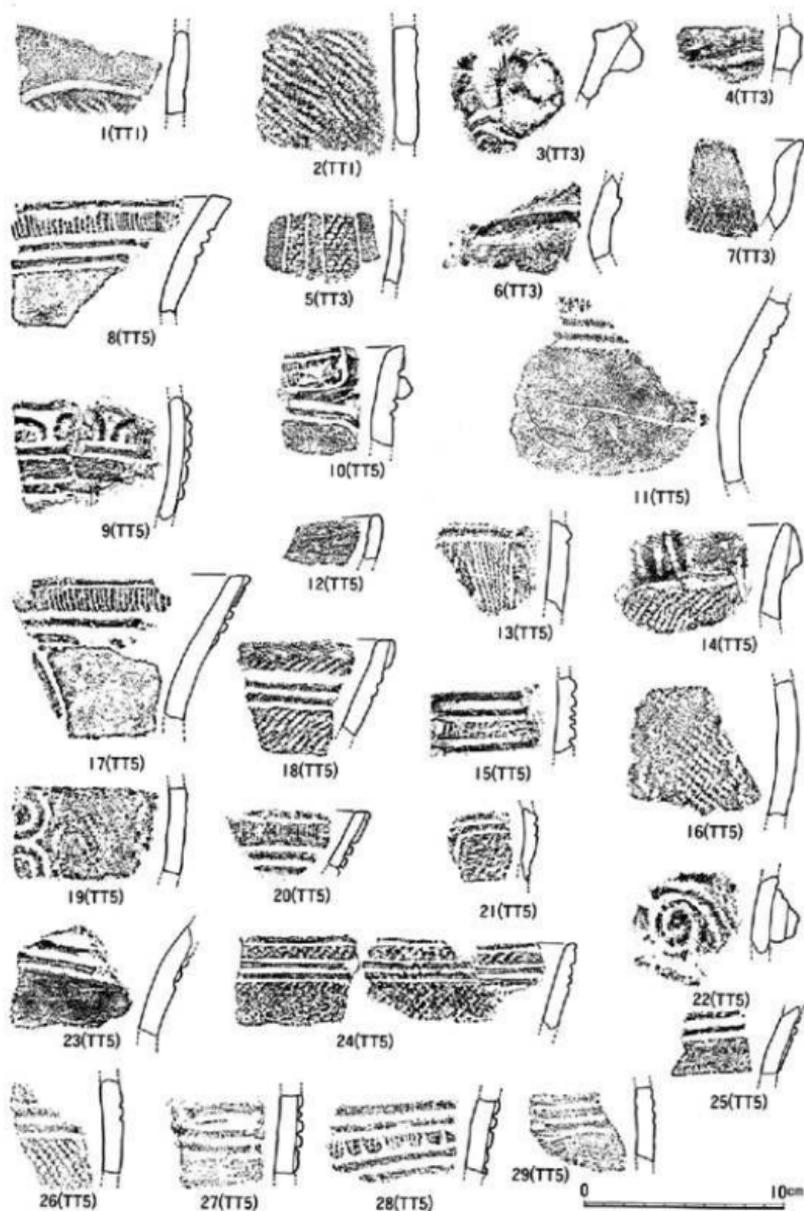
TT5 全景（南から）



TT5 土器出土状況（東から）



TT5 集石検出状況（北東から）



第94圖 龍ヶ嶽遺跡出土土器拓影圖



TT1 出土土器 (1/3)



TT3 出土土器 (1/3)



TT5 出土土器(1) (1/3)



TT5 出土土器(2) (1/3)



TT5 出土土器(3) (1/3)



TT5 出土土器(4) (1/3)



TT5 出土土器(5) (1/3)



TT5 出土石器 (1/3)

(9) <sup>おおつぼ</sup>大坪遺跡 (遺跡番号2,110)

所在地 山形県飽海郡遊佐町大字野沢字大坪他

調査員 野尻 侃

調査期日 立会い調査 平成4年6月3～5日

調査の概要 遺跡はJ R羽越線遊佐駅の北東方2 km、庄内高瀬川左岸の自然堤防上に位置する。標高は約13mを測る。

今回の調査は、県営ほ場整備事業（月光川右岸地区）計画排水路設置の調整に資するために行ったものである。

調査は事業計画範囲に60m×5mの試掘トレンチを設置し、粗掘及び面整理を実施した。トレンチ内からは性格不明の遺構1基と土坑1基や遺物が検出された。性格不明の遺構は旧水路と考えられるが、調査区域の南端部で確認されたことから全様は不明である。覆土からは須恵器、赤焼土器等の遺物が認められた。SK1土坑は径110cm、深さ12cmを測り、底面は平坦である。覆土は2層に分かれ、赤焼土器等の土器が出土した。

以上のことから、遺跡はやや東西に広がり、北側にはさほど広がらないものと考えられる。このことにより遺跡の範囲は東西400m、南北320m程度の規模と考えられる。時期及び性格は平安時代の集落跡である。



第95図 大坪遺跡概要図



調査区近景 (東から)



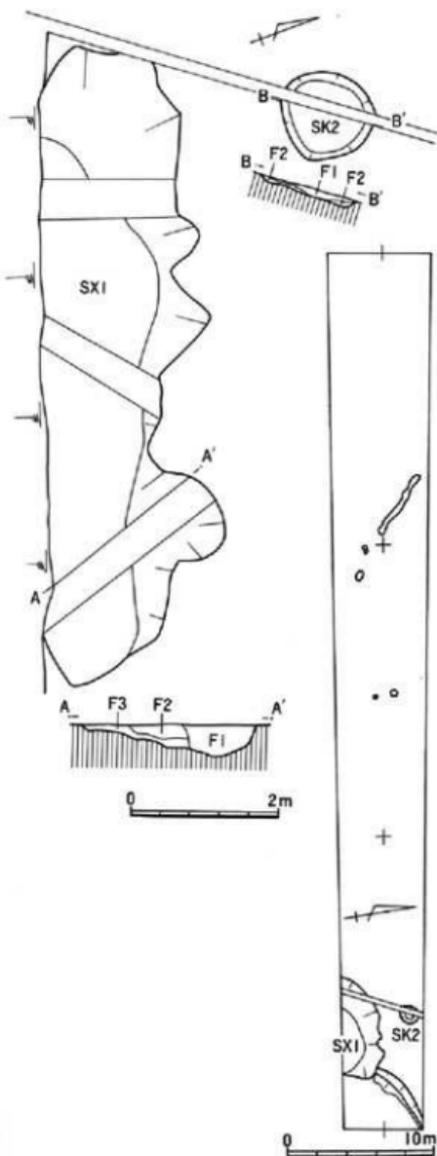
SX1 遺構検出状況 (東から)



SX1 遺構断面



出土遺物 (1/3)



### Ⅲ まとめ

平成4年度の遺跡詳細分布調査は、平成5年度以降に予定されている開発事業等に先行して、遺跡の所在・範囲・性格を明らかにし、開発事業との調整を図ることを目的とするもので、一部記録保存のための小規模な発掘調査と立会い調査を実施した。

調査遺跡は136カ所を数え、そのうち36遺跡は新たに発見され、登録した遺跡である。また、A調査やB調査により、遺跡の範囲・位置・遺跡名の訂正（または抹消）が必要となった遺跡は15を数える。そのリストを掲げてまとめとする。

#### 1 新規発見遺跡

1	河原田遺跡	山形市大字今塚字河原田	平安時代
2	川口原遺跡	寒河江市大字中郷字川口原	縄文時代
3	月岡台ノ倉橋	西村山郡西川町大字月岡	中世
4	横岫橋	西村山郡西川町大字横岫	中世
5	石倉館	西村山郡西川町大字石倉	中世
6	水沢館	西村山郡西川町大字水沢	中世
7	綱取館	西村山郡西川町大字綱取	中世
8	睦合館	西村山郡西川町大字睦合	中世
9	弓張平O遺跡	西村山郡西川町大字志津字弓張平	旧石器時代
10	上ノ山遺跡	西村山郡朝日町大字玉ノ井字前田・脇ノ田・上ノ山	縄文時代
11	滝ノ沢遺跡	西村山郡大江町大字本郷字滝ノ沢	縄文時代
12	梨ノ木原遺跡	西村山郡大江町大字本郷字梨ノ木原	縄文時代
13	古問屋遺跡	最上郡鮭川村川口字古問屋	縄文時代
14	古問屋2遺跡	最上郡鮭川村川口字古問屋	縄文時代
15	鶴田野2遺跡	最上郡鮭川村川口字鶴田野	縄文時代
16	荒川2遺跡	米沢市塩井町塩野	平安時代
17	上小菅遺跡	米沢市広幡町字上小菅592他	平安時代
18	六角櫓遺跡	南陽市高梨字六角櫓	平安時代
19	古屋敷遺跡	南陽市高梨古屋敷	平安時代
20	八幡田遺跡	鶴岡市大字馬町字八幡田	平安時代
21	西ノ川遺跡	鶴岡市大字下川字西谷地	平安時代
22	柳久瀬遺跡	東田川郡藤島町柳久瀬他	平安時代
23	郷崎遺跡	酒田市大字刈穂字郷崎46他	平安時代
24	嶽の腰2遺跡	飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰	縄文時代

25	嶽の腰3遺跡	飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰	縄文時代
26	嶽の腰4遺跡	飽海郡遊佐町大字杉沢字嶽の腰	縄文時代
27	石橋台1遺跡	飽海郡八幡町大字草津字石橋台2-44他	縄文時代
28	石橋台2遺跡	飽海郡八幡町大字草津字石橋台109	縄文時代
29	石橋台3遺跡	飽海郡八幡町大字草津字石橋台2-108他	縄文時代
30	物見森1遺跡	飽海郡八幡町大字上黒川字物見森12-1	縄文時代
31	物見森2遺跡	飽海郡八幡町大字上黒川字物見森12-1	縄文時代
32	物見森3遺跡	飽海郡八幡町大字上黒川字物見森12-1	縄文時代
33	物見森4遺跡	飽海郡八幡町大字上黒川字物見森12-1他	縄文時代
34	龍ヶ嶽遺跡	西置賜郡小国町大字足野水字龍ヶ嶽438-51他	縄文時代
35	黒藤館跡	西置賜郡白鷹町大字畔藤字館ノ内	中世
36	清水脇2遺跡	村山市大字土生田字清水脇1791-4他	縄文～平安時代

## 2 範囲・位置・名称の訂正を要する遺跡

1	大浦台遺跡	登録抹消(遺跡番号1038)	昭和53年3月「山形県遺跡地図」
2	金平B遺跡	登録抹消(遺跡番号2136)	昭和53年3月「山形県遺跡地図」
3	西谷地遺跡	名称の訂正(旧下川3)	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
4	西田面遺跡	名称の訂正(旧下川4)	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
5	上山崎遺跡	範囲名称の訂正(地藏田Bと中田浦Cを併合)	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
6	押切遺跡	範囲名称の訂正(古井戸遺跡を併合)	
7	地藏田遺跡	名称の訂正(旧地藏田A)	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
8	田中遺跡	名称の訂正(旧地藏田C)	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
9	中田浦遺跡	名称の訂正(旧中田浦A)	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
10	野田遺跡	名称の訂正(旧中田浦B)	平成4年3月「分布調査報告書(19)」
11	南野B遺跡	位置の訂正	昭和57年3月「分布調査報告書(9)」
12	小林II遺跡	範囲の訂正	平成2年3月「分布調査報告書(17)」
13	蚕桑畑中遺跡	範囲の訂正	昭和53年3月「山形県遺跡地図」
14	八反稻干原遺跡	範囲の訂正	平成3年3月「分布調査報告書(18)」
15	上野山C遺跡	範囲の訂正	昭和53年3月「山形県遺跡地図」

---

山形県埋蔵文化財調査報告書182集  
分布調査報告書(20)

平成4年度以降農林・土木事業他関係遺跡  
国営農地開発事業烏海南麓地区関係遺跡  
東北横断自動車道酒田線関係遺跡

平成5年3月25日 印刷

平成5年3月30日 発行

発行 山形県教育委員会

印刷 山形印刷株式会社

---